

一宮中学校部室棟改築工事

(建築主体)

図面リスト			図面リスト		
図番	図面名称	縮尺	図番	図面名称	縮尺
		A 3			A 3
A－01	建築工事特記仕様書（その1）		S－01	構造設計標準仕様書	
A－02	建築工事特記仕様書（その2）		S－02	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	
A－03	建築工事特記仕様書（その3）		S－03	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	
A－04	建築工事特記仕様書（その4）		S－04	基礎伏図　基礎リスト	1/150 1/ 30
A－05	建築工事特記仕様書（解体１）		S－05	壁　梁伏図	1/150
A－06	建築工事特記仕様書（解体2）		S－06	軸組図（１）	1/150
A－07	設計概要・内外仕上表		S－07	軸組図（２）	
A－08	床面積求積図・平均地盤面算定図	1/200	S－08	壁梁リスト　壁リスト	1/ 30
A－09	案内図		S－09	スラブリスト　階段配筋詳細図	1/ 30
A－10	敷地面積求積図	1/900	S－10	地階壁配筋図（１）	1/ 30
A－11	全体配置図	1/200	S－11	地階壁配筋図（２）	1/ 30
A－12	工事部分配置図	1/200	S－12	1階壁配筋図	1/ 30
A－13	平面図・屋根伏図	1/200	S－13	Y 1 通り壁配筋詳細図	1/ 30
A－14	天井伏図	1/200	S－14	X 2 通り壁配筋詳細図	1/ 30
A－15	立面図	1/200	S－15	X 1 通り壁配筋詳細図	1/ 30
A－16	断面図	1/200	S－16	擁壁配筋図	1/ 30
A－17	矩計図　1	1/ 30			
A－18	矩計図　2	1/ 30			
A－19	矩計図　3	1/ 30			
A－20	階段詳細図	1/ 50			
A－21	平面詳細図　1	1/ 50			
A－22	平面詳細図　2	1/ 50			
A－23	平面詳細図　3	1/ 50			
A－24	平面詳細図　4	1/ 50			
A－25	平面詳細図　5	1/ 50			
A－26	平面詳細図　6	1/ 50			
A－27	建具表　1	1/100			
A－28	建具表　2	1/100			
A－29	部分詳細図　1（手洗い流し・足洗い流し）	1/ 30			
A－30	部分詳細図　2（屋根）				
A－31	外構図　1（外構平面図）	1/200			
A－32	外構図　2（手すり詳細図）	1/200			
A－33	解体図　1（既存図）	1/200			
A－34	解体図　2（解体後平面図）	1/200			
A－35	解体図　3（植え込み詳細）　解体工事概要	1/200			
A－36	仮設計画図	1/200			

一宮中学校部室棟改築工事

建築主体

設計図

令和 8 年 4 月 (全 枚)

仕 様 書

I. 工事概要

敷地所在地	山梨県笛吹市一宮町末木801 一宮中学校
都市計画区域	都市計画区域内
防火指定	無指定
その他の地域地区	—
道路	—
敷地面積	㎡
用途地域	無指定
建坪率	70%
容積率	200%
建物の主要用途	部室 (更衣室)
工事の種類	新築
棟数	1棟
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階 地上1階建て
建築面積	150.40㎡
延べ床面積	226.80㎡
最高の高さ	4.53 m
最高の軒高さ	4.47 m
消防法上の有窓階・無窓階	有意
下水の放流形式	公共用下水道に放流

工事種目

図示の内容全て

II. 工事範囲

3. 工事種目

全てを工事範囲とする。

13. 工事種目

のうち の工事範囲は下記表のとおりとする。

ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

2. 仮設工事	工事範囲全て
3. 土工	
4. 地業工事	
5. 鉄筋工事	
6. コンクリート工事	
7. 鉄骨工事	
8. コンクリートブロック・ALCパネル押出成形セメント板工事	
9. 防水工事	
10. 石工事	
11. タイル工事	
12. 木工	
13. 屋根及びとい工事	
14. 金属工事	
15. 左官工事	
16. 建具工事	
17. カーテンウォール工事	
18. 塗装工事	
19. 内装工事	
20. ユニット及びその他の工事	

III. 建築工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版)」(以下、「**標仕**」という。)」による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の()内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の(別)は(5.3.7)による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また()内は製品名を示す。

□

(6) G印は「国等による環境物品等の調達に関する法律」の特定調達品目を示す。

1章 各章共通事項

項目

特記事項

①適用基準等

②工事実績情報の登録

③施工計画書

4.電気保安技術者

⑤施工条件

⑥発生材の処理等

⑦建築材料等

⑧化学物質を放散する建築材料等

⑨特別な材料の工法

⑩技能士

○建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修 最新版)

○工事写真の撮り方(改訂第二版) 建築編(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)

※適用する

(1.1.4)

○工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。

(1.2.2)

○施工計画の内容を変更する必要がある場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。

工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。

(1.3.3)

・要

・不要

○工事着手については監督職員と協議し着手する。

(1.3.11)

令和 年 3月 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4月

※現場説明書による

○構外搬出適切処理

(1.3.8)

本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。

(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること

(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること

(3) 安定的な供給が可能であること

(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること

(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること

(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること

なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関(社)公共建築協会 他)が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

建築材料の使用制限

建築材料等について、規制の対象となる範囲は下地、仕上げ材共にF☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けF☆☆☆のものを採用する(含む)を使用すること。

標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

(1.5.2)

通用工事種別

技能検定の職種

鉄筋工事

○鉄筋施工(鉄筋組立て作業)

コンクリート工事

○型枠施工

鉄骨工事

○とび

ブロック・ALCパネル工事

・ブロック建築

・ALCパネル施工

防水工事

・アスファルト防水工事作業

・合成ゴム系シート防水工事作業

・塗膜防水工事作業

○シーリング防水工事作業

石工事

・石材施工(石張り施工)

タイル工事

・タイル張り

木工

・建築大工

屋根及びとい工事

○建築板金(内外装板金作業)

金属工事

○内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)

左官工事

○左官

建具工事

○サッシ施工

○ガラス施工

・自動ドア施工

カーテンウォール工事

・カーテンウォール施工

・サッシ施工

・ガラス施工

塗装工事

○塗装(建築塗装作業)

内装工事

・プラスチック系床仕上げ工事作業

・ボード仕上げ工事作業

・表装(壁装作業)

○ 塗床

植栽工事

・造園

⑪電子納品

○工事関係図書を電子納品すること ただし監督員との協議による

○適用基準は以下の通りとする。 (作成・納品の基準、納品する資料の範囲等)

○書面による署名及び捺印の取り扱い(電子成果物の原本性保証に関する処置)

電子納品の導入にあたっては、従来の署名または捺印に代わる措置として、電子署名の導入が求められるが、電子署名の導入は現時点では困難であるため、

1) 受注者は電子媒体の内容の原本性を証明するために、電子媒体に署名又は捺印の上、提出する。

2) 共通仕様書に基づく各書面に対する署名又は捺印は、上記1)の措置を持って代えることができる

○設計図CADデータ貸与する。

○設計図CADデータの著作権は以下の者にある

貸与するCADデータを当該工事における施工図面又は完成図の作図のため以外に使用してはならない。

12.化学物質の濃度測定

(1.5.9)

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの5物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督員に提出すること。(測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。)

測定対象科学物質

厚生労働省の指針値(25℃の場合)

ホルムアルデヒド

0.08 ppm(100 μg/m³)

トルエン

0.07 ppm(260 μg/m³)

キシレン

0.20 ppm(870 μg/m³)

エチルベンゼン

0.88 ppm(3,800 μg/m³)

スチレン

0.05 ppm(220 μg/m³)

測定はバッシュ型採取機器により行う。

着工前の測定

・行う

測定対象室

・図示

全居室

測定箇所数

・図示

箇所

測定結果の報告

○作成する

・作成しない

(1.7.1～3)(表1.7.1)

○完成図

提出部数

◎各2部

・部(A3版金文字製本及び電子媒体(CD-R))

○施工計画書

提出部数

◎各1部

・部

○施工図

提出部数

◎各1部

・部

○保全に関する資料

提出部数

◎各1部

・部

下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格

撮影箇所数

提出部数

原板の大きさ(mm)

○カラー

※キャビネ版

※2

・6

※100×125以上

・カラー半切木製パネル

324×400(mm)

外部()内部()

※2

・電子データ

外部()内部()

※2

※200万画素以上

※300dpi以上

100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた供を提出し確認を受ける。

電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。

撮影業者 ※監督職員の承諾する撮影業者(ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする)(参考:(株)ガラスアイ 03-3896-7551)

⑬完成図等

⑭完成写真

⑮設備工事との取合い

設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

※現況GLを設計GLとする

○図示

⑯設計GL

⑰工事写真

2章 仮設工事

1.監督職員事務所

※設ける

規模

・1号

・2号

・3号

・4号

・5号

○設けない

・備品(必要備品は適宜設置)

○ 交通誘導員50人を見込む

②工事用水

③工事用電力

①埋戻し及び盛土

種類

・A種

◎B種

・C種

・D種

(3.2.3)(表3.2.1)

・建設汚泥から再生し処理土◎

②建設発生土の処理

※現場説明書による

○構外搬出適切処理

・構内指示の場所にたい積

・構内指示の場所に敷き均し

3章 土工

1.既製コンクリート杭地業

種類

※高強度プレストレストコンクリート杭

(4.3.1～2)

試験杭

杭径(mm)

杭長(M)及び種別

継手数

セット数

備考

本杭

杭頭の処理

※切断しない

先端部形状

※開放形

・閉そく平たん形

杭の継手

建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。

(4.3.6)

施工法

・特定埋込み杭工法

工法

・フレポーリング拡大根固め工法

・中掘拡大根固め工法

H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法

杭周固定液

・使用する

(4.3.4～5)

セメントの種類

6章コンクリート工事のセメントの種類による

6章 コンクリート工事

2.場所打ちコンクリート杭地業

③砂利地業

④床下防湿層

①鉄筋の種類

②鉄筋の継手

③鉄筋の最小かぶり厚さ

4.既製コンクリート杭の杭頭補強

5.最上階柱頭補強

⑥帯筋

7.壁開口部の補強

8.梁貫通孔の補強形式

9.機械吊上げ用フック

⑩圧接完了後の試験

5章 鉄筋工事

1.普通コンクリートの設計基準強度

2.レディーミクストコンクリートの類別

3.スランブ

4.セメントの種類

5.骨材の種類

6.混和材料

7.無筋コンクリート

8.コンクリート躯体表面の処理

9.断熱材兼用型枠

コンクリートの種類及び設計基準強度

()種かつ()N/mm²以上

鉄筋の種類

5章鉄筋工事の鉄筋の種類による

(4.5.4)

堀削工法

・アースドリル工法(・安定液使用 ・無水堀削)

(4.5.5)

・リバース工法

・オールケーシング工法(孔内の水張 ・行う ・行わない)

(4.5.6)

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法

・底底杭工法(※安定液使用 ・)

側壁測定

・行う() ・行わない

(4.5.4)

セメントの種類

6章コンクリート工事のセメントの種類による

◎再生クラッシュラン[図]

・切込み砂利及び切込み碎石

(4.6.3)

施工箇所

※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ビット下を除く)

(4.6.5)

種類の記号

呼び名(mm)

・SD295A

※D16以下

・SD345

※D19以上

呼び名19mm以上の柱、梁の主筋

◎ガス圧接

○重ね継手

(5.3.4)

最小かぶり厚さは目地底から算定する。

・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所

・柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面

標仕表5.3.6の値に加える寸法(mm)

※10

・A形

・B形

※図示

※行う

・行わない

(別2.1)

※H形(口は除く)

(別2.2)

一般壁

・A形

※B形

・図示

(別4.4)(別表4.3～4)

耐震壁

※図示

※H形

・MH形

・M形

(別7.1)(別表7.1～3)

・A種

・B種

・C種

(ヶ所)

◎超音波探傷試験

○外観試験

(5.6.10)

(6.2.2)

設計基準強度Fc(N/mm²)

施工箇所

※21

※I類

・II類

(6.2.1)(6.4.1～2)(表6.2.1)

18cm

構造特記を優先する

(6.2.4)

※普通ボルトランドセメント又は混合セメントのA種

・高炉セメントB種[図]

()

普通ボルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱

Xd

352J/g以下

28d

402J/g以下

アルカリシリカ反応による区分

※A

・B(※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m³以下)

混和材

仕様箇所

屋外タタキ部分を除く全体

コンクリート躯体防水剤

躯体軸部

高性能AE減水材

設計基準強度

※18N/mm²

(6.14.1)

外装タイル後張り面の躯体表面の処理

MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目無しを行う場合は、水圧50N/㎡以上かつ、2.5分/㎡以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。

コンクリートの増打ち厚さ

※20mm

※施工範囲は図示による。

適用及び適用箇所について

標仕19章内装工事9断熱材による。

概要

T I M E

作成者

工事名称

一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)

図面名称

特記仕様書 (その1)

縮尺

図番

A-01

1章
建具工事

1. 見本の製作等

・特殊な建具の仮組(建具符号：) (表16. 1. 4)

②アルミニウム製建具

外部に面する建具 (表16. 2. 2) (表16. 2. 4) (表16. 2. 1)

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示
・B種	S-5				※図示
・C種	S-6	A-4	W-5	特記による	※図示

断熱等級
枠・障子

ガラス

表面処理 ※B-1種 ・B-2種(・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) (表14. 2. 1)

屋内建具

表面処理 ※C-1種又はB-1種
・C-2種又はB-2種(・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) (表14. 2. 1)

防虫網

網の種類 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)
形 式 ※外部可動式 ・固定式 (表16. 2. 3)

建具の性能及び構造の適用は建具表による
製造所標準仕様による (表16. 3. 2) (表16. 3. 3)

④鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は特記による
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸 ・適用あり (表16. 4. 2) (表16. 4. 1)

5. 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による (表16. 5. 2)

6. ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ ※HL程度 ・鏡面仕上げ (表16. 6. 4)
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ(補強あり) (表16. 6. 5)
特定防火設備の戸 ・適用あり (表16. 6. 1)

7. 木製建具

かまち戸の樹脂 かまち() 鏡板() (表16. 7. 2)

ふすまの上張り (表16. 7. 3～10)
※新巻の子又はビニル紙程度(押入等の表面は除く) ・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (表16. 7. 2)
※規制対象外 ・第三種

⑧建具用金物

マスターキー ※製作する ・製作しない (表16. 8. 4)
建具用金物 (表16. 4. 6) (表16. 5. 6)
錠類はシンダー箱錠(レバーハンドル)とする (表16. 8. 1～5)
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける (表16. 8. 2)

吊金物
・丁香(内部建具については、軸を鉄芯としてもよい)
・ピボットヒンジ
・フロアヒンジ

9. 自動ドア開閉装置

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア ・シングルドア	・マツトスイッチ ※光線スイッチ ・熱線スイッチ ・電子マツトスイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ

・凍結防止措置(適用箇所は建具表による)

10. 自閉式上吊り引戸装置

品質規格 ※標仕表16. 10. 1による
製造所標準仕様による (表16. 10. 2～3)

11. 重量シャッター

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能()N/m ²
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能()N/m ²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (表16. 11. 2)

危害防止機構
※障害物感知装置(自動閉鎖型)
・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない (表16. 11. 2)

12. 軽量シャッター

開閉形式	※手動式 ・上部電動式(手動併用) (表16. 12. 2) (表16. 12. 1)
スラット 材質	※塗装溶融塗鉛めっき銅板 ・銅板 (表16. 12. 3)
形状	※インターロックキング形 ・オーバーラッピング形 (表16. 12. 4)
ガイドレール等	※鋼板製 ・ステンレス製SUS304(厚さ1. 5mm) (表16. 12. 2)
耐風圧性能	()N/m ²

13. オーバーヘッドドア

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形 ・溶融塗鉛めっき銅板	
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形 ※ステンレス鋼板 (SUS304)	
・ファイバークラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	
		・バーチカル形	

耐風圧性能 ()N/m²

⑭ガラス

※建具表による (表16. 14. 2)
・ガラスブロック 標仕16. 14. 5による (表16. 14. 5)

表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調	防火性能
・正方形			※クリア	※無し
・長方形				・有リ

ガラス留め材及び溝 (表16. 14. 2) (表9. 7. 1)

建具の種類	材 種
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガasket(FIX部はシーリング材)
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。 (表16. 14. 3)

板ガラスをはめ込む溝の大きさ
標仕16. 14. 3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は(社)日本建築学会 JASS 17ガラス工事13. 1納まり寸法標準)によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する

名 称	種 類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り ・外張り	飛散防止率 D1

品質 JIS A 5759Iによる

2章
カーテン・ウオール工事

2. メタルカーテン

設計図書による規定他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14Iによる。 (表17. 2. 2)

カーテンウオール材料の種類

種 類	規格等
※アルミニウム製	※標仕16. 2. 3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウオール方式

・方立方式
・バックマリオン方式 (・単純2辺支持構法 ・SSG構法)
・スパンデル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式 (・ノックダウン方式 ・ユニット方式)

シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は標仕表9. 7. 1による (表9. 7. 2) (表17. 2. 2) (表9. 7. 1)

下記以外は標仕表9. 7. 1による

被着体の組合せ	記 号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス		
ガラス	石、タイル		
ガラス	ガラス		

構造用ガasket ※適用しない (表17. 2. 2)

断熱材 ※適用しない (表17. 2. 2)

製品の寸法許容差 ※標仕表17. 2. 1による (表17. 2. 3) (表17. 2. 1)

製造所標準製作規定寸法許容差による

取付け

アルミニウムの表面処理 (表17. 2. 5) (表17. 2. 2～3) (表17. 2. 3) (表14. 2. 1)

種 別	色彩等
・A-1種	・B-1種 無着色
・A-2種	・B-2種 ※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー
・着色塗膜	塗装材料()焼付け方法()コート()ベーク

耐風圧性能 (表17. 1. 3)

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧 N/m²以上及び負圧 N/m²以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離(H)	たわみ量	状 態
※4M以下	※±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形 有害な変形が起こらないこと

耐震性能 (表17. 1. 3)

設計用震度 水平方向(K_h) ※1. 0
垂直方向(K_v) ※0. 5

建物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	状 態
鉄骨造	※±(1/100)×h以上	※部材の脱落、ガラスの破損及び 主要部材に有害な歪みが起こらないシーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造	※±(1/200)×h以上	
鉄骨鉄筋コンクリート造		

水密性 ・W-4 ・W-5 (表17. 1. 3)
気密性 ・A-3 ・A-4 (表17. 1. 3)

耐火性能 ※適用しない ・適用する(時間、施工箇所：図示)
映像調整 ※行わない ・行う(建具表による)

製造所 性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
設計図書による規定他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS 14Iによる。 (表17. 3. 2)

コンクリートの種類及び品質
※標仕17. 3. 2Iによる

コンクリートの種類 設計基準強度(F_c) 所要スランプ(cm)

鉄筋	※SD295A
取付け用金物の表面処理(鉄の亜鉛めっき)及び材質 (表14. 2. 3) (表14. 2. 2)	
金物種類及び部位	内 部 外 部
PC板打込み金物	※E種 ※A種
PC板打込み取付けボルト	※E種 ※ステンレスボルト
2次ファスナー	※A種
取付けボルト	※E種 ※A種
レベル調整ボルト	※E種 ※A種

上記以外はカーテンウオール製作所の仕様による

シーリング材料
下記以外は標仕表9. 7. 1による (表9. 7. 2) (表17. 3. 2) (表9. 7. 1)

施工箇所	記 号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウオール板間目地			

断熱材 ※適用しない
・適用する(種類： 厚さ(mm)： 施工箇所： 図示)
製品の寸法許容差 ※標仕表17. 3. 1による (表17. 3. 3) (表17. 3. 1)

製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ ()

耐火材料

施工部位	種 別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能 (表17. 1. 3)

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧 N/m²以上及び負圧 N/m²以上に対して安全であること。 (表17. 1. 3)

耐震性能 (表17. 1. 3)

設計用震度 水平方向(K_h) ※1. 0
垂直方向(K_v) ※0. 5

建物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	状 態
鉄骨造	※±(1/100)×h以上	※部材が損傷せず、破損脱落もしない。
鉄筋コンクリート造	※±(1/200)×h以上	ガラス等の破損もない
鉄骨鉄筋コンクリート造		シーリングは補修程度

3章
塗装工事

①材 料

②素地ごしらえ

③錆止め塗料塗り

4. 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)

5. クリアラッカー塗り(OL)

6. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)

⑦耐候性塗料塗り(DP)

8. つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EF-P)

9. 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)

10. 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り(EP-T)

11. ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)

12. オイルステイン塗り(OS)

13. 木材保護塗料塗り(WP)

2. ビニル床シート張り
ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

・ビニル床シート
JIS A5705のJIS表示認証製品 (表19. 2. 1～4) (表19. 2. 1～2)

種 類	記号	色 柄	厚さ(mm)	特殊機能	工 法
※発泡層のないもの	※FS ・TS	・無地 ・マーブル	※2. 0 ・2. 5	・帯電防止 ・帯動荷重	※熱溶接 ・突付け
・発泡層のあるもの	・HS ・KS				

・化粧ビニル床 JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明表層を有した
木目又は石目調のもの
種類の記号 色 柄 厚さ(mm) 特殊機能 工 法
FS ・木目調 ※2. 0 ・帯電防止 ※熱溶接
・石目調 ・2. 5 ・帯動荷重 ・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

・ビニル床タイル
JIS A5705のJIS表示認証製品
種類 種 類 記号 寸法 厚さ(mm) 特殊機能
※コンポジション ※KT ※300×300 ・2. 0 ・帯電防止
・ビニル床タイル ・FT ・300×300 ・2. 0 ・帯電防止
・ホモジニアス ・450×450 ・帯動荷重
・ビニル床タイル

・特殊機能床材 帯電防止
・帯電防止性能評価(JIS A 1445)1. 2～3. 1程度
又は耐電圧(JIS L 1023)3kV以下
又は帯電防止性能評価(JIS A 1445)3. 2～5. 1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0. 1×1010オーム未満
又は帯電防止性能評価(JIS A 1445)5. 2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0. 1×107オーム未満
耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

・視覚障害者用床タイル

材 質	寸 法(mm)
・塩化ビニル系 ・せつ器質タイル系	300×300

・ビニル幅木

材 種	※軟質	・硬質	・溶接
高 さ(mm)	※60	・75	・100
厚 さ(mm)	※1. 5	・2. 0	

・接着剤 JIS A 5536(床仕上げ材接着剤)により、
種別は表19. 2. 1Iによる施工箇所に応じたものとする。
ホルムアルデヒド放散量は特記による。特記がなければF☆☆☆☆とする。 (表19. 3. 1～4) (表19. 3. 1)

・織じゅうたん

種 別	バイル形状	色柄等	備 考
・A種	・カットバイル	※無地	
・B種	・ループバイル	・柄物(標準品)	
・C種	・カット、ループバイル併用		

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 (表19. 3. 3～4) (表19. 3. 2)

・タフテッドカーペット

バイル形状	バイル長(mm)	工 法	備 考
・カットバイル	※5～7	※全面接着工法	下敷き材を敷く。
・ループバイル	※4～6	・グリッター工法	
・レベルラフバイル	※4		
・カット、ループ併用			

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下

4章
床工事

④合成樹脂塗床

5. フローリング張り

6. 畳敷き

7. せっこうボード
その他ボード及び合板張り

8. 壁紙張り

9. 断熱・防露

・タイルカーペット (表19. 3. 2)

バイル形状	種 類	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備 考
※ループバイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6. 5	粘着はく離形接着剤を使用する。
・カットバイル				
・カット、ループ併用				

耐電性 ・人体帯電圧3kV以下(フリーアクセスフロア敷設範囲) (表19. 4. 1～4) (表19. 4. 1～8)

仕上りの種類
・弾性ウレタン樹脂系塗床材 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
○エポキシ樹脂系塗床材
・薄膜流し展べ工法(・平滑 ・防滑)
○厚膜流し展べ工法(○平滑 ・防滑)
・樹脂モルタル工法(・平滑 ・防滑)

・単層フローリング (表19. 5. 1～7) (表19. 5. 1～6)

種 別	樹種	厚さ(mm)	工 法	塗装
・フローリング	※ナラ	※15 幅75 長さ900以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り
・フローリングボード	※ナラ	※15 303×303	・接着工法	・オイルステイン
・フローリングブロック	※ナラ	・6 ・8 ・9	・接着工法	塗りの上ワックス
・モザイクパーケット	※ナラ	・6 ・8 ・9	・接着工法	・生地のままワックス ・既塗装品

・複層フローリング

種 別	樹種	種別	防湿処理	工 法	塗装
・複合1種フローリング	※ナラ	・A種 ・B種	・行う ・行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り
・複合2種フローリング	・ヒノキ	※C種			・オイルステイン塗りの上
・複合3種フローリング					ワックス
・大型積層フローリング	・ナラ	・ナラ	・行う ・行わない	・特殊張り工法 (体育館床)	ワックス ・既塗装品

畳の種類 ・A種 ・B種 (表19. 6. 2) (表19. 6. 1)
・C種 ・D種()

(表19. 7. 2～3) (表19. 7. 1～5)

種 類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25
・けい酸カルシウム板	0. 8FK	タイプ2(無石棉)(・6 ・8 ・)
・ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ(※9(不燃)・12 ・) ・凹凸タイプ(※12(不燃)・15・19 ・)
・ロックウール化粧吸音板(軒天併用)	DR(凹凸) DR(軒天) DR(軒天凹凸)	※フラットタイプ 9(不燃) ・凹凸タイプ(※12 ・15)(不燃)
・せっこうボード	GB-R	※12. 5(不燃) ・9. 5(準不燃)
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9. 5(不燃) 化粧紙(下地張り用) 化粧紙(トラバーチン模様)
・シージングせっこうボード	GB-S	12. 5(不燃)
・強化せっこうボード	GB-F	12. 5(不燃) 15. 0(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	9. 5
・化粧せっこうボード(木目)	GB-D	9. 5(不燃)幅400mm程度 模様が(※径目 ・板目) 専用下地材付き
・難燃合板		・生地、透明塗料塗り(ラワン合板程度) ・不透明塗料塗り(しな合板程度)
・メラミン樹脂化粧板	MDF	JIS K 6903Iによる 厚さ1. 2 ・3 ・7 ・9 ・12
・ミディアムデンシティファイバーボード		・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18
・単板張り		・無研磨板 (スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (スタンダード ・テンバード)
・パーティクルボード	HB	・無研磨板 (スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (スタンダード ・テンバード)
・ハードボード(素地)		・無研磨板 (スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (スタンダード ・テンバード)
・インシュレーションボード	IB	A級(・天井仕上 ・内装仕上) ・9 ・12 ・15 ・18

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音性の遮音シール材
※適用する ・適用しない (表19. 7. 1)

種 類	JISの記号	厚さ(mm)
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	※25
※グラスウール吸音ボード32K	GW-B	※25

8. 壁紙張り (表19. 8. 2)

施工箇所	紙	繊維(織物)	プラ(ビニル)	その他化学繊維	無機質	防火性能	備 考
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

素地ごしらえ (表18. 2. 4～5) (表18. 2. 7)

モルタル、プラスター面 ※B種 ・A種(施工箇所：)
せっこうボード面 ※B種 ・A種(施工箇所：)
壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 (表19. 8. 2)

9. 断熱・防露 (表19. 2～3)

種 類	施工箇所	厚さ(mm)	品質等
・押出法ポリスチレンフォーム保温板(スキン層付)	※2種b	※一般部 ・25 ・100 ・25 ・	特定フロンを使用しないもの
・現場発泡断熱材	※断熱材補修部分 ・一般部	―― ・15 ・40	特定フロンを使用しないもの 難燃性 ・3級 ・2級
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁(図示の範囲) ※40以下	製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する 断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0. 676以上 (m ² ・k/w)
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの	

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種

摘要 		T I M E	作 成 者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺
				図面名称 特記仕様書 （その３）	図番 A－03
			承認		
T・L・A・W・R					

6章
アスベスト含有建材の除去

2. 除去工事共通事項

専門工事業者
アスベスト含有建材の除去を直接行う専門業者については、工事に相応した技術有することを証明する書類を監督員に提出する。

作業主任者の選出
石綿作業主任任技能講習又は平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者技能講習を終了したものの中から、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。

除去作業者の教育
作業者は、就業時に石綿則第27条に基づく教育を受けたものとする。
また、一般健康診断、じん肺健康診断を受診したものとし、肺機能に異常のないものとする。

特別管理産業廃棄物管理責任者の選出
排出業者は、特別管理産業廃棄物管理責任者の資格を有するものを選任し管理しなければならない。
ただし、アスベスト含有成形板の処理工事を除く。

表示及び掲示
作業場など見やすい箇所に次の表示及び掲示を行う。
※アスベスト作業主任者名と職務内容
※関係者以外立入禁止
※喫煙・飲食の禁止
※「アスベスト除去作業中」の表示
※アスベストの有害性
※取り扱い上の注意事項
※使用すべき保護具

周辺住民の見やすい箇所に以下の表示を行う。
※「建築物等の解体等の作業に関するお知らせ(労働基準監督署への届出内容、粉じん飛散抑制装置、曝露防止措置等)」

保護具、保護衣
作業内容に応じた、呼吸用保護具、保護メガネを使用すること。

除去したアスベスト含有物の保管、運搬等
※他の内装材、廃棄物等と分別保管
※保管場所での飛散防止を施す。また、アスベスト成形版を運搬する場合、運搬車両の荷台全体をシート等で覆い、飛散防止に努める。
※アスベスト等の保管場所である旨の表示を行う。

アスベスト含有吹き付け材の除去工事
・行う
※行わない

適用範囲
※図示

作業場等の隔離等
※作業場は以下によるものとし負圧除じん機にて負圧状態により飛散防止をすること。

隔離シートの性能
※床面
※壁面
ただし、(財)日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術(除去)」の審査証明書(以下、「審査証明書」という。)を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

セキュリティゾーンの設置
※下表による
※更衣室
※洗浄室
※前室
ただし、(財)日本建築センターの「建設技術審査証明事業」による「吹き付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術(除去)」の審査証明書(以下、「審査証明書」という。)を取得している工法と同等の飛散防止処理技術を有する工法とすることができる。その際には監督員の承諾を得ること。

除去物及び汚染等
処理方法
※密封処理(二重袋梱包)
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、除じん機フィルタについても密封処理を行う。
・セメント固化

アスベスト含有保温材の除去工事
※行う
・行わない

適用範囲
※工事対象範囲

養生等
※養生シート等を用いて区画し、場外への飛散防止を行う。

掻き落とし、破砕、切断による除去方法
※行わない
・行う…この場合は改修標準<9. 1. 3>「アスベスト含有吹き付け材の除去」によること。

除去工法
※粉じん飛散抑制剤などにより湿潤化したあとに、手ばらしによること。
※除去物については改修標準<9. 1. 3(2)>により、密封処理とする。

アスベスト含有成形板の除去工事
※行う
・行わない

適用箇所
※図示(仕上表)

養生
※作業場は、シート等により囲うこと。

除去工法
※作業場は、散水等により湿潤化し、手ばらしによること。
※やむを得ず破壊しなければならない場合には、十分に湿潤化した状態で行うこと。
※除去物については、粉じんの飛散防止に努め、特に破砕されたアスベスト含有成形板については、湿潤化の上、丈夫なプラスチック袋に入れる等の飛散防止措置を講ずること。

⑥その他

「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル」(令和3年3月)
厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課
環境省水・大気環境局大気環境課
・上記マニュアルに従い事前調査実施・届出・アスベスト除去を行うこと。

工事区分表

項 目		A	E	M	別途		備 考	項 目		A	E	M	別途		備 考
躯体関係															
1. RC造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○													
	補強を要する型枠材及び取付け	○													
	補強を要しない型枠材及び取付け	○													
	貫通孔・開口部の墨出し	○													
	貫通孔・開口部の補強	○													
	スリーブ・型枠の穴埋め	○													
2. S・SRC造の梁貫通孔	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強														
	使用されたスリーブの穴埋め														
	予備スリーブの穴埋め														
3. その他	トラヌ・ビット類(ふたを含む)														
	湧水・汚水ビット<RC造各種水槽														
	同上用防水・マンホール・ダクト等														
	避雷設備・同接地工事														
	外壁材の壁開口・補強														
	厨房排水溝														
	厨房グリース阻集器														
	オイルサーピスタンの防油堤														
	浄化槽撤去(上部)	○													
仕上げ関係															
1. 鉄鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○													
	補強を要しないボードの切り込み														
	開口部の墨出し														
2. 可動間仕切り	切り込み及び補強														
	位置ボックス														
3. つりボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○											
4. 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○													
	ウエザーカバー、ベントキャップ	○													
	換気扇(取付枠共)	○													
5. 湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台	○													
	フード	○													
	ミニキッチン	○													
6. 浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット	○													
	既設浴槽(ふたを含む)														
	浴室及び便所の床排水金物														
	脱衣棚、下足入れ														
7. 便所まわり	洗面カウンター	○													
	化粧鏡	○													
	衛生器具ユニット	○													
	身障者用手摺	○													
8. その他	2重ビット及びトレンチのマンホールふた														
	機器搬入用フック ビーム														
	チェンブロック														
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ														
	点検口(天井・床下)	○													
	排煙口等の天井仕上材の取付け														
	消火器BOX設置工事	○													
	煙突底部排水目皿・排水管														
	くつふきマット・玄関マット・自動扉マット部														
	床排水金物(目皿共)・排水管														
	くつ洗い流し部排水金物・排水管														
	ルーフドレン	○													
	雨水配管	○													
	雨水利用設備集水管														
	消火器														
屋外排水設備・外構															
1. 雨水	屋外雨水排水設備	○													
	樹及び樹ふた	○													
2. 雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備	○													
	樹及び樹ふた	○													
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○													
3. その他	ボール時計	○													

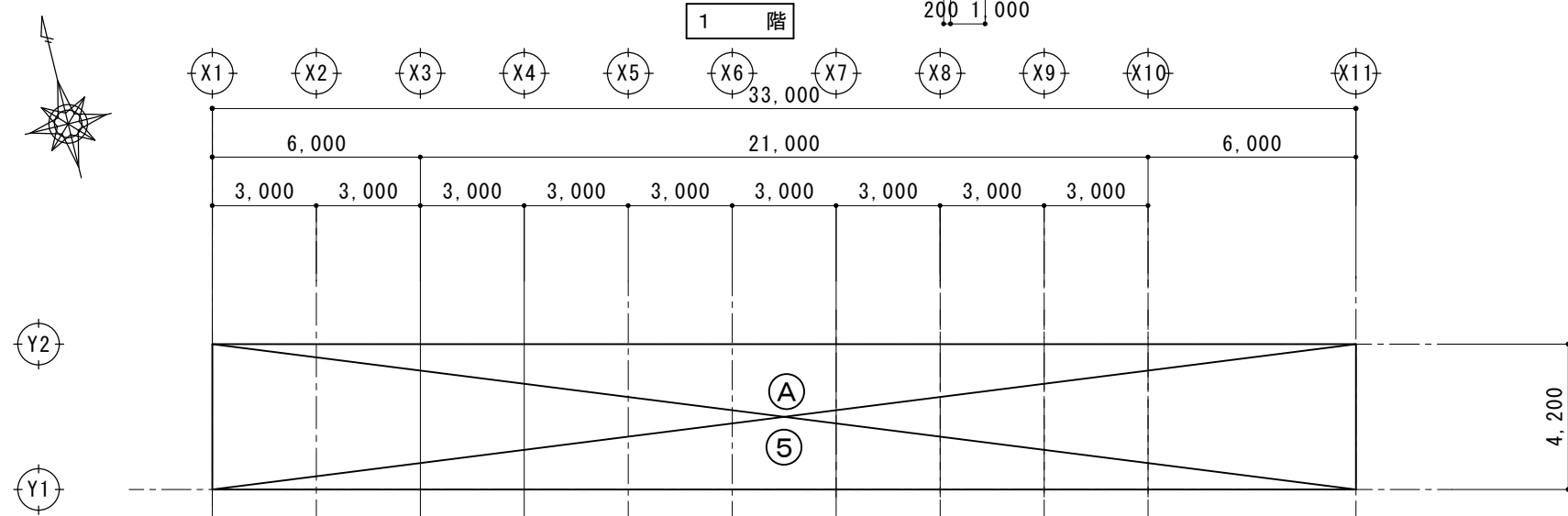
摘要		T I M E		作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺
				承認	図面名称 特記仕様書（解体 2）	図番 A—06

設計概要	工 事 名 称	一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）		外部仕上表	屋 根	均しモルタル t 20 カラー G L 鋼板 t：0.4 完全嵌合式立平葺き@455 アルミ押し出し型吊り子工法@750	
	建築主 住所・氏名	笛吹市石和町市部 7 7 7 笛吹市長 山下政樹			樋	軒 樋：両面カラー G L 鋼板 t 0.5 落ち葉除け一体型軒樋	
	構造用途 工事種別	鉄筋コンクリート造 地下 1 階 地上 1 階				縦 樋：カラー V P 100φ	
	敷 地 の 地 名 地 番	所在：山梨県笛吹市一宮町末木801 一宮中学校			軒 裏	コンクリート打ち放し・補修の上・防水型複層塗材 E	
	用途地域等	無 指 定			外 壁	コンクリート打ち放し・補修の上・防水型複層塗材 E	
					基 礎 ・ 巾 木	モルタル金コテ G L +300	
	床面積	226.80 m ²			外 部 開 口 部	スチールドア アルミサッシュ	
	建築面積	150.40 m ²			屋 外 階 段	床面：モルタル金コテ押さえ スラブ下：コンクリート打ち放し・補修の上・防水型複層塗材 E ステンレス手すり（S U S 3 0 4）	

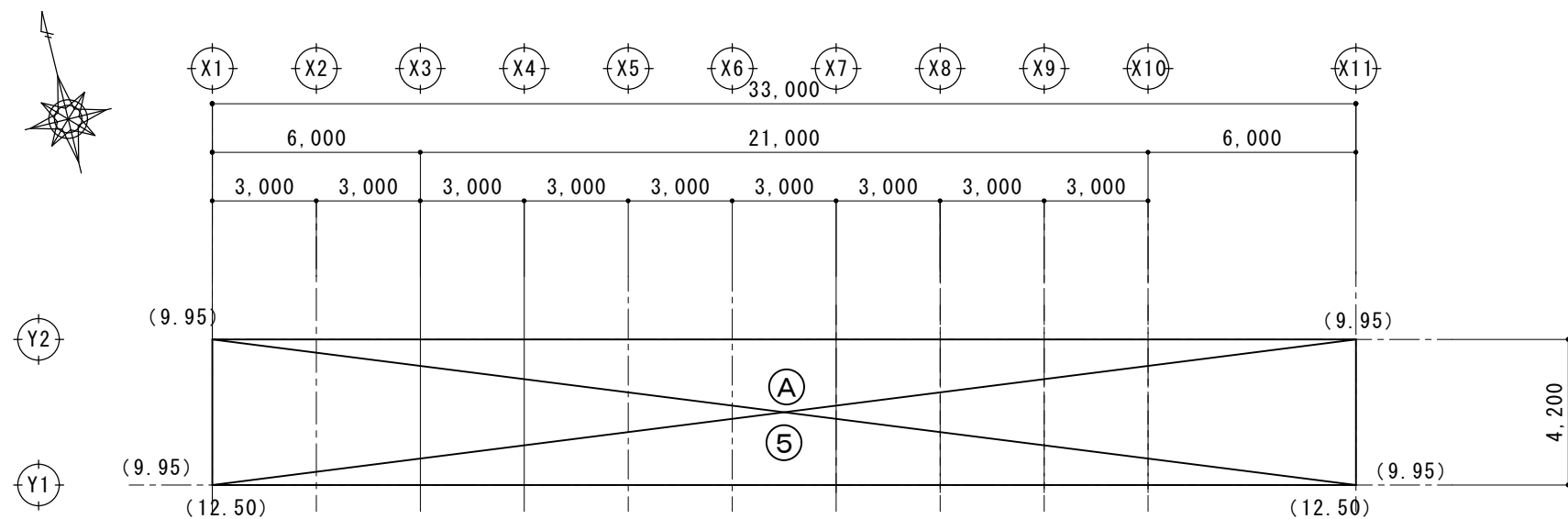
内部仕上表

室 名	床		巾 木		壁		天 井		備 考
部室 1 ～ 11 （更衣室）	下地	コンクリート土間	下地	壁と同じ	下地	コンクリート打ち放し	下地	コンクリート打ち放し	スチールラック（W：3,600 H：1,800 D：600）計11セット A-04図参照：壁面取り付け
	仕上	モルタル金コテ押さえ カッター目地切（深さ30程度）（縦横×1）	仕上	壁と同じ	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	
男 子 便 所	下地	コンクリート土間 モルタル金コテ押さえの上	下地	モルタル金コテ H：100	下地	コンクリート打ち放し	下地	L G S（19型）	天井点検口（アルミ枠）450×450
	仕上	塗床：合成樹脂塗床（エポキシ樹脂系厚幕流し）	仕上	塗床	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	化粧石膏ボード t 9.5	
女 子 便 所	下地	コンクリート土間 モルタル金コテ押さえの上	下地	モルタル金コテ H：100	下地	コンクリート打ち放し	下地	L G S（19型）	天井点検口（アルミ枠）450×450
	仕上	塗床：合成樹脂塗床（エポキシ樹脂系厚幕流し）	仕上	塗床	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	化粧石膏ボード t 9.5	
踏 込	下地	コンクリート土間	下地	壁と同じ	下地	コンクリート打ち放し	下地	コンクリート打ち放し	
	仕上	モルタル金コテ押さえ カッター目地切（深さ30程度）（縦横×1）	仕上	壁と同じ	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	
倉庫 1 ～ 3	下地	コンクリート土間	下地	壁と同じ	下地	コンクリート打ち放し	下地	コンクリート打ち放し	スチールラック（W：3,600 H：1,800 D：600）計3セット A-04図参照：壁面取り付け
	仕上	モルタル金コテ押さえ カッター目地切（深さ30程度）（縦横×1）	仕上	壁と同じ	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	
倉庫 4	下地	コンクリート土間	下地	壁と同じ	下地	コンクリート打ち放し	下地	コンクリート打ち放し	スチールラック（W：3,600 H：1,800 D：600）計2セット A-04図参照：壁面取り付け
	仕上	モルタル金コテ押さえ カッター目地切（深さ30程度）（縦×2 横×1）	仕上	壁と同じ	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	仕上	コンクリート打ち放し面補修（吹付下地用程度）	

摘要		T I M E	作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺
			承認	図面名称 設計概要・内外仕上表	図番 A－07



地	階
---	---

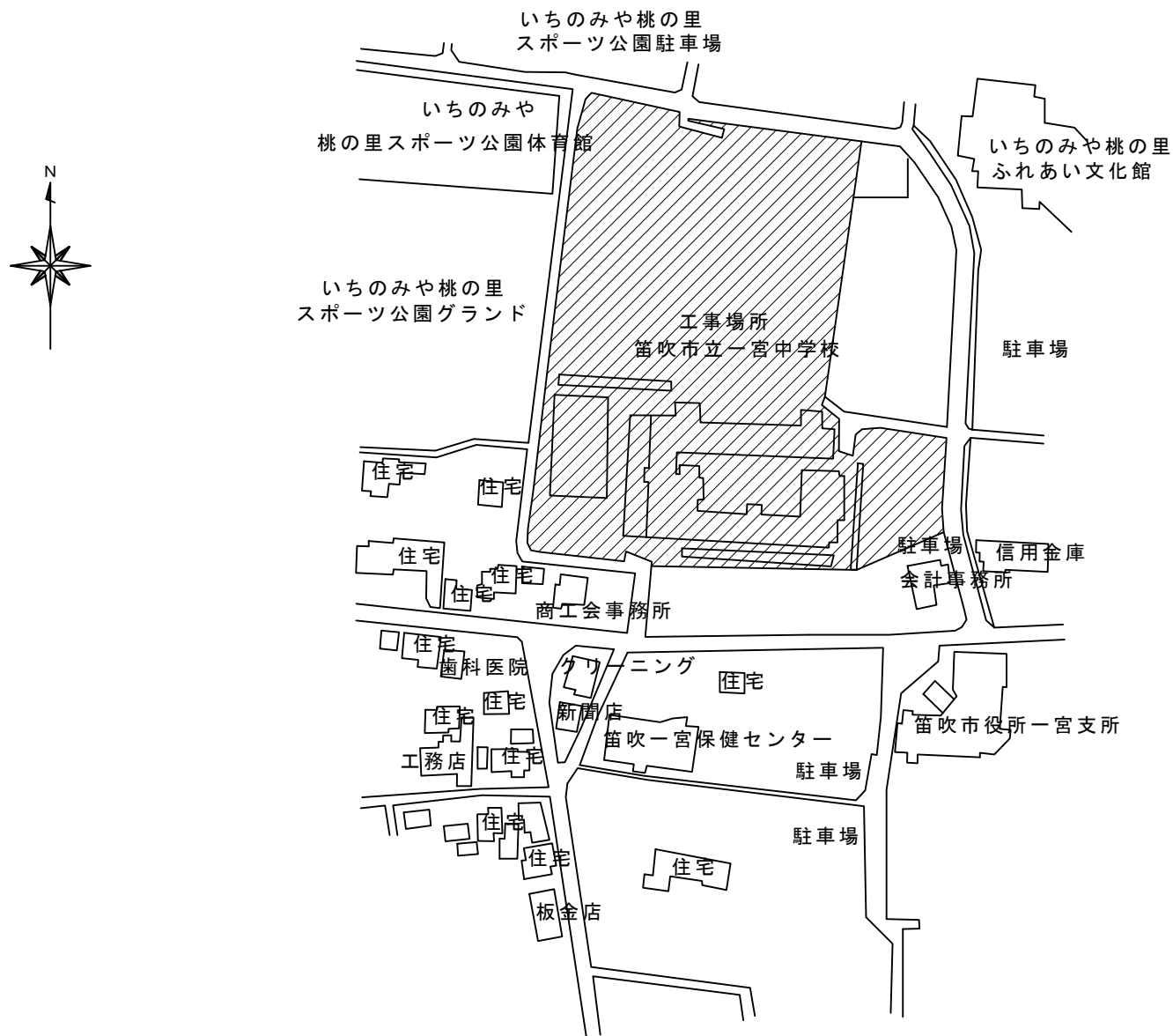


面積集計表

①	地階床面積	33.00×4.20	$= 138.60$	m^2
②	1階床面積	21.00×4.20	$= 88.20$	m^2
	延べ床面積	$138.60 + 88.20$	$= 226.80$	m^2
③	建築面積 参入部分	$(33.00 + 0.20) \times 0.20$	$= 6.64$	m^2
④	参入部分	0.20×0.20	$= 0.04$	m^2
⑤	参入部分	$(21.00 + 0.20) \times 0.20$	$= 4.24$	m^2
⑥	参入部分	$0.20 \times (4.20 + 0.20)$	$= 0.88$	m^2
⑦	参入部分	33.00×4.20	$= 138.60$	m^2
合 計				150.40 m^2

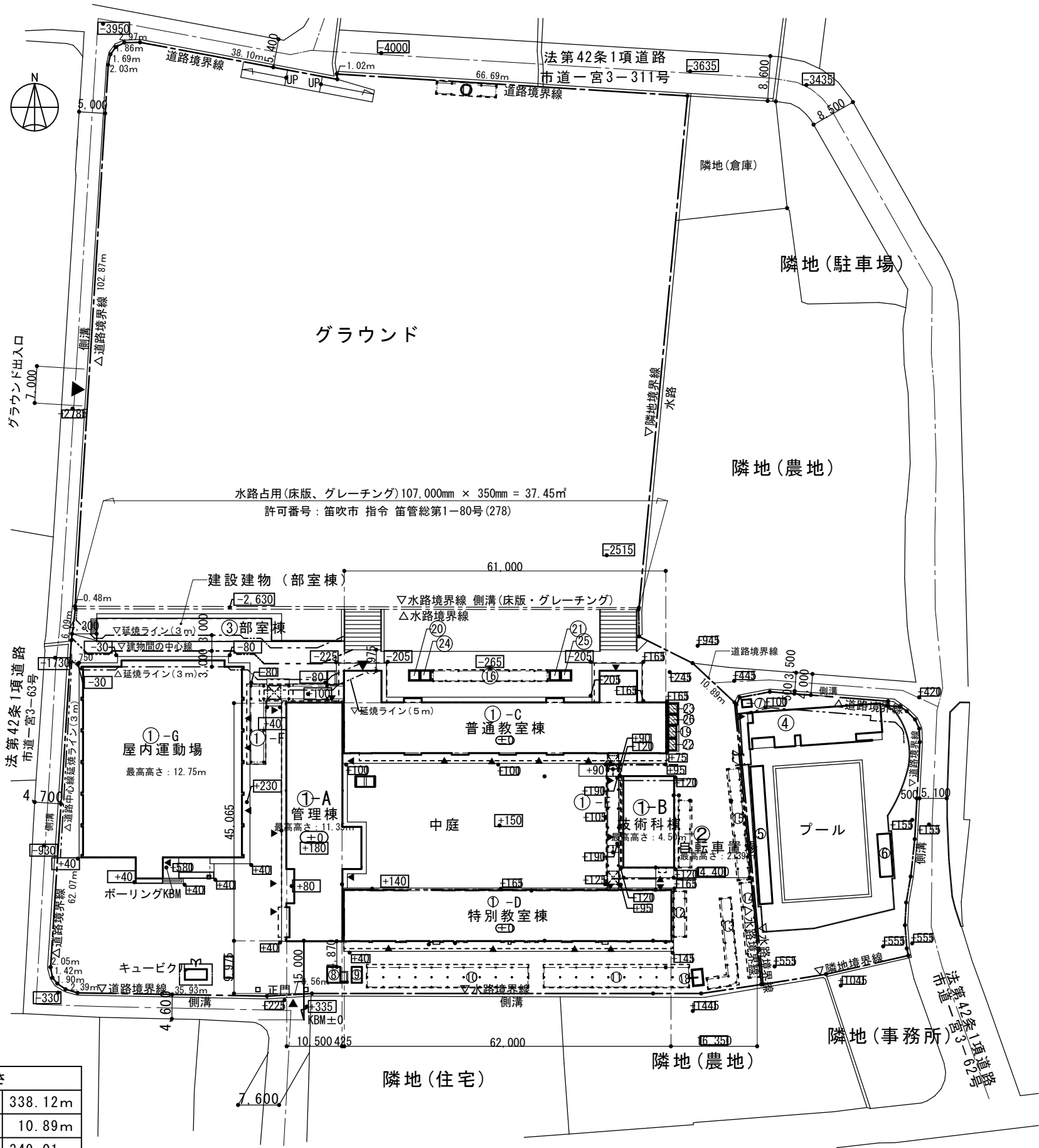
$$\text{平均地盤面} = \frac{33.00 \times 9.95 + 4.20 \times 2 \times 9.95 + 33.00 \times 12.50}{33.00 \times 2 + 4.20 \times 2} = \frac{824.43}{74.40} = 11.08$$

摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/200
						承認		



摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 案内図	縮尺
								図番 A-09
						承認		

接道長さ	
市道一宮3－63号	338.12m
市道一宮3－62号	10.89m
合計	349.01m



※西、北側の道路斜線については、適用距離を越えているため、検証対象外

単位 (m2) 単位 (m)				
敷 地 内 建 築 物 面 積 表				
	建築面積	床面積	延床面積	最高高さ
申請面積合計 (㎡)	150.40	226.80	226.80	4.53
既存面積合計 (㎡)				
敷地内面積合計 (㎡)	4191.50	7103.3	6676.52	

					単位 (m2)	単位 (m)	
既 存 建 物 面 積 表							
記号	建物名	構造	階数	建築面積	床面積	延床面積	最高高さ
1-A	管理棟	R C 造	3 階	506.80	1,156.87	1,156.87	11.35
1-B	技術科棟	S 造	平屋	163.40	163.40	163.40	4.50
2	自転車置場	S 造	平屋	26.46	26.46	0.00	2.39

記号	建物名	構造	階数	建築面積	床面積	延床面積	最高高さ
1-C	普通教室棟	R C造	3階	704.88	1,823.00	1,823.00	13.55
1-D	特別教室棟	R C造	3階	619.00	1,893.14	1,893.14	14.54
1-E	渡り廊下・1	S造	平屋	52.26	0.00	0.00	3.62
1-F	渡り廊下・2	S造	平屋	40.08	0.00	0.00	3.92
1-G	屋内運動場	S造	平屋	1,220.00	1,123.52	1,123.52	12.75

3	部室棟 除却						
4	プール管理棟	R C造	平屋	171.36	153.26	153.26	5.96
5	プールサイド シェルタ・1	軽量S造	平屋	63.52	63.52	63.52	2.36
6	プールサイド シェルタ・2	軽量S造	平屋	19.78	19.78	19.78	2.36
7	プールLPG庫	軽量S造	平屋	2.34	2.34	2.34	2.20
8	ボイラー庫	B造	平屋	7.50	7.50	7.50	3.50
9	L P G庫	B造	平屋	5.85	5.85	5.85	3.50

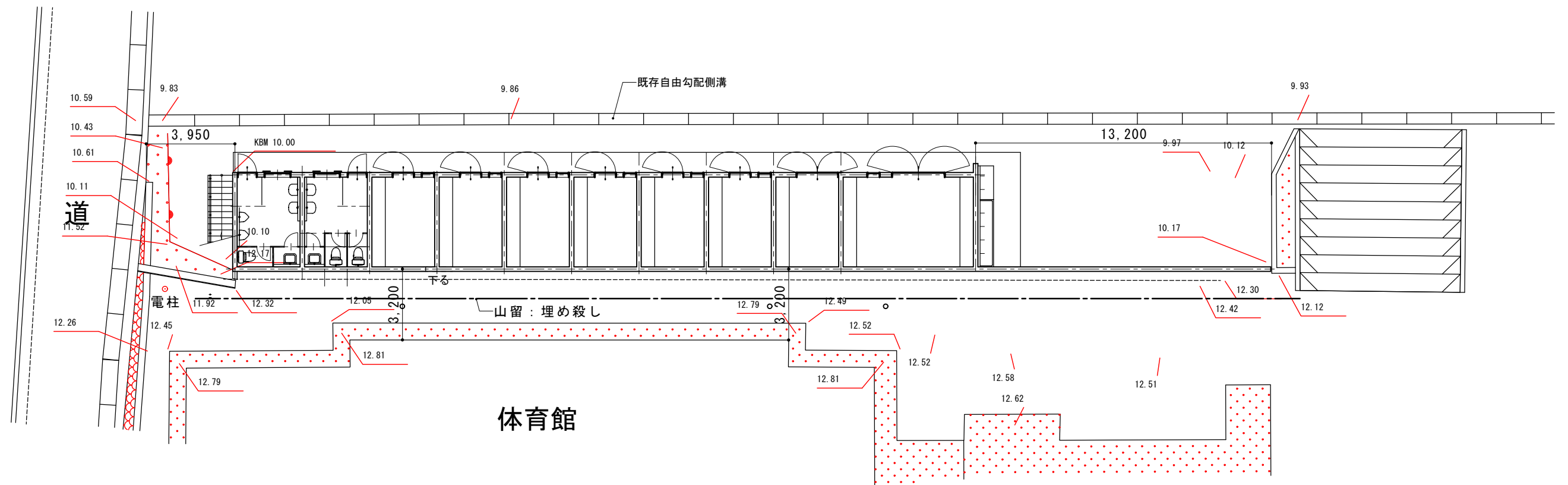
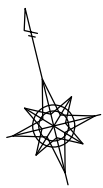
10	自転車置場・1	軽量S造	平屋	112.85	112.85	5.83	2.56
11	自転車置場・2	軽量S造	平屋	101.56	101.56	0.00	2.56
12	自転車置場・3	軽量S造	平屋	17.68	17.68	0.00	2.39
13	自転車置場・4	軽量S造	平屋	35.64	35.64	0.00	2.45
14	自転車置場・5	軽量S造	平屋	34.04	34.04	0.00	2.26
15	自転車置場・6	軽量S造	平屋	40.95	40.95	0.00	2.20
16	自転車置場・7	軽量S造	平屋	41.04	41.04	0.00	2.33
17	自転車置場・8	軽量S造	平屋	22.40	22.40	0.00	1.90

18	物置・1	軽量S造	平屋	5.45	5.45	5.45	2.15
19	物置・2	軽量S造	平屋	3.30	3.30	3.30	2.20
20	物置・3	S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40
21	物置・4	S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40
22	物置・5	S造	平屋	3.22	3.22	3.22	2.20
23	物置・6	軽量S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40
24	物置・7	軽量S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40
25	物置・8	軽量S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40
26	物置・9	軽量S造	平屋	3.29	3.29	3.29	2.40

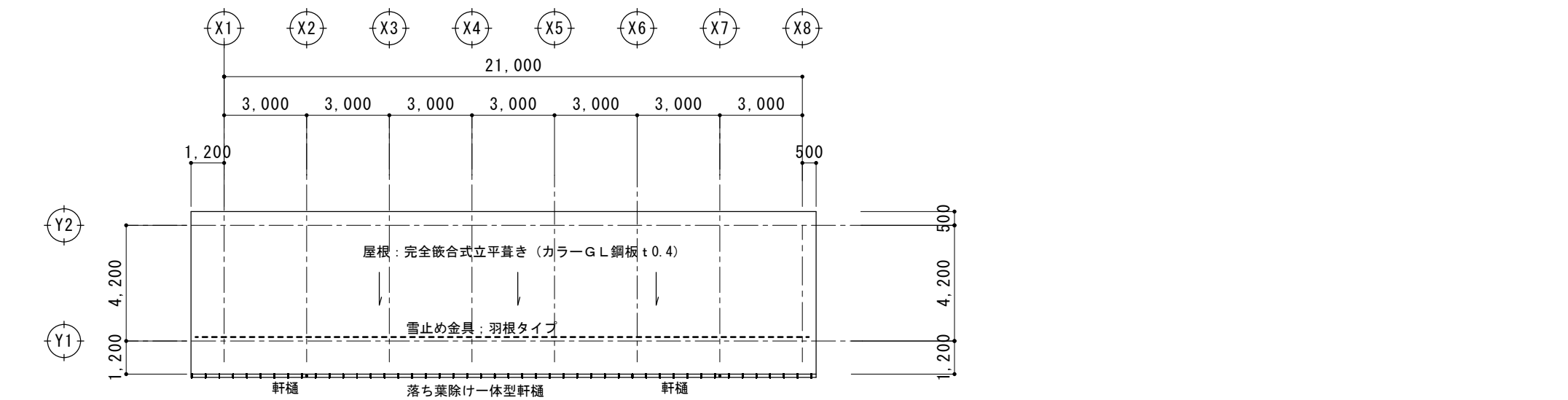
既存面積合計 (㎡)		4041.10	6,876.51	6,449.72	
------------	--	---------	----------	----------	--

				単位 (m2)	単位 (m)		
除 却 建 築 物 面 積 表							
記号	建物名	構造	階数	建築面積	床面積	延床面積	最高高さ
3	部室棟	R C造	平屋	182.24	182.24	182.24	3.00
除却建物面積合計 (㎡)				182.24	182.24	182.24	3.00

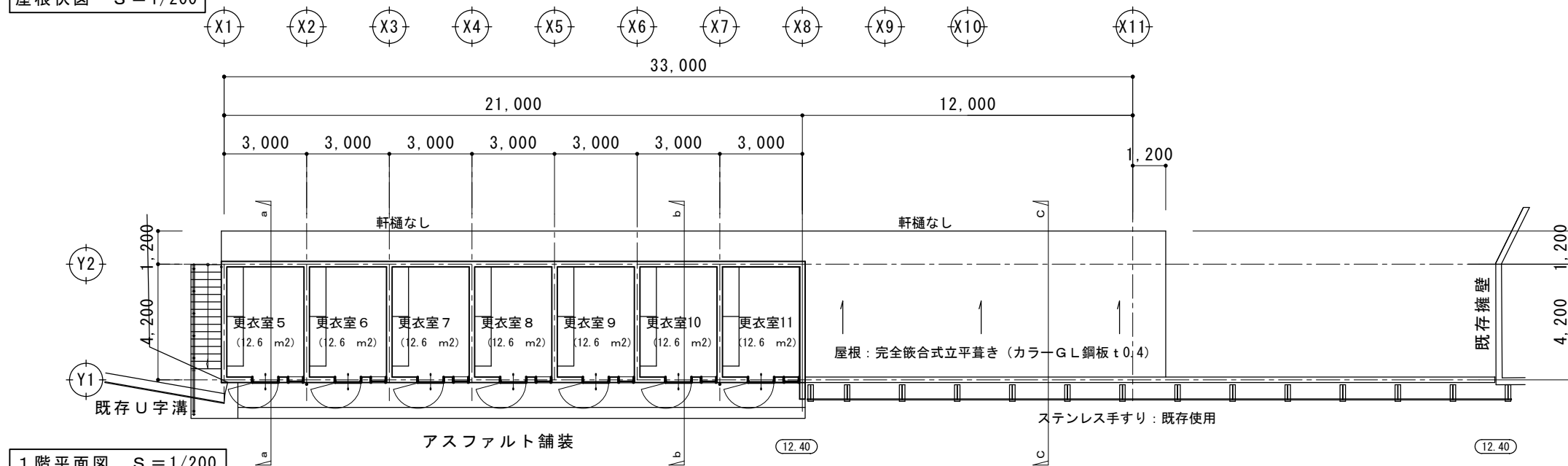
摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/900
							図面名称 全体配置図	図番 A－11
						承認		



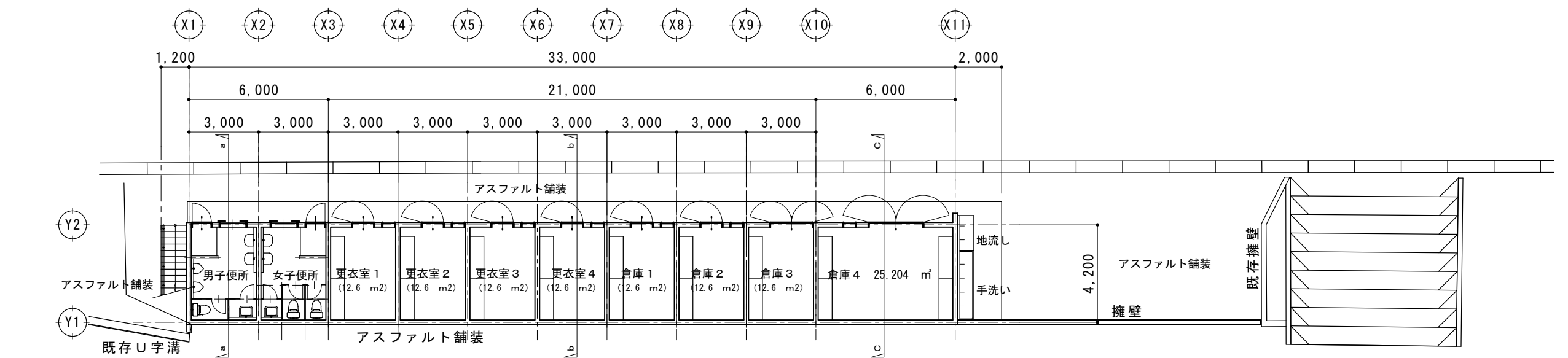
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/200
					承認	図面名称 工事部分配置図	図番 A-12



屋根伏図 S = 1/200

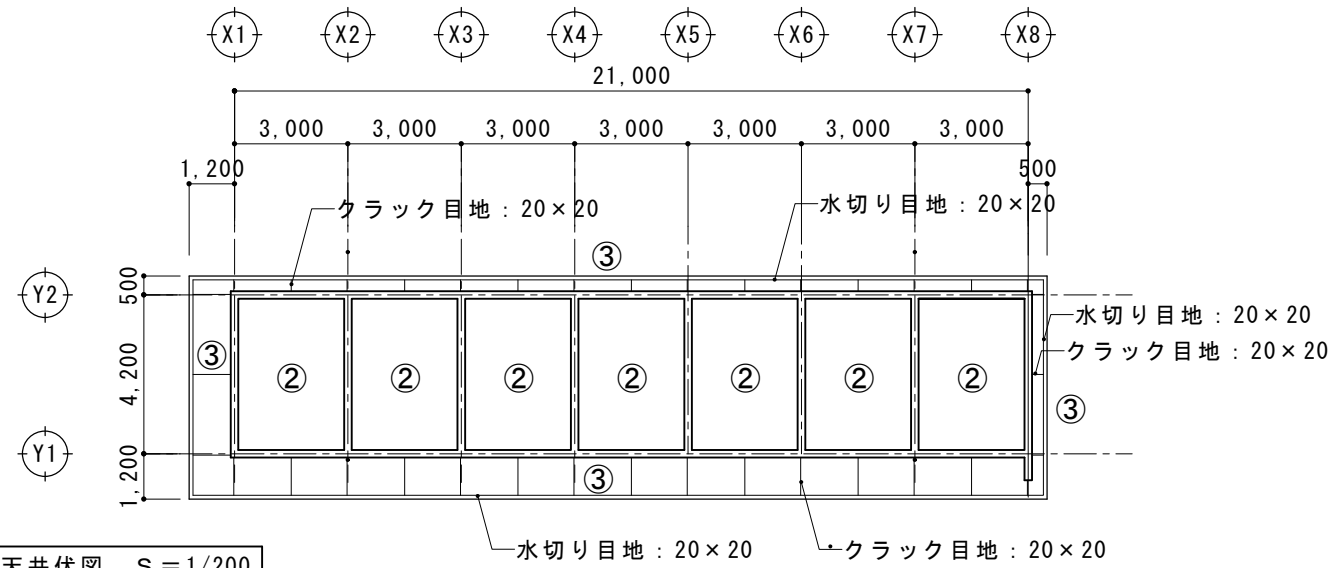


1階平面図 S = 1/200

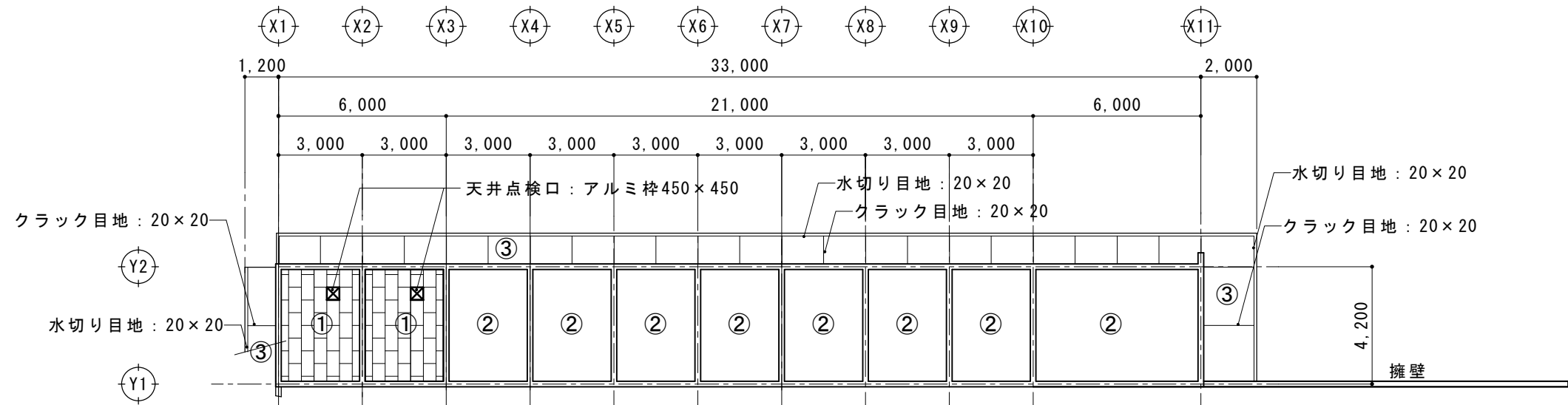


地階平面図 S = 1/200

摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)	縮尺 1/200
					承認	図面名称 平面図・屋根伏図	図番 A - 13



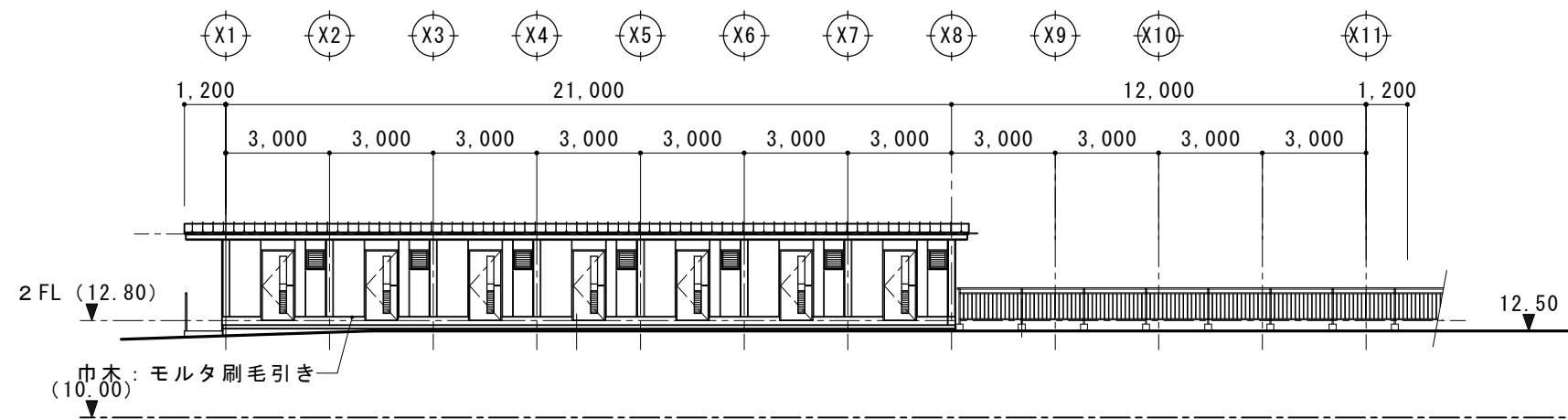
1階天井伏図 S=1/200



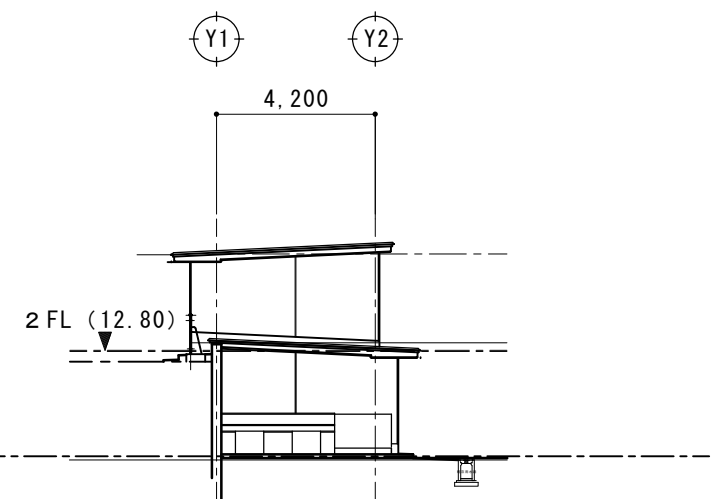
地階天井伏図 S=1/200

①	軽鉄天井下地
	化粧石膏ボード張り: 910×455×9.5 塩ビ見切縁
②	コンクリート打ち放しのまま (打ち放し用合板)
③	コンクリート打ち放し・防水型複層塗材 E

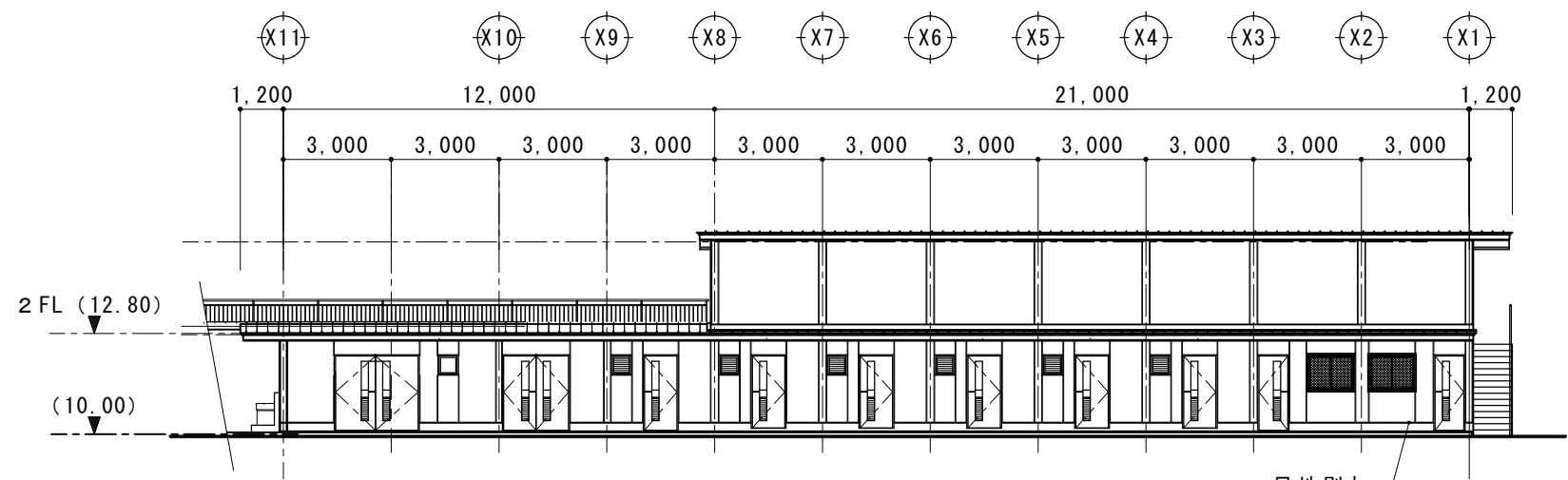
摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)	縮尺 1/200
						承認	図面名称 天井伏図	図番 A-14



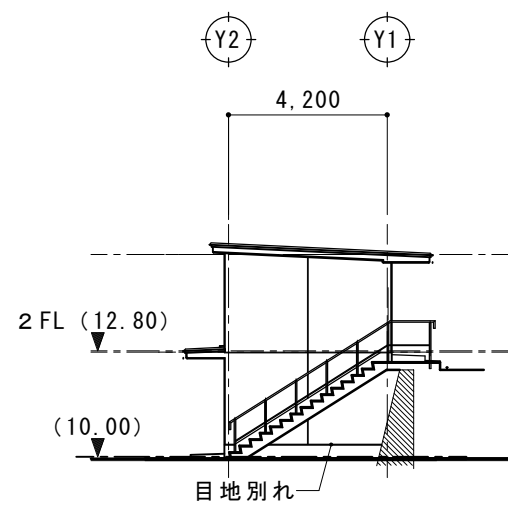
南 面



東 面

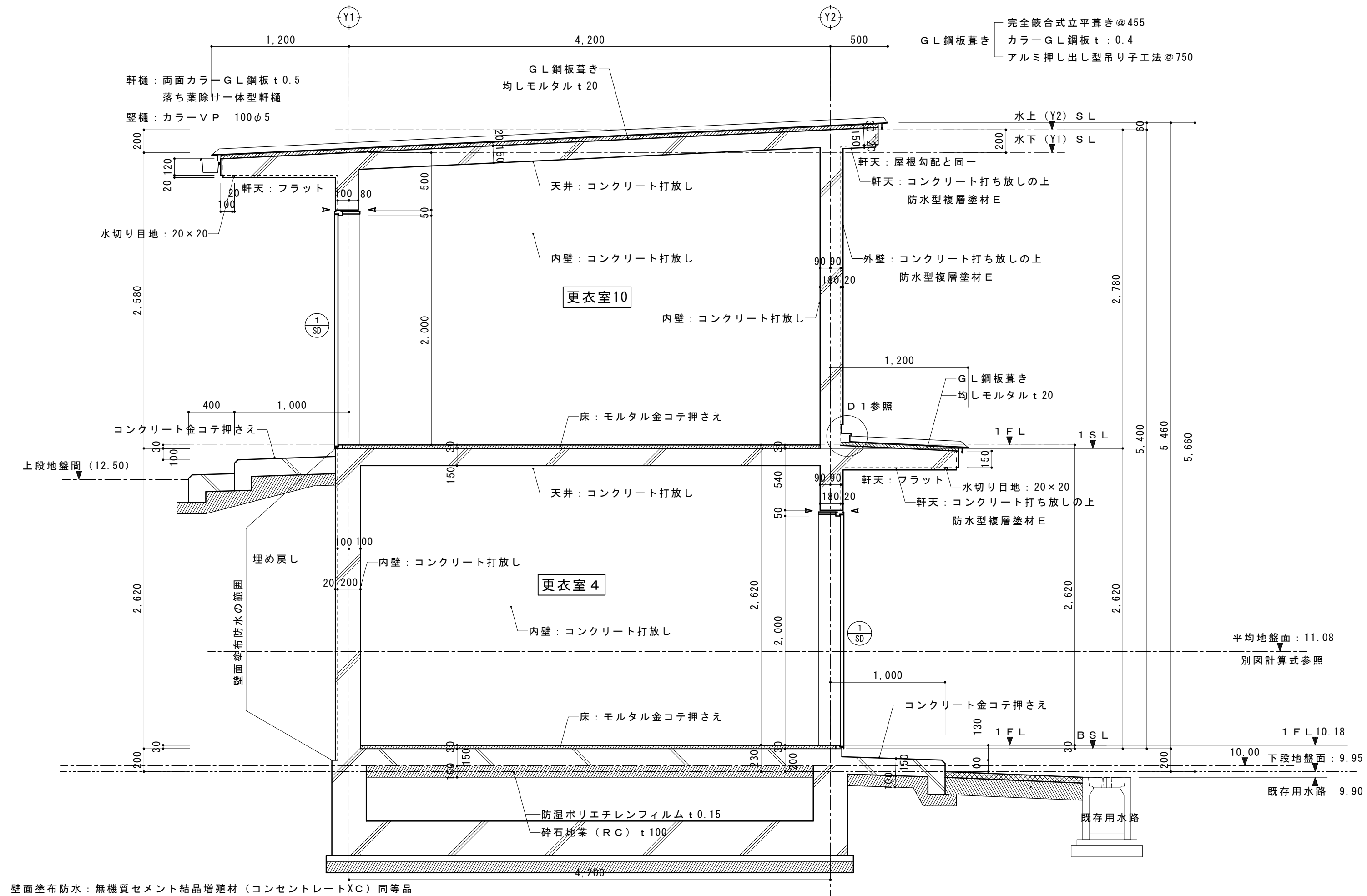


北 面

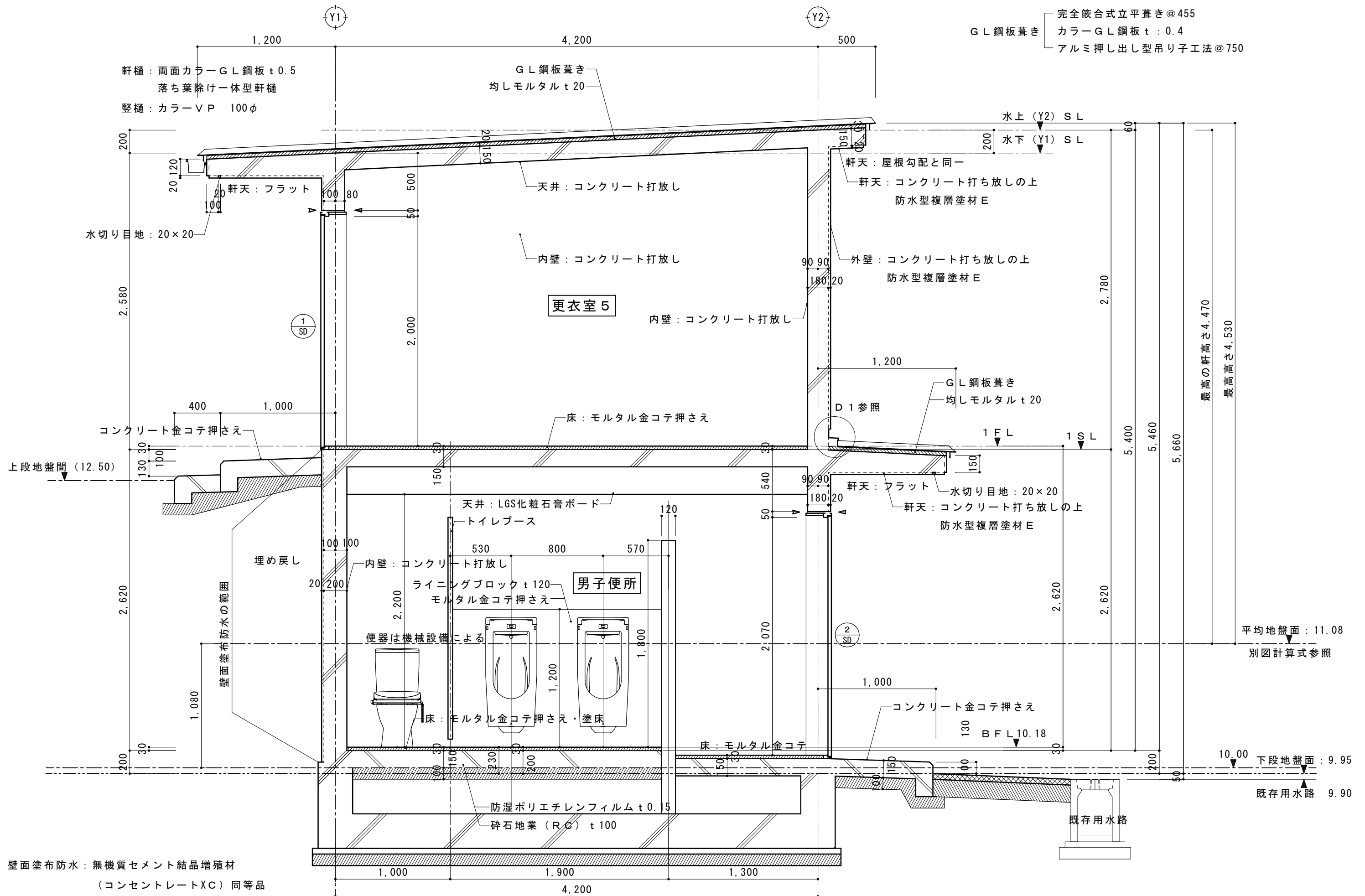


西 面

摘要		T I M E					作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/200
							承認		
								図面名称 立面図	図番 A－15

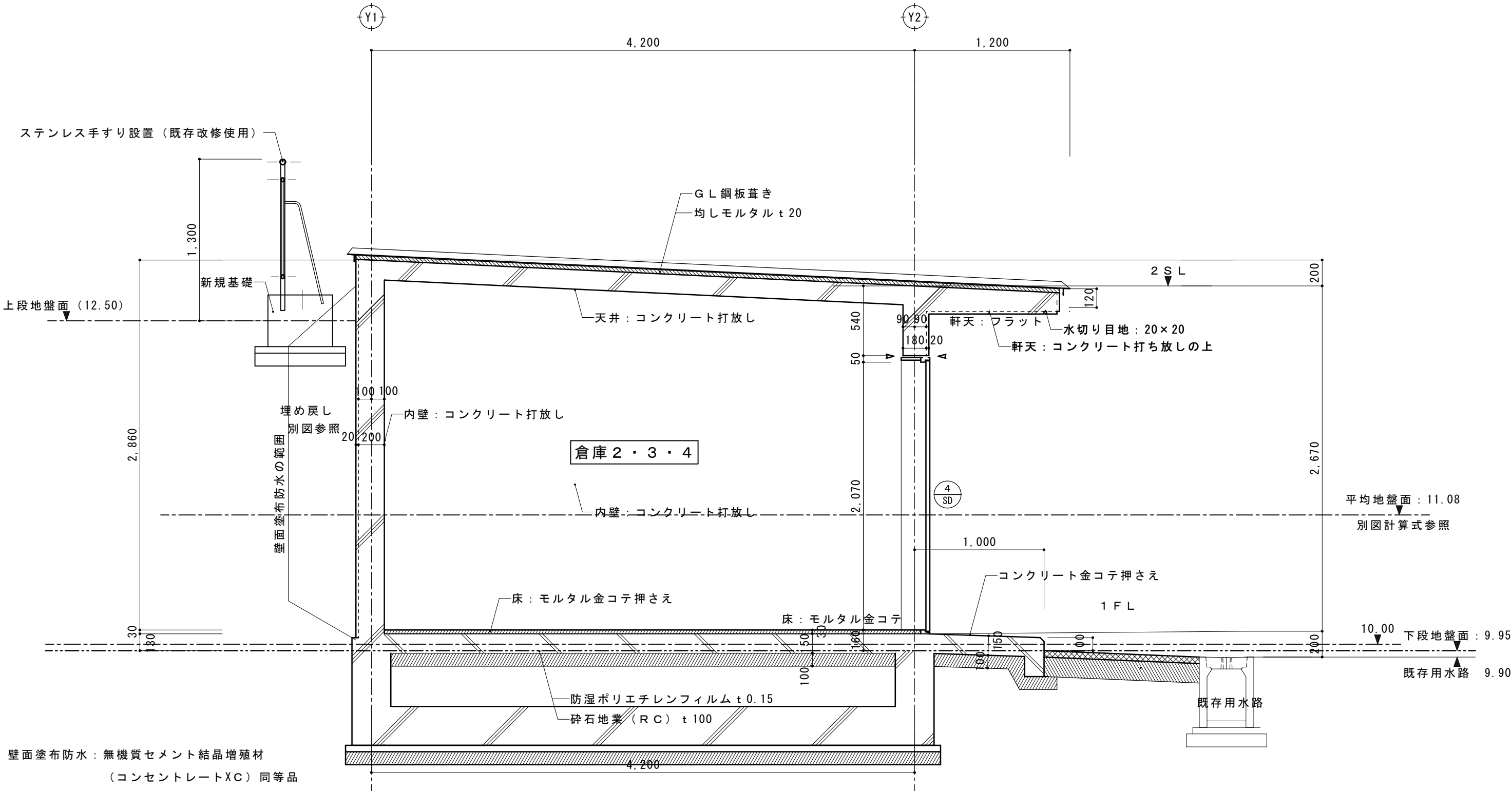


摘要		T I M E		作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 30
				承認	図面名称 矩計図 1（b-b）	図番 A-17



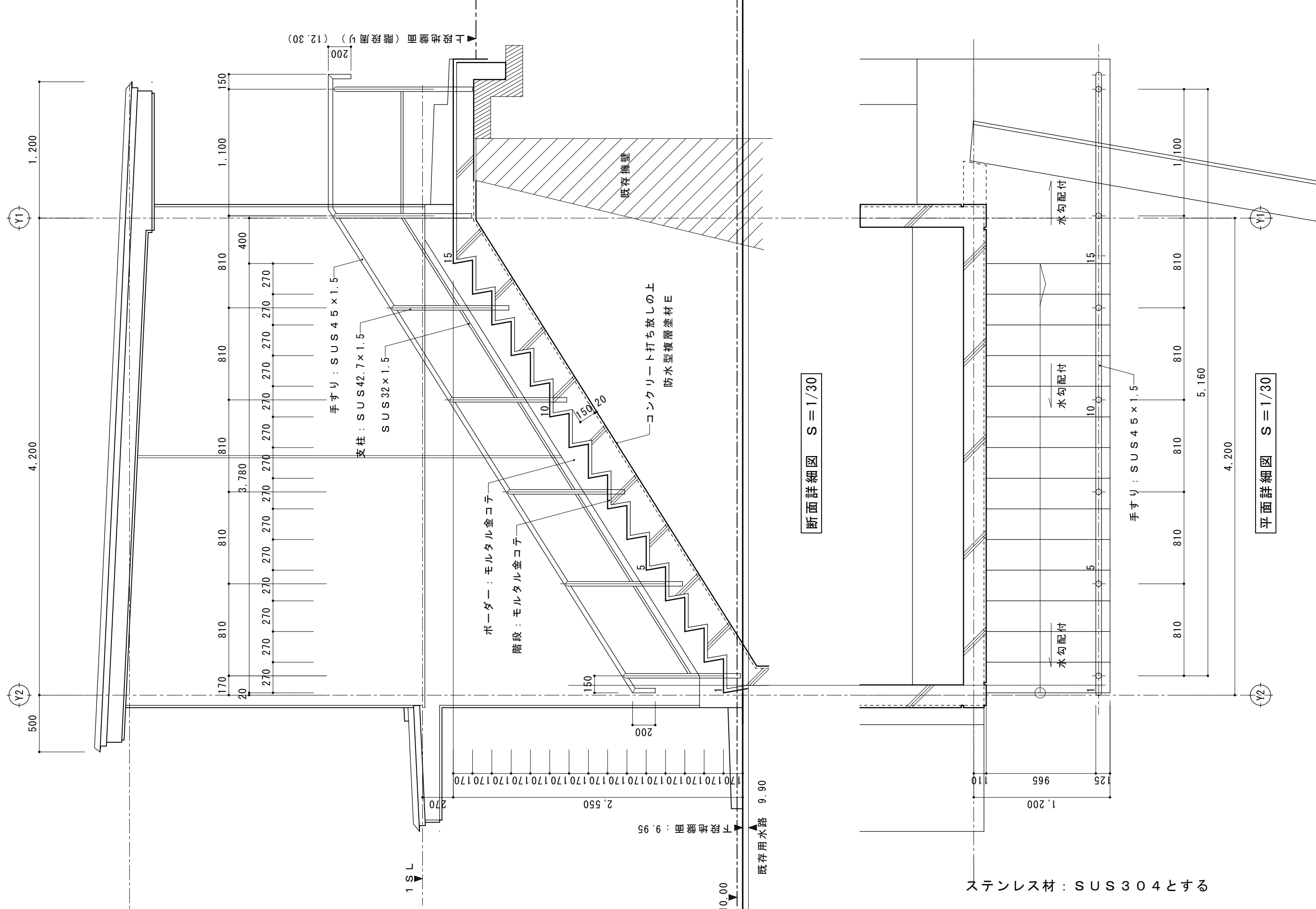
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 30
					承認	図面名称 矩計図 2（a-a）	図番 A-18

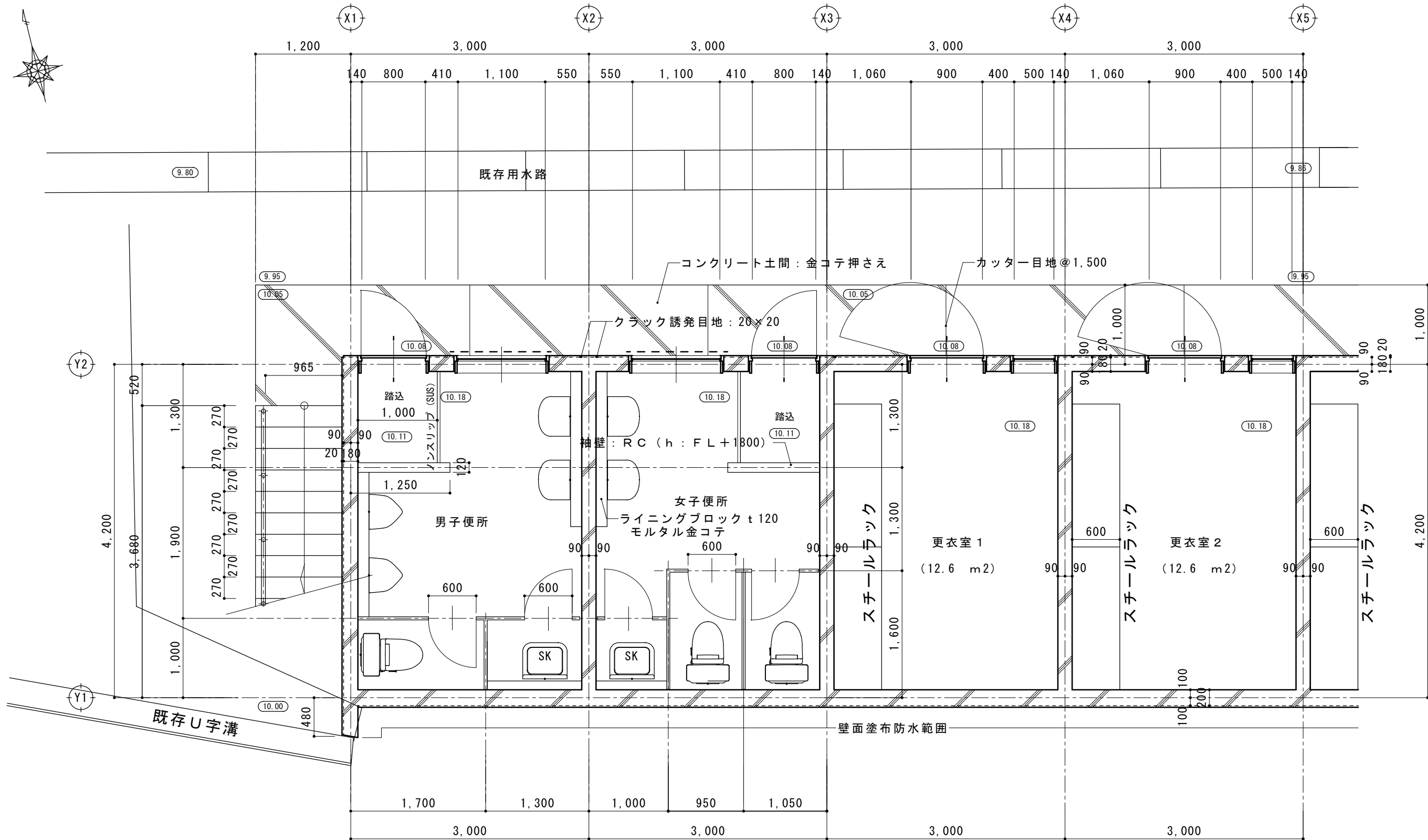
G L 鋼板葺き
完全嵌合式立平葺き@455
カラーG L 鋼板 t : 0.4
アルミ押し出し型吊り子工法@750



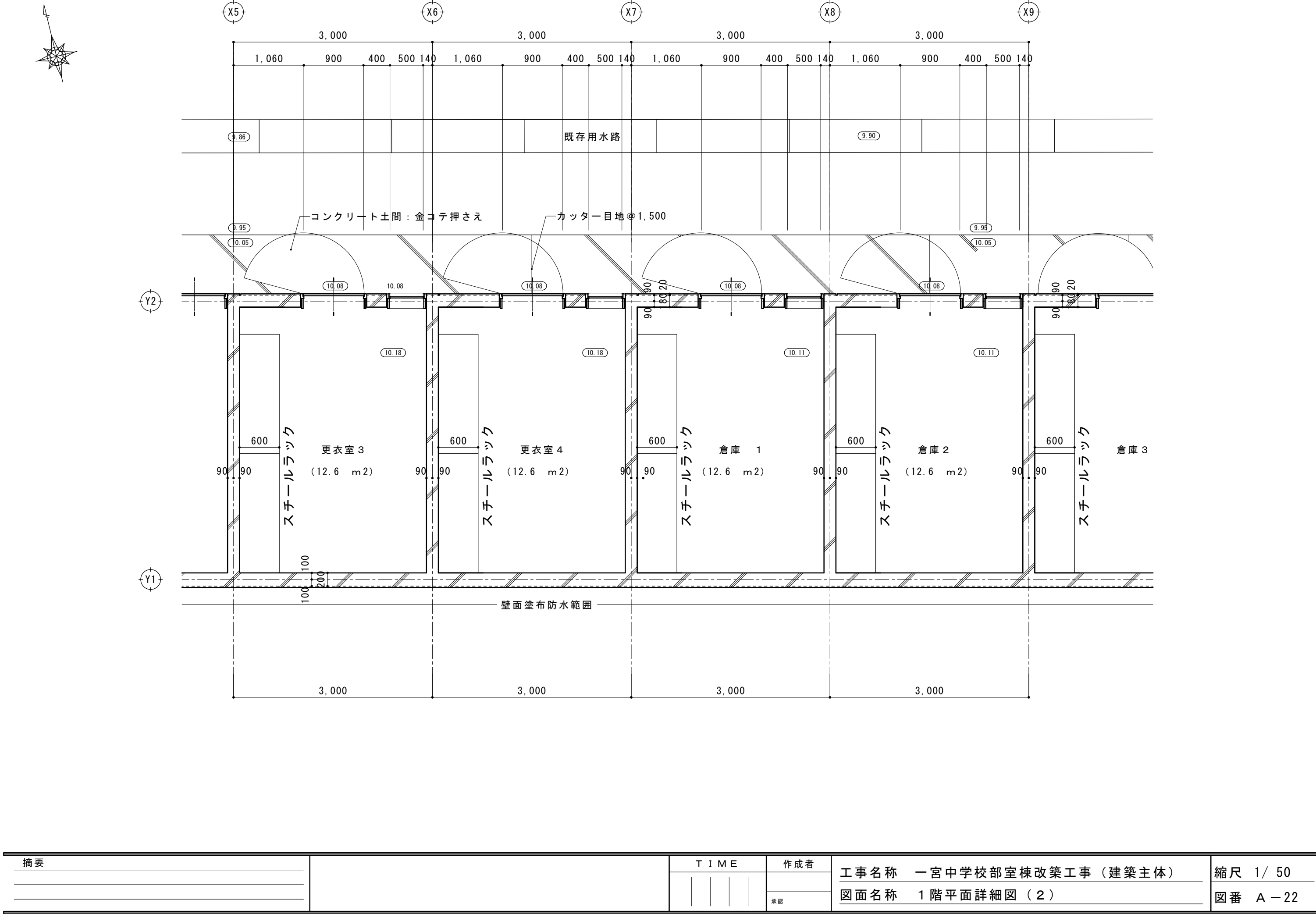
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)	縮尺 1/ 30
					承認	図面名称 矩計図 3 (c-c)	図番 A-19

摘要			T I M E 	作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 階段詳細図	縮尺 1 / 30
				承認		図番 A - 20

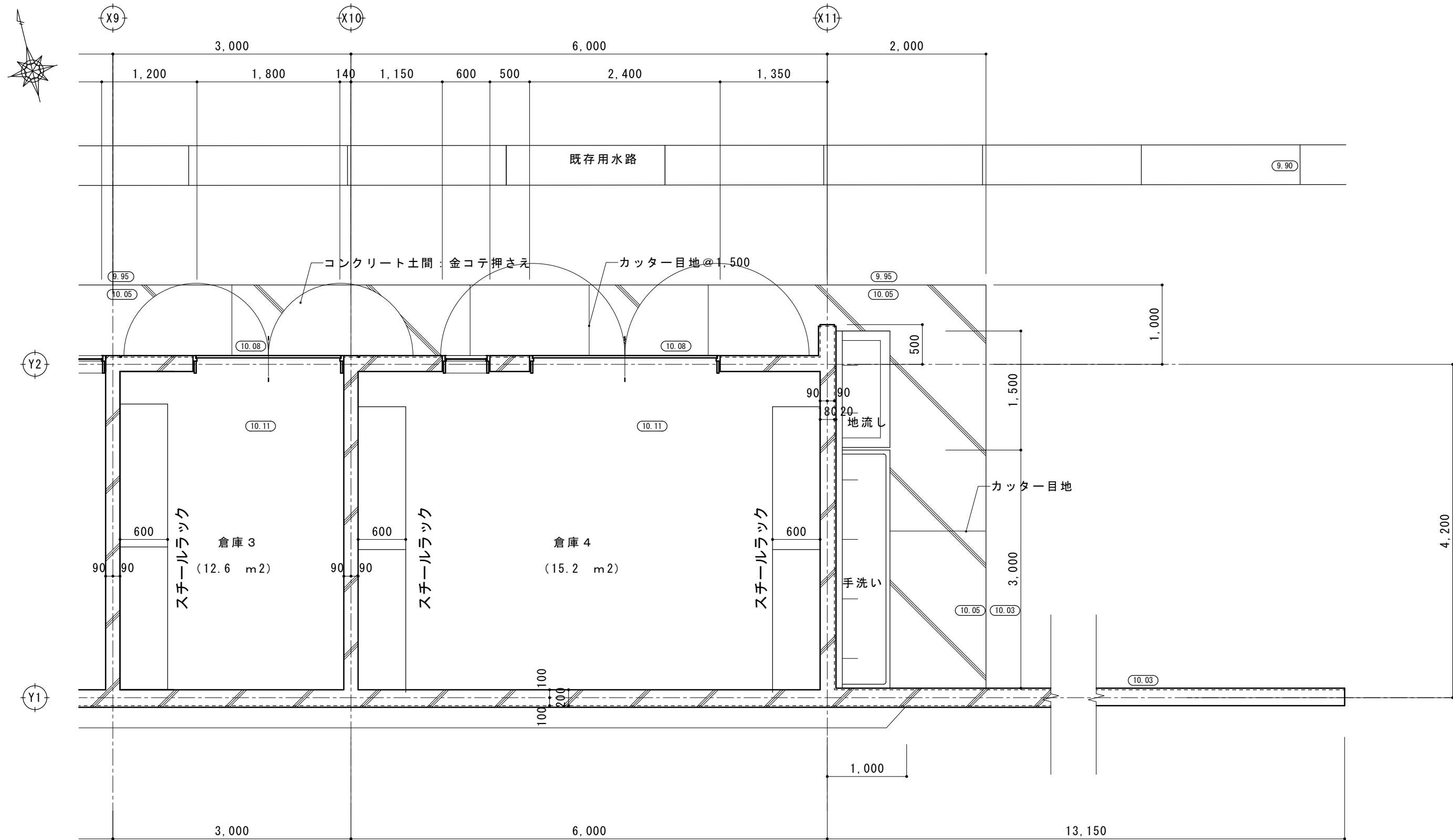




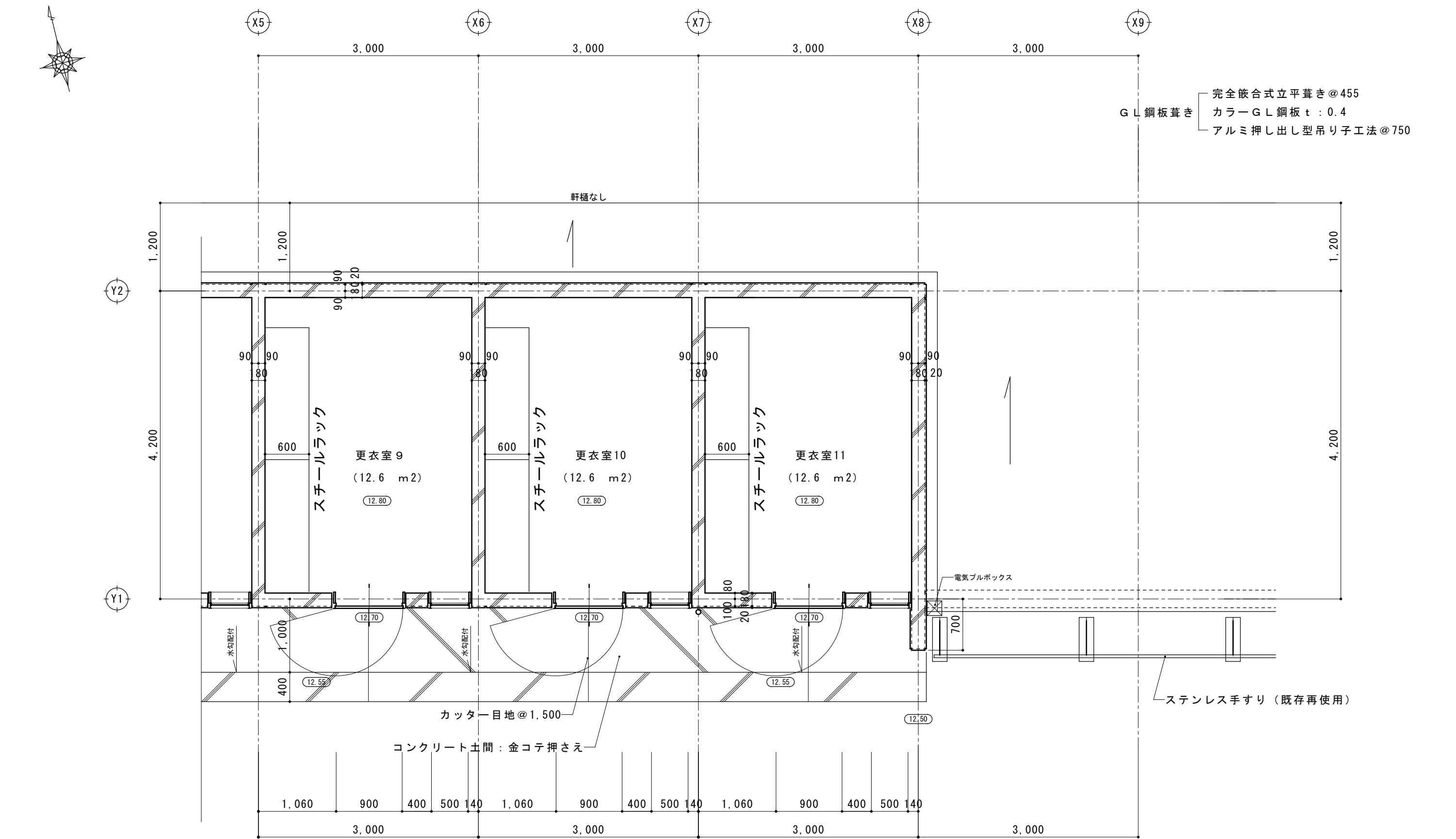
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 50
					承認	図面名称 1階平面詳細図（1）	図番 A-21



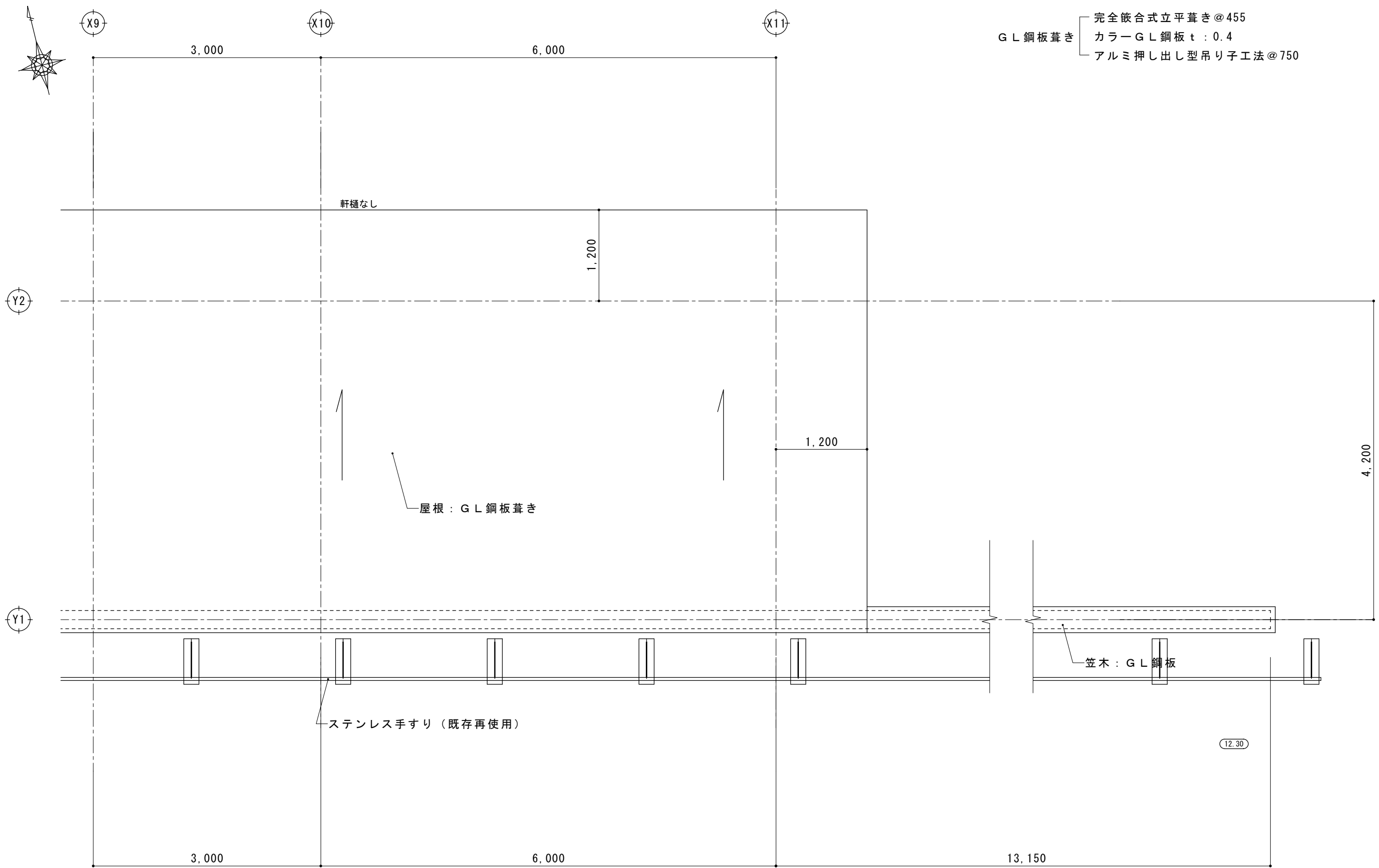
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 50
					承認	図面名称 1階平面詳細図（2）	図番 A－22



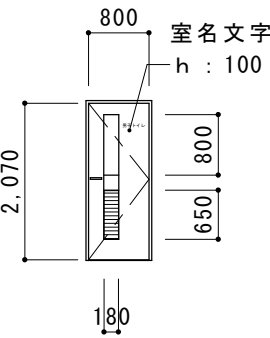
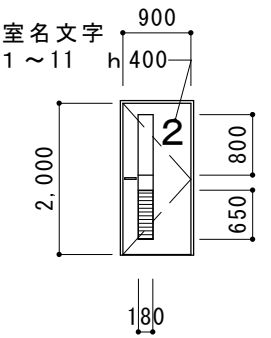
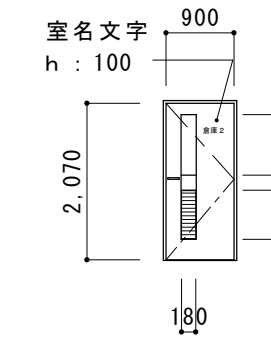
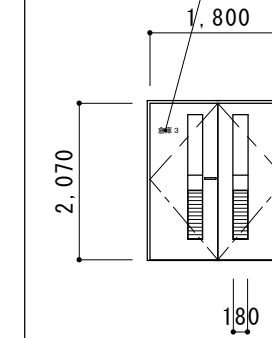
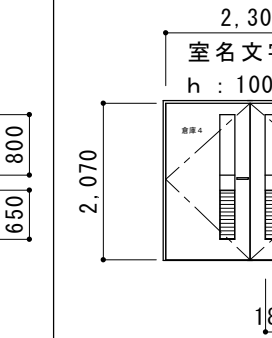
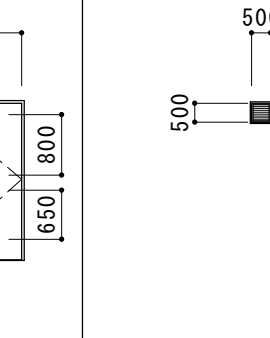
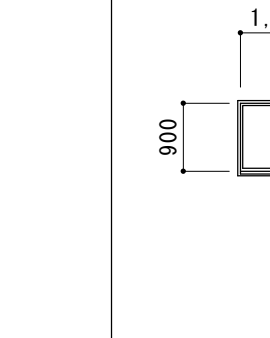
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 50
						図面名称 1 階平面詳細図（3）	図番 A - 23
					承認		

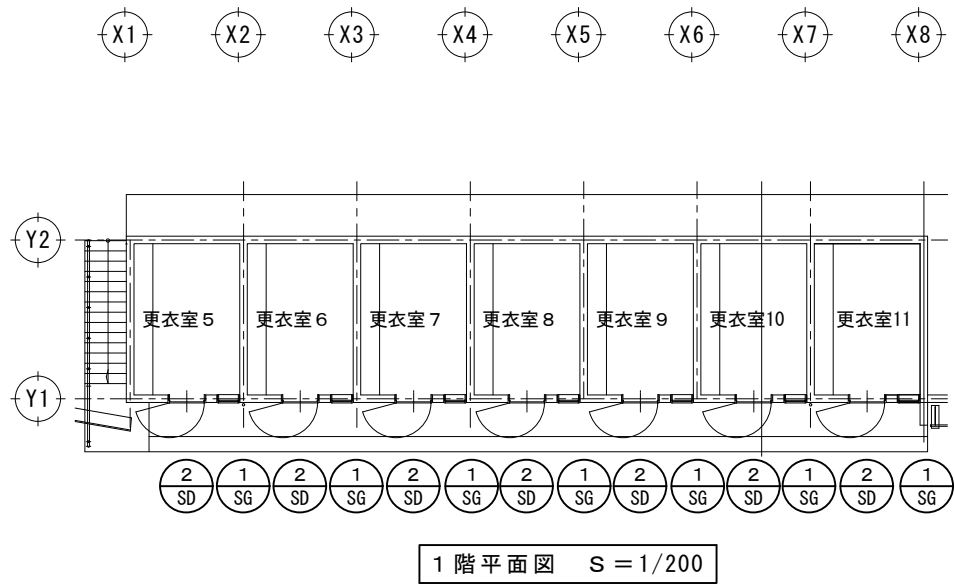
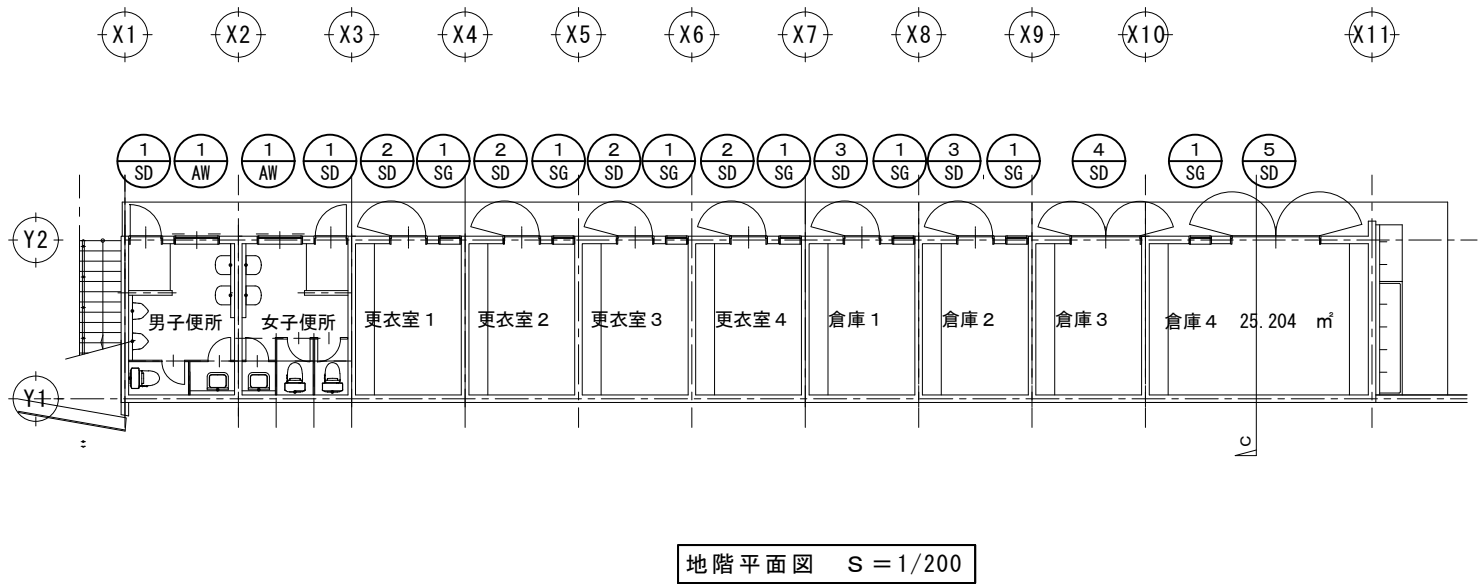


摘 要		T I M E			作 成 者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 50
						承認	図面名称 2階平面詳細図（5）

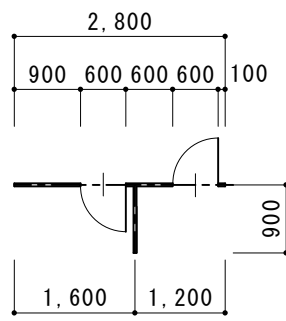
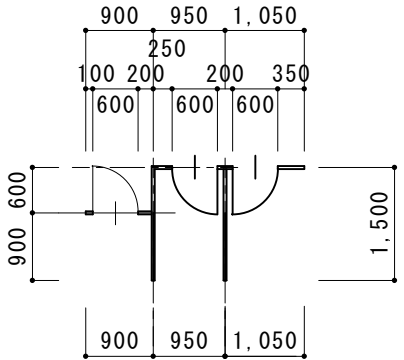


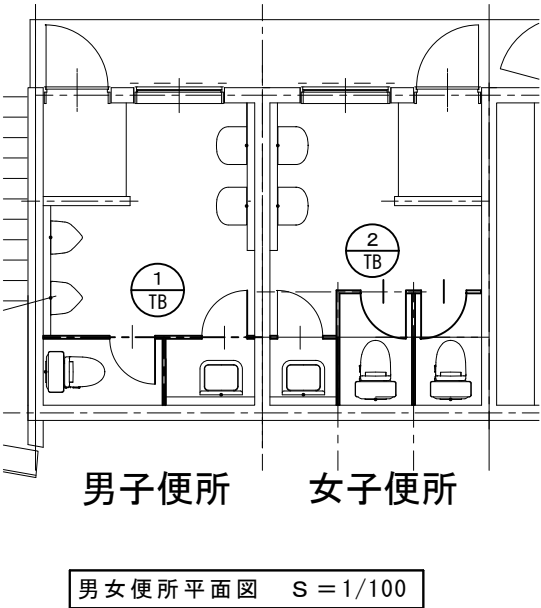
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 50
					承認	図面名称 2階平面詳細図（6）	図番 A－26

姿 図	 <p>開き方向は平面図による</p>	 <p>開き方向は平面図による</p>	 <p>開き方向は平面図による</p>	 <p>開き方向は平面図による</p>	 <p>開き方向は平面図による</p>		 <p>スチール製防球窓枠フェンス</p>
記 号 数	S D - 1 2 箇 所	S D - 2 11 箇 所	S D - 3 2 箇 所	S D - 4 1 箇 所	S D - 5 1 箇 所	S G - 1 14 箇 所	A W - 1 2 箇 所
形 式	片開きドアドア					固定ガラリ	
材 料 ・ 仕 上	スチール製（フラッシュ） D P 塗装					スチール製 D P 塗装	アルミ製（R C 用枠） つらいち修まり
ガ ラ ス	型 強化 t 4						型 強化 t 4
枠 見 込	220					220	70
建 具 見 込	36						
防 火 設 備 の 別	—					—	—
金 物 他	靴ずり：S U S 山形ガラリ（スチール） ピボットヒンジ D C レバーハンドル シリンダー錠 室名表記：カッティングシート張り 附属品一式					山形ガラリ（スチール）	クレセント 水切り皿板 4 方向アルミ額縁 4 方向アルミ額縁：見込150 附属品一式
備 考	ドア開き角度100度程度	ドア開き角度170度程度					スチール製防球窓枠フェンス
	建具内外シーリング スチールドア室名文字（1～11）11文字分H200 （倉庫1～倉庫4）4室分 H100：カッティングシート張り					建具内外シーリング	建具内外シーリング

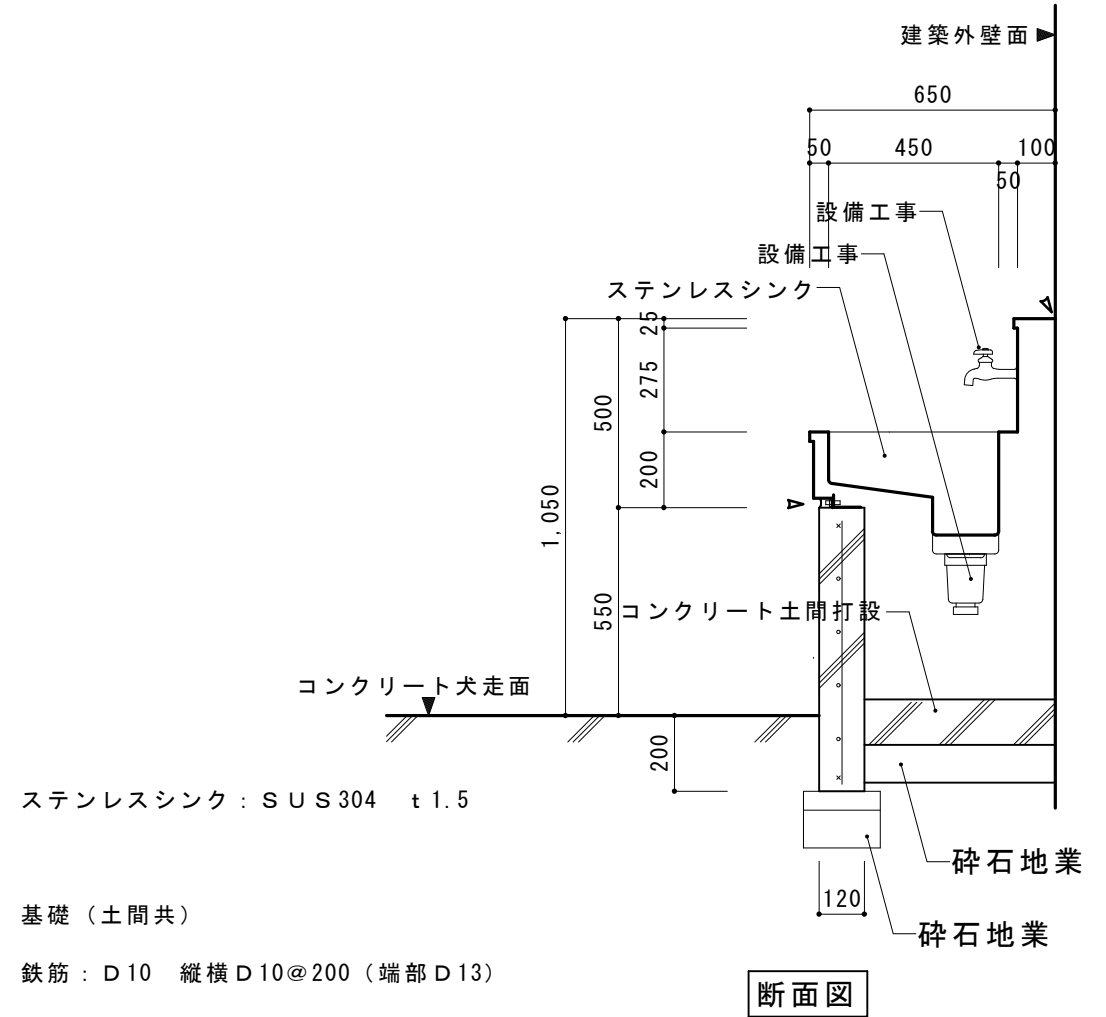
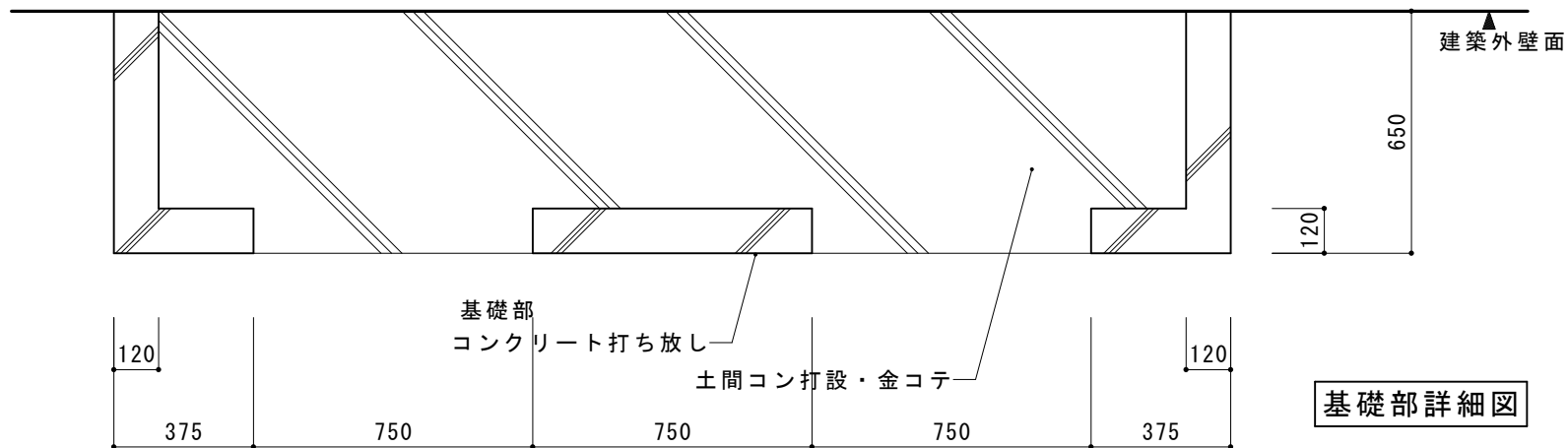
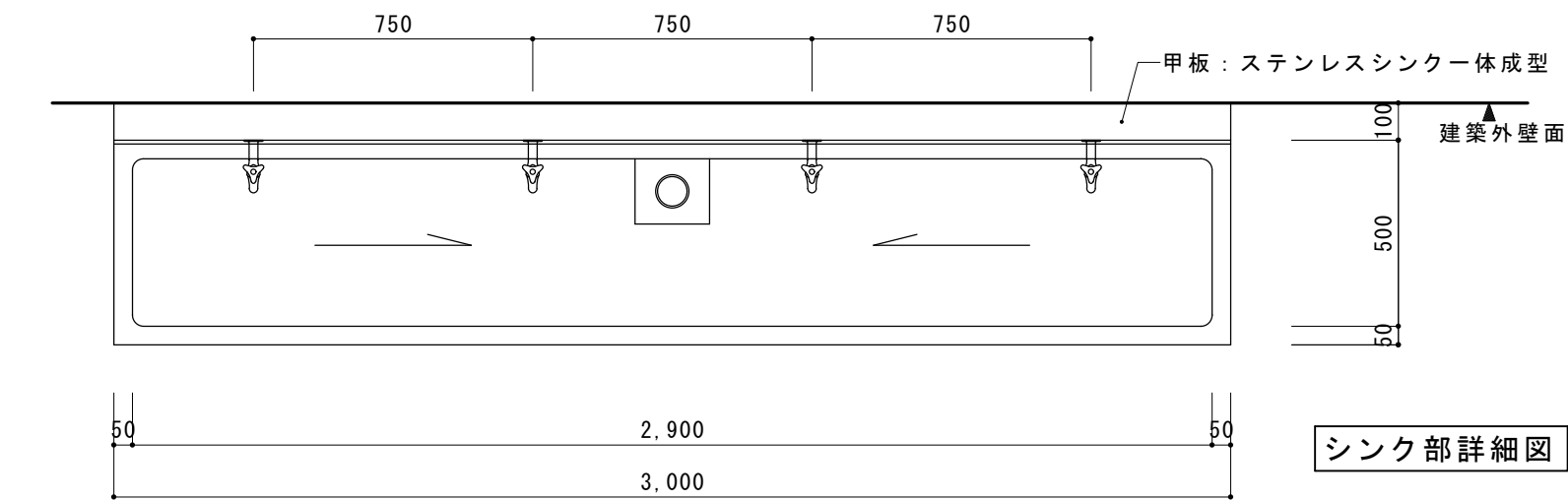


摘 要		T I M E		作 成 者	工 事 名 称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図 面 名 称 建具表 1	縮 尺 1/100 図 番 A - 27
				承認		

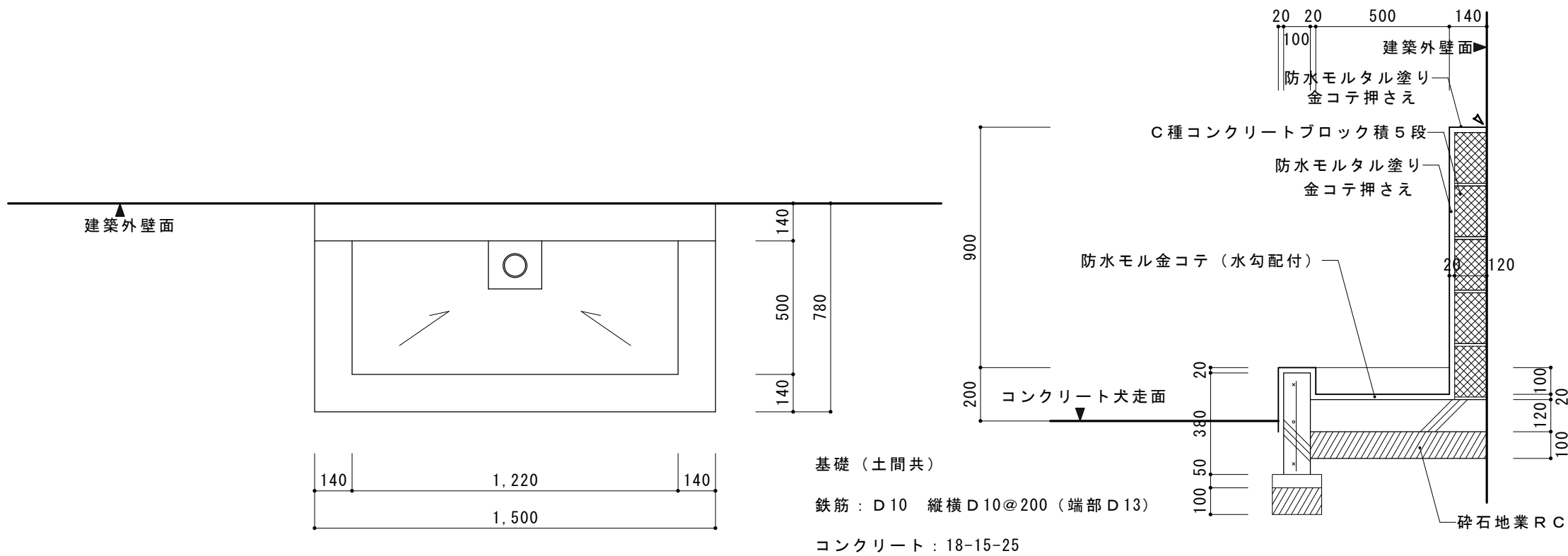
姿図	 <p>H : 1,900</p>	 <p>H : 1,900</p>
記号 数	T B - 1 1 箇所	T B - 2 1 箇所
形式	トイレブース	
材料・仕上	表面材：メラミン化粧合板 芯材：ペーパーハニカムコア	
建具見込	40	
金物他	グラビティーヒンジ アルミ型材エッジ・笠木 ステンレス巾木 帽子掛け 付属品一式	
備考		



摘要		T I M E					作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/100
							承認		



手洗い流し 詳細図 S=1/20



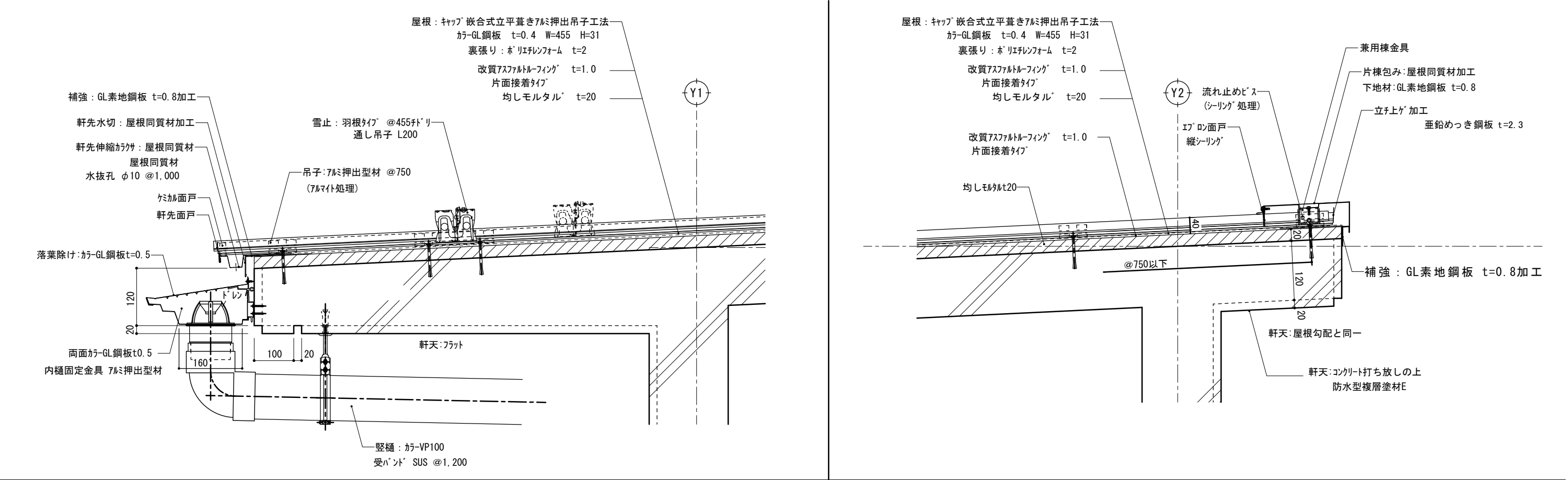
基礎（土間共）

鉄筋：D10 縦横D10@200（端部D13）

コンクリート：18-15-25

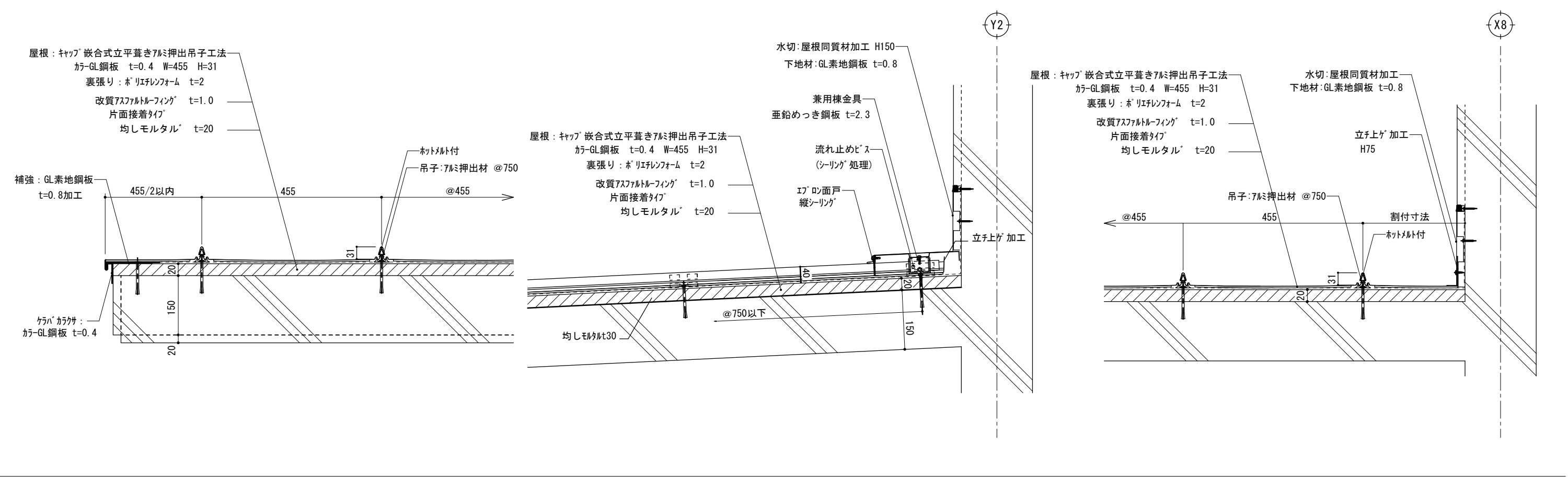
足洗い流し 詳細図 S=1/20

摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 20
					承認	図面名称 部分詳細図 1（手洗い流し・足洗い流し）	図番 A-29



屋根 軒先部分 詳細図

屋根 片棟部分 詳細図

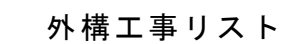


屋根 ケラバ部分 詳細図

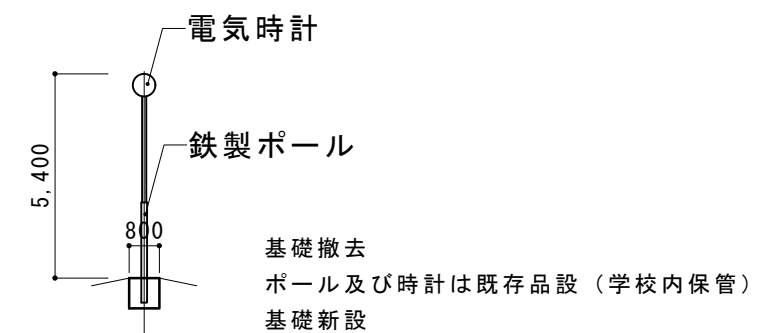
下屋根 水上 外壁取合い部分 詳細図

下屋根 流れ側 外壁取合い部分 詳細図

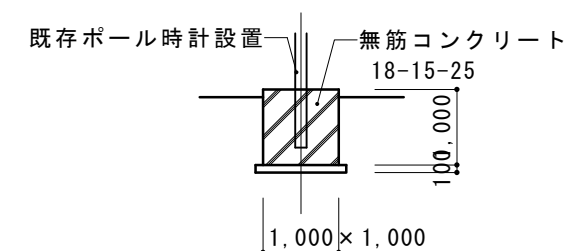
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 10
					承認	図面名称 部分詳細図 2（屋根）	図番 A－30



①	アスファルト舗装 A-3-15（密粒度アスコン・路盤材：再生材）	344m ²
②	ステンレス手すり設置（手すりは既存品加工の上使用 基礎は新設）	25.5m
③	既存ポール時計（解体工事により保管されているもの）使用	1 箇所
	基礎：新設	



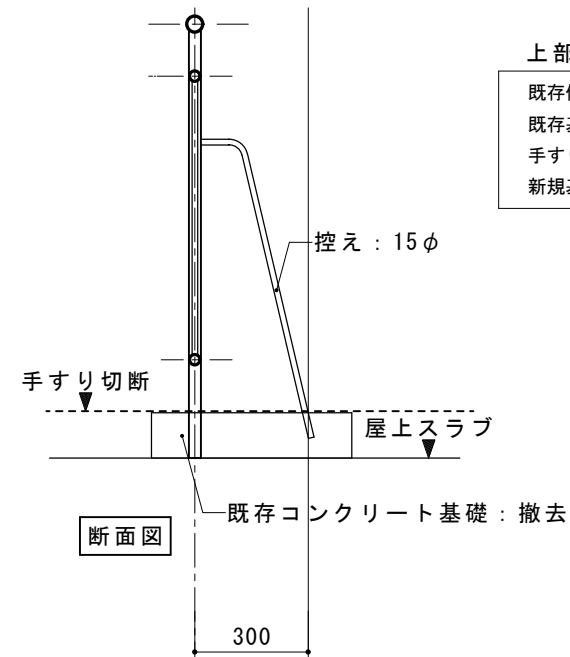
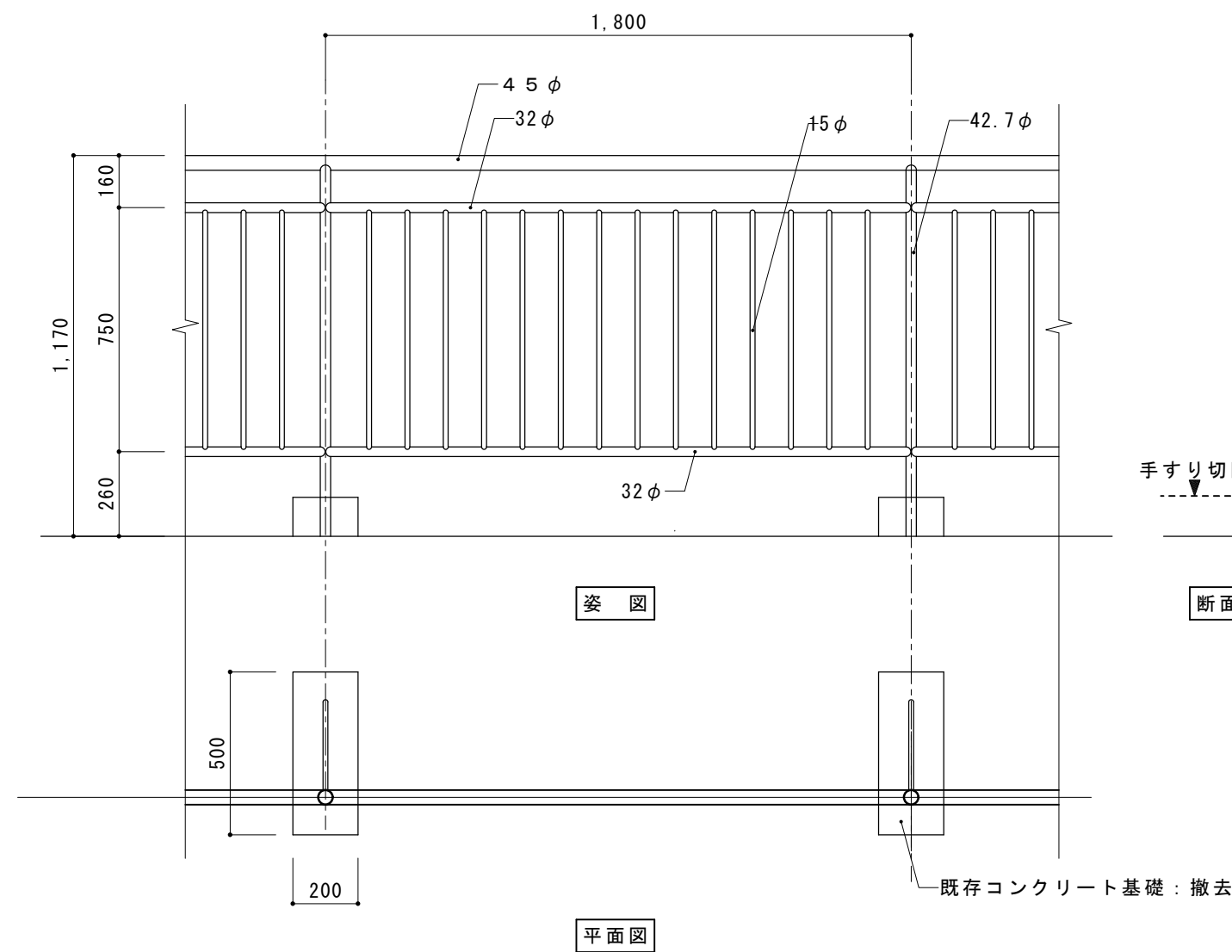
既存ポール時計姿図 S = 1/200



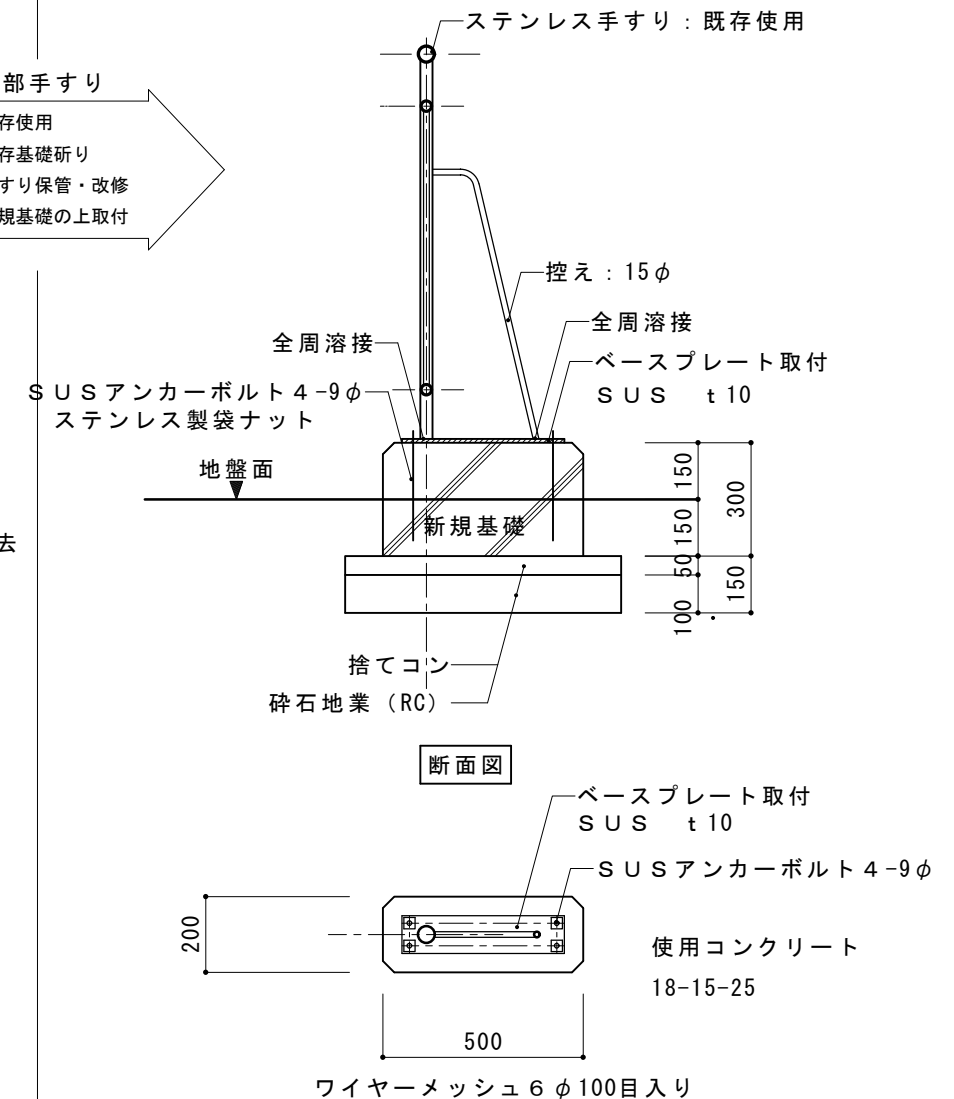
新設基礎詳細図 S = 1/100

③電気ポール時計

摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/200
							図面名称 外構図 1（外構平面図）	図番 A－31
						承認		



上部手すり
既存使用
既存基礎破り
手すり保管・改修
新規基礎の上取付

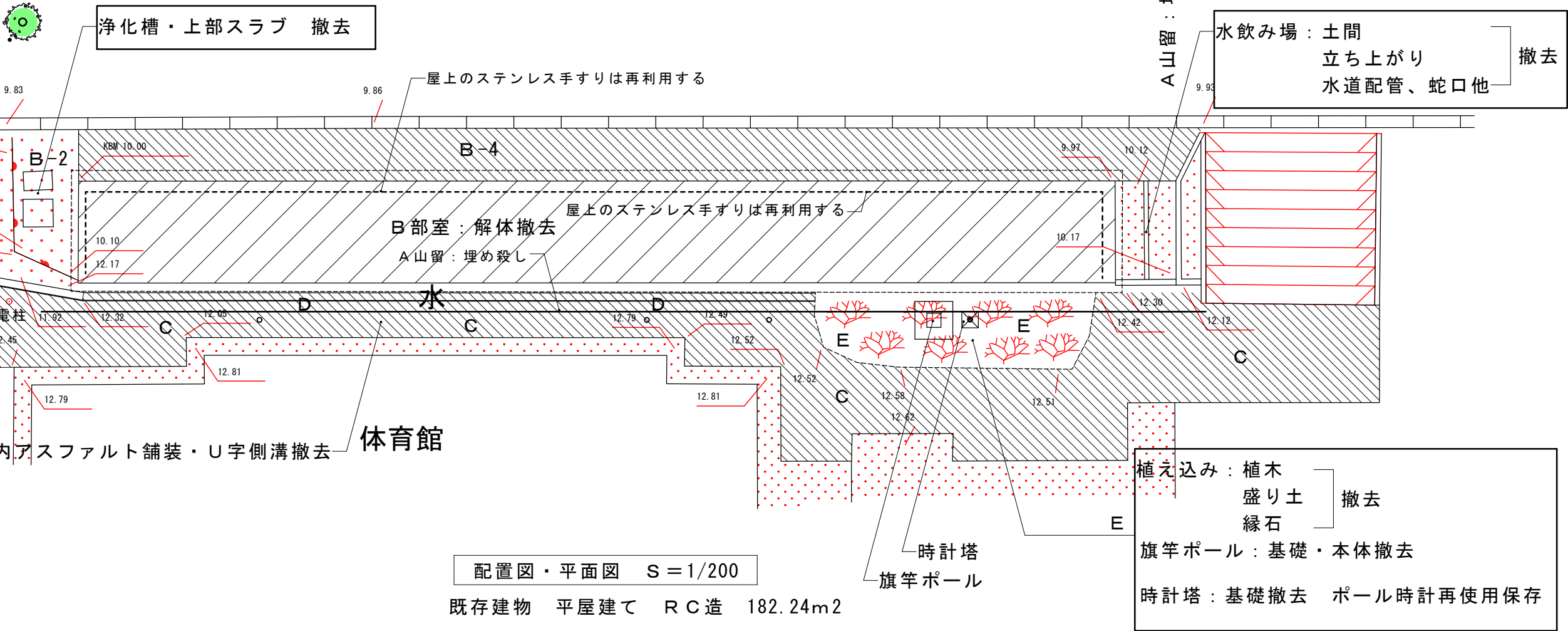
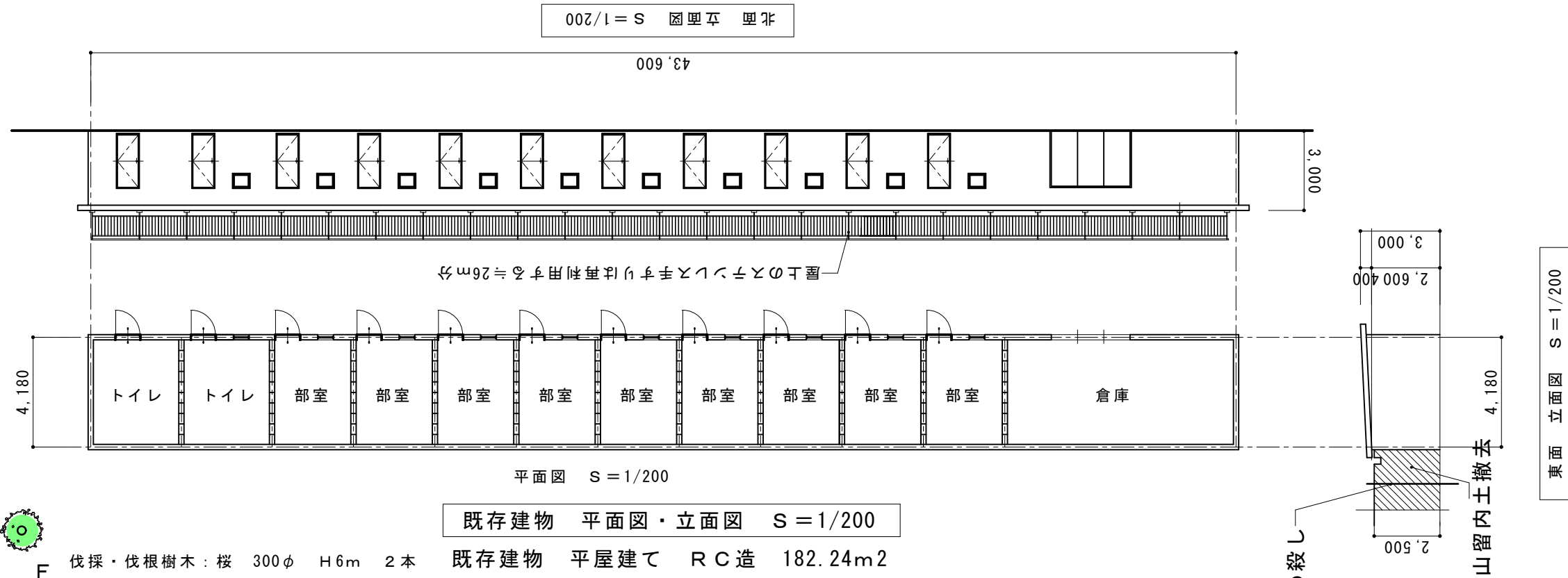


新規基礎平面図 新規基礎：14箇所

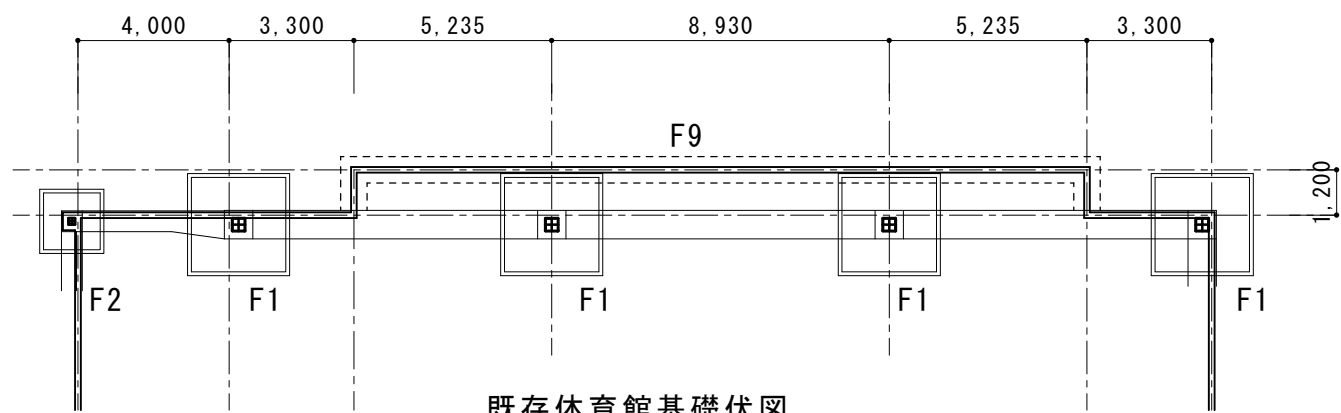
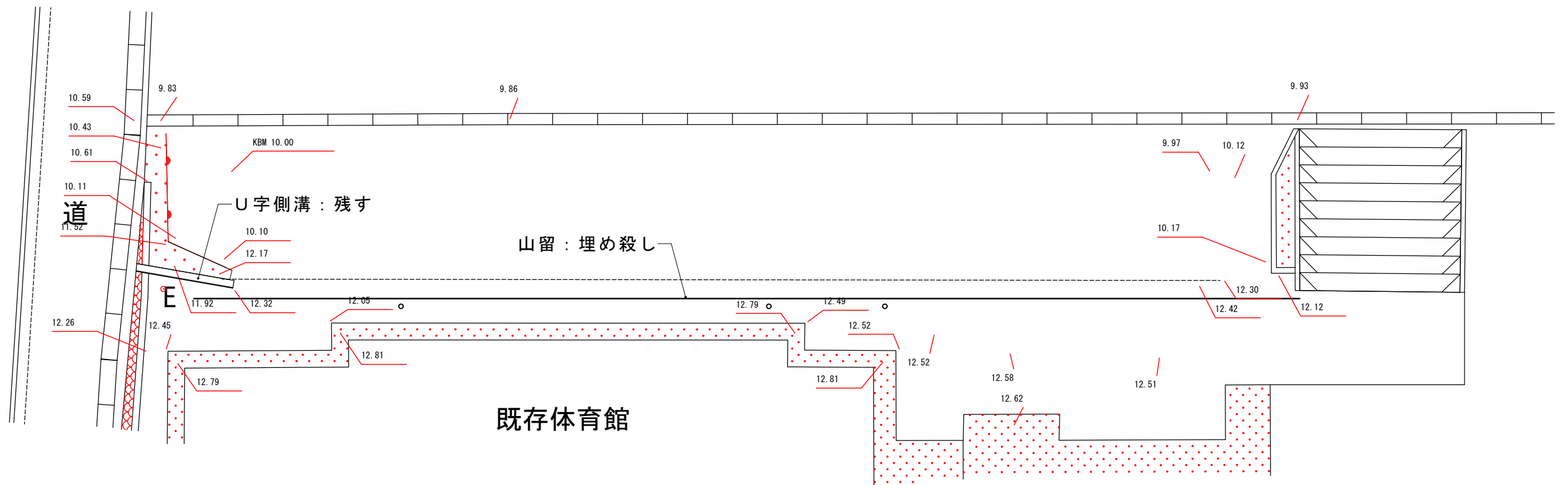
手すり取付長さ：1.8m × 14 = 25.2m

手すり（改修後）詳細図 S = 1/20

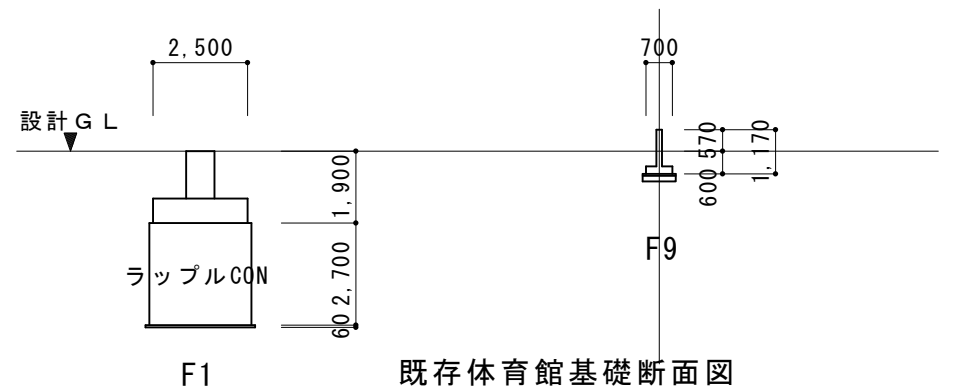
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/ 20
					承認	図面名称 外構図 2（手すり詳細図）	図番 A - 32



摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 解体図 1（既存図）	縮尺 1/200 図番 A-33
					承認		



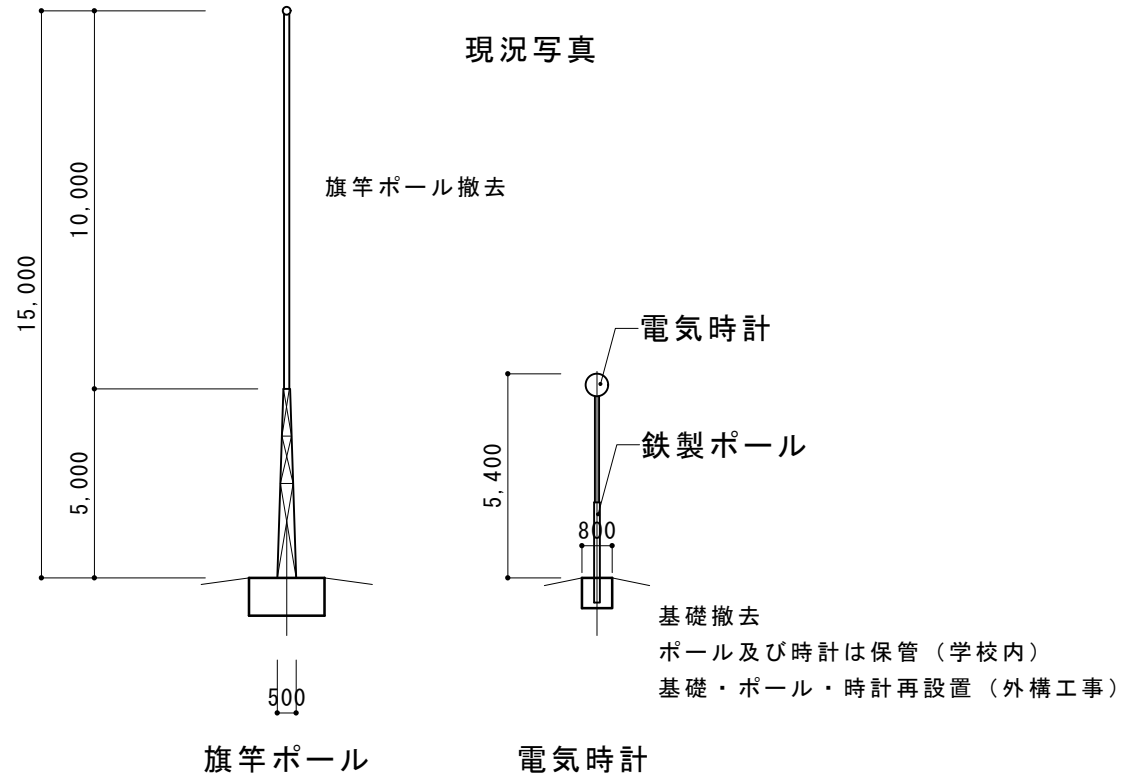
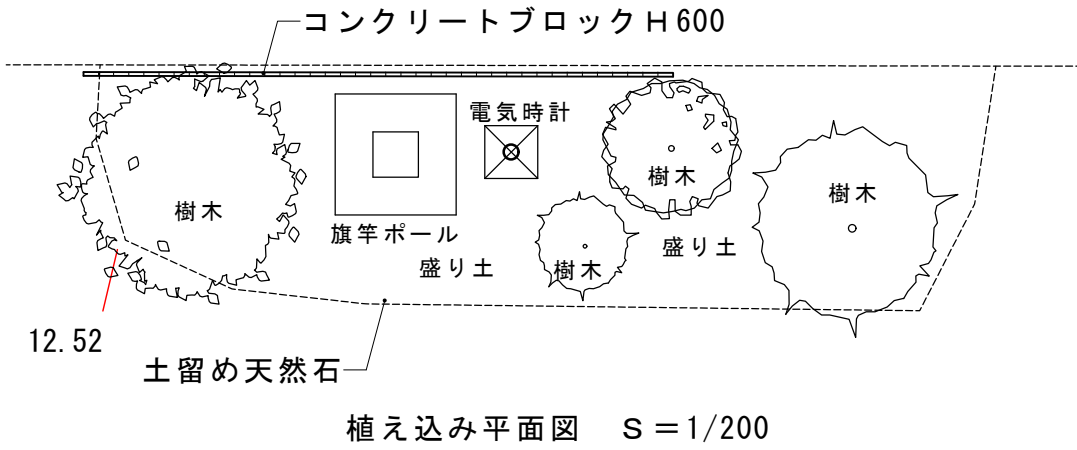
既存体育館基礎伏図



既存体育館基礎断面図

参考既存体育館基礎図

摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/200	
								承認

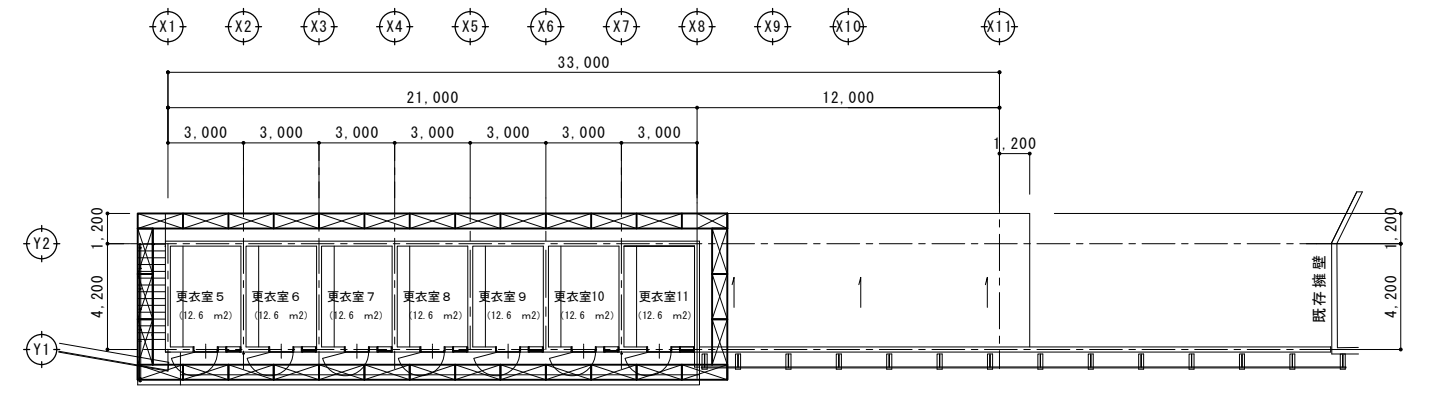
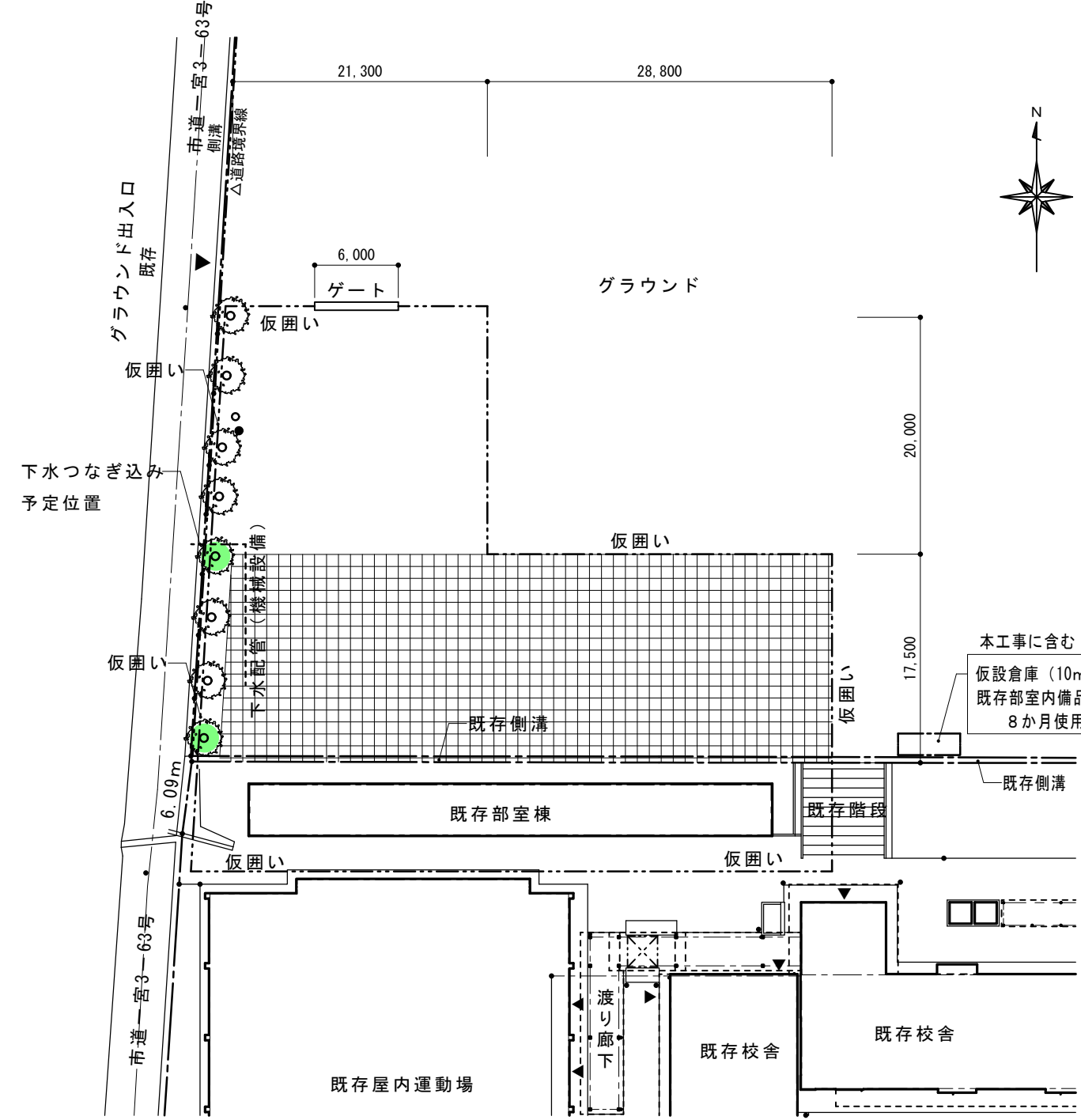


E 植え込み部分撤去図

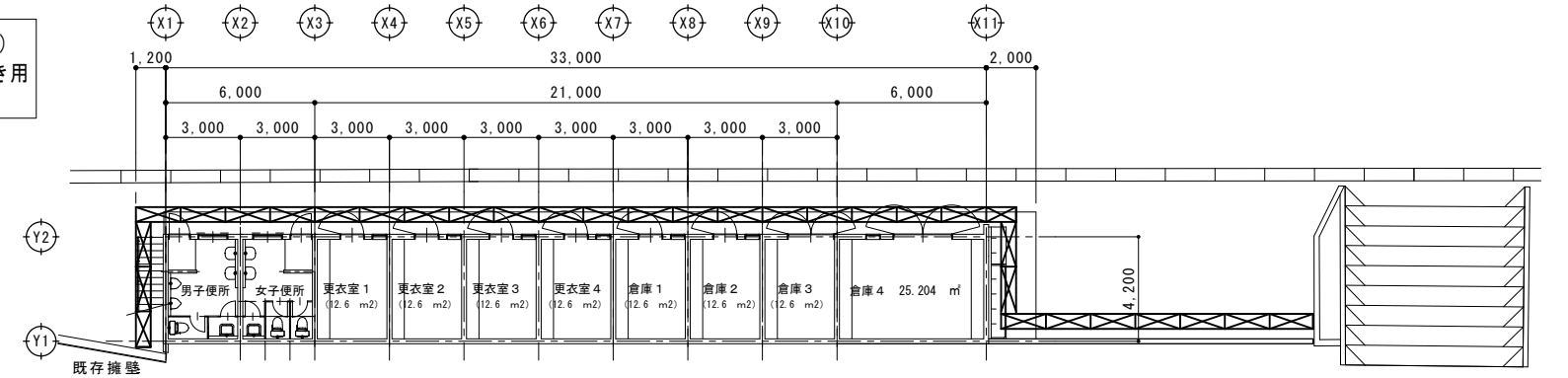
撤去工事リスト

A	山留 H 型鋼 300×300 L：6.5m 埋め殺し（上部撤去） 横矢板（上部撤去）	全長 ≒48m
B	R C 造平屋建て部室撤去（図示） 山留内土撤去	
B-2	既存浄化槽 上部撤去の上埋め戻し（搬出土使用）	土間面積：23m ²
B-3	水飲み場（コンクリート土間及び立ち上がり撤去）	土間面積：23m ²
B-4	コンクリート土間撤去	土間面積：110m ²
C	アスファルト舗装撤去	180m ²
D	U 字型コンクリート側溝撤去	43m
E	植え込み一式 撤去（図示）	43m
	困障用天然石 植木 盛り土 コンクリートブロック（h：600）撤去	
	旗竿ポール：基礎ポール（鉄骨製）撤去	
	電気時計：基礎撤去 ポール及び時計は学校内保管	
	電気時計：基礎及び再設置は外構工事に含む	
F	グラウンド側（仮設計画図参照）にある桜の木撤去 300φ	2本

摘要		T I M E				工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 撤去（植え込み詳細図） 撤去工事リスト	縮尺 1/200 図番 A-35
					承認		



2 階平面図 S = 1/200



1 階平面図 S = 1/200

外部足場：くさび緊結足場（手すり先行式）建地幅600
メッシュシート張り

外部足場計画図 S = 1/300

共通仮設計画図 S = 1/500

- 仮囲い：防音シート張り H2.0m 193m
- 鉄板敷き：t 22 870m²
- ゲート：シートゲート等（W：6.0m程度）
- 完成時場内敷き均し：1,300m²
- 伐採・伐根樹木：桜 300φ H6m 2本（撤去工事費含む）
- 交通誘導員を見込む（60人）

本工事に含む（備品移動は別途）
仮設倉庫（10m²程度）
既存部室内備品仮置き用
8か月使用

摘要		T I M E		作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 工事部分敷地平面図・仮設計画図	縮尺 1/200
						図番 A - 36
				承認		

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d・・・異形鉄鋼の呼び名に用いた数値 D・・・部材の成 R・・・直径
- @・・・間隔 r・・・半径 C・・・中心線 l_o・・・部材の内寸法距離 h_o・・・部材間の内法高さ
- ST・・・あばら筋 H00P・・・帯筋 S.H00P・・・補強帯筋 φ・・・直径

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形および形変のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345を使用する。
折曲げ内寸法Rは、16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

※片持スラブ、上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法(R)
	帯あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	4d以上
			D19～D25	6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

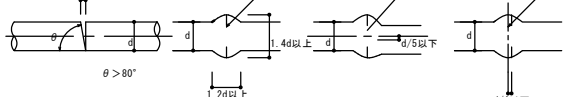
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
		一般 (L _d)	下 ば 筋 (L _s)		
			小 梁	スラブ	
SD295A SD295B SD345	21 22.5 24 18	35d または 25d フックつき 40d または 30d フックつき	25d または 15d フックつき 15cm以上	40d または 30d フックつき 45d または 35d フックつき	

コンクリートは普通F_c=18N/mm²以上24N/mm²以下、軽量F_c=18N/mm²以上22.5N/mm²以下

継手

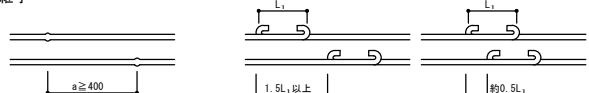
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

ガス圧接形状



圧接継手

重ね継手(下図のいずれかとする)



(4) 鉄筋のかぶり厚さ(単位: mm)

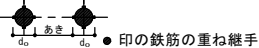
構造部分	最小かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎(捨コンクリート部分を除く)	60	70

[注] * 耐久性上有効な仕上がりがない場合には、屋内・外にかかわらず10mm増しとする。
又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照]

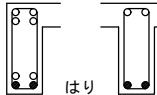
(5) 鉄筋のあき

- a. 異型鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- b. 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6) 鉄筋のフック(a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a. 壁長が1m以下の壁横筋の末端
- b. あばら筋、帯筋
- c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- e. 単純梁の下端筋
- f. その他、本配筋標準に記載する箇所

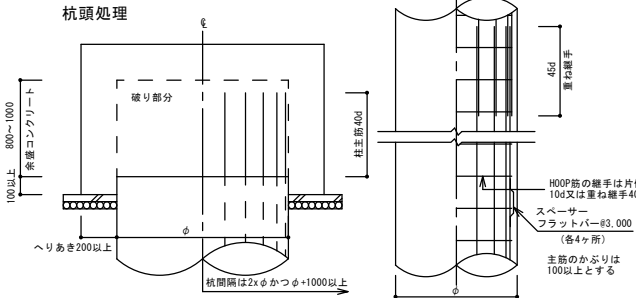


３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

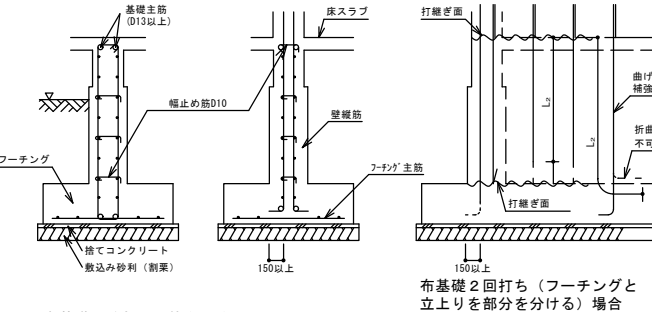
所定の位置に止まった場合			所定より低く止まった場合		
			但し L ≤ φ の場合 L > φ の場合は工事監理者の指示による		
杭 径	300 φ、350 φ	400 φ	450 φ	500 φ	600 φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
H O O P	D10-@150				

(2) 現場打ちコンクリート杭

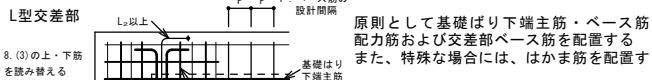


４．基礎

(1) 布基礎



布基礎交差部の配筋(平面)



原則として基礎ばり下端主筋・ベース筋配力筋および交差部ベース筋を配置する
また、特殊な場合には、はかま筋を配置する

ベース間隔は原則として20cm以下とし
配力筋の間隔は30cm程度とする
P:ベース筋の設計間隔

8.(3)の上・下筋を読み替える

ベース筋(交差部まで伸ばす)

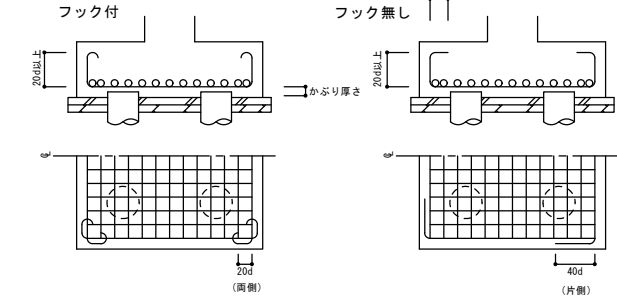
10型交差部

T型交差部

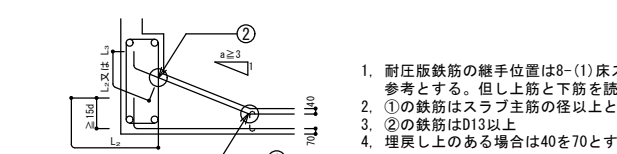
第1ベース筋(直交基礎の端に配置する)

はり

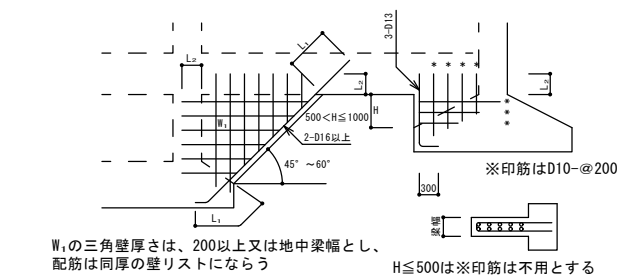
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

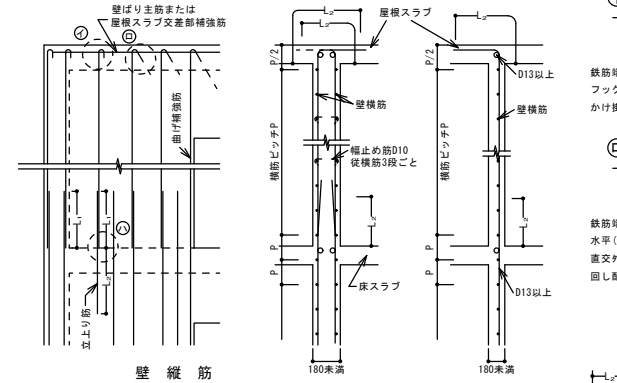


(4) 基礎接合部の補強



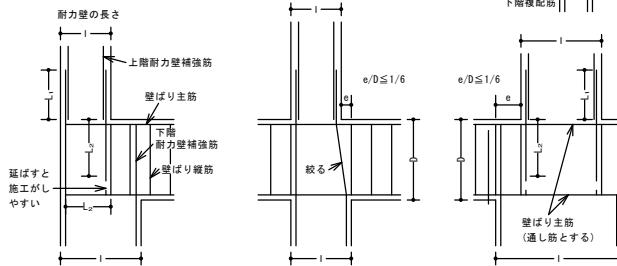
５．耐力壁

(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着

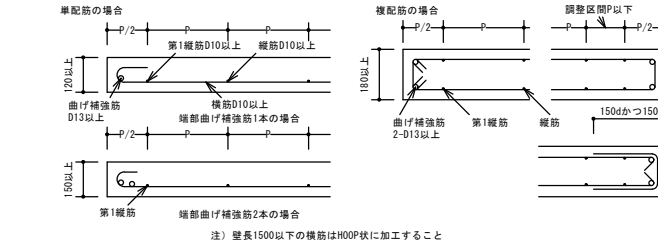


耐力壁と床・屋根スラブ

(2) 上・下階耐力壁の各種配置

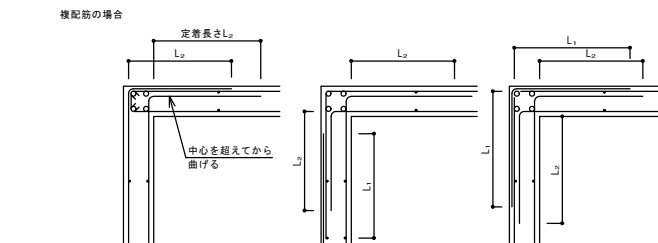
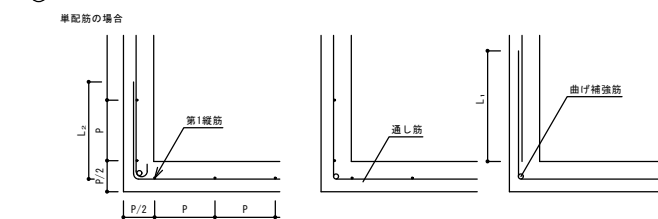


(3) 耐力壁の縦・横筋の配置

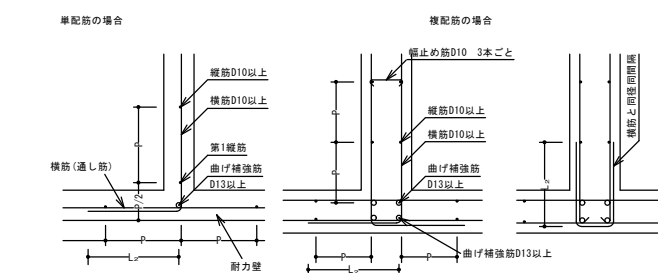


(4) 耐力壁が交差する場合(平面)

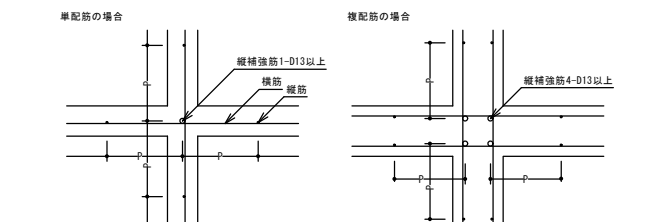
① L型交差部の縦・横筋などの配置



② T型交差部の縦・横筋の配置



③ +型交差部の縦・横筋などの配置



６．使用可能な鉄筋の最大径(標準)

部位	耐力壁	壁がり小梁	梁よう梁	布基礎基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別	壁式鉄筋コンクリート造	D22	D22	D25	D16	D16	D16

摘要

T I M E

作成者

工事名称 一宮中学校部室棟改築工事(建築主体)

図面名称 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

縮尺

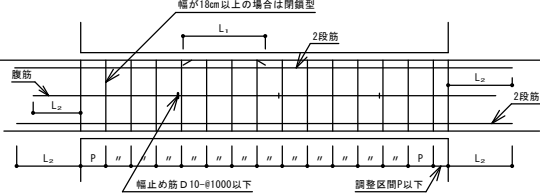
図番 S-02

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

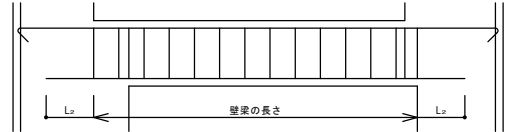
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 壁梁、小梁

(1) 壁梁の標準配筋図

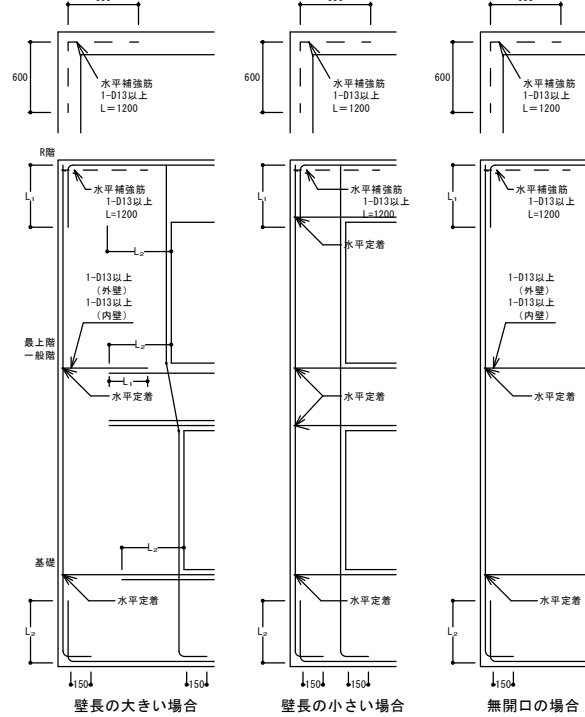


(2) 壁梁の範囲

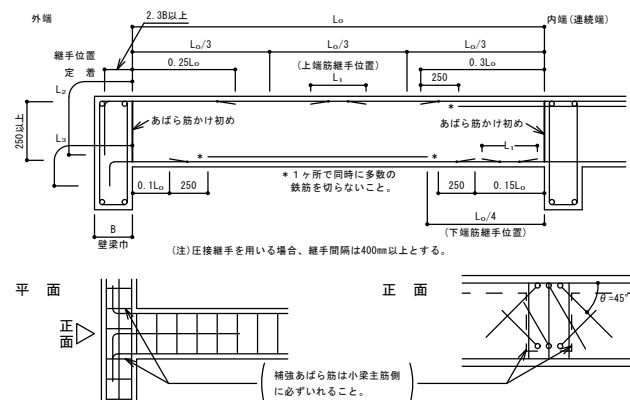


(3) 定着

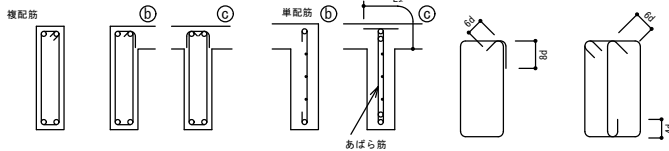
① 壁梁



② 小梁の定着・継手位置およびトップ長さ

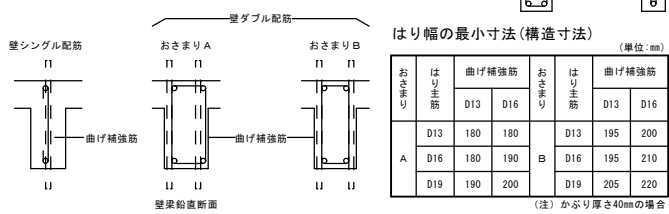


(4) あばら筋の型



- (イ) 原則として④のフック先曲げとする。
片側床版付(L型)梁で④、
両側床版付(T型)梁で⑤とすることができる。
(ロ) フックの位置は④にあつては交互、
⑤にあつてはスラブ側とする。

(5) 幅止め筋の本数、加工

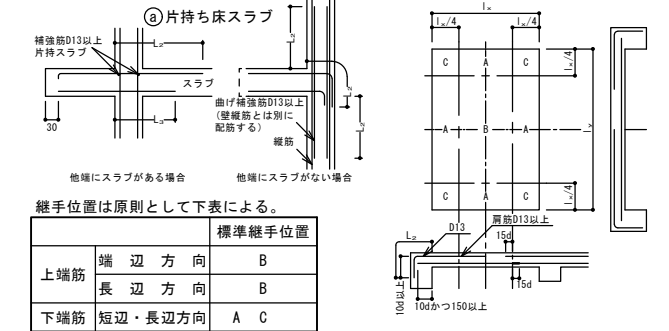


はり幅の最小寸法(構造寸法) (単位:mm)

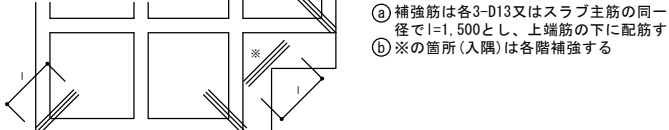
おさまり	はり主筋	曲げ補強筋	おさまり	はり主筋	曲げ補強筋
A	D13	180	B	D13	195
A	D16	180	B	D16	195
A	D19	190	B	D19	205

8. 床板

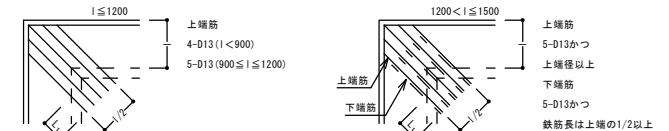
(1) 定着および継手



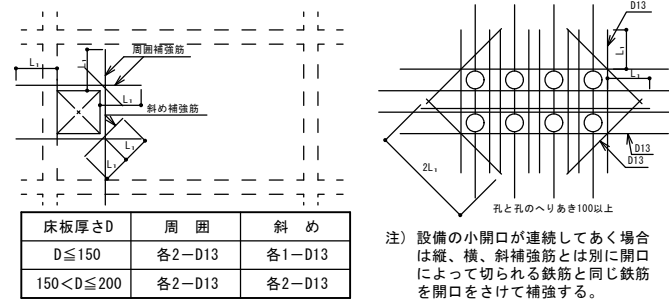
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強



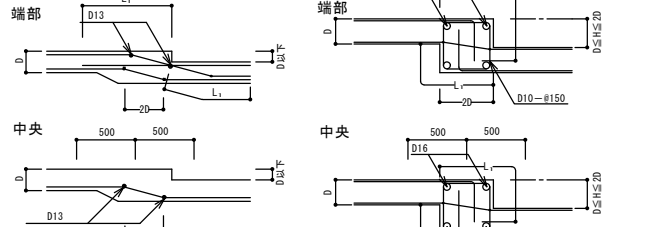
(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)



床板厚さD	周囲	斜め
D≤150	各2-D13	各1-D13
150<D≤200	各2-D13	各2-D13

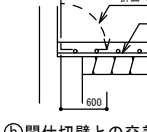
注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

(5) 床板段差

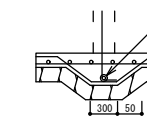


(6) 土間コンクリート

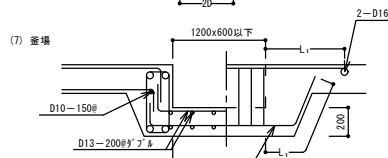
①軽作業の土間



②間仕切壁との交差部



(7) 垂壁

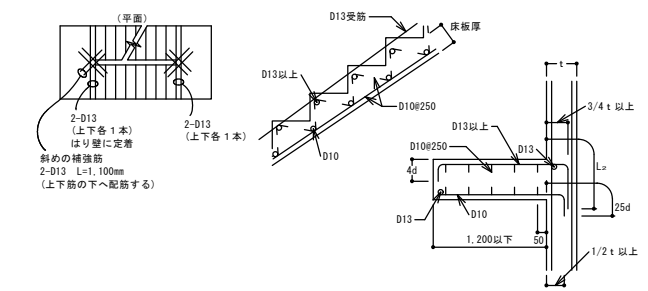


(8) 打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)

- ・設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L_d以上
- ・無筋部分D10-φ200 長さ800以上

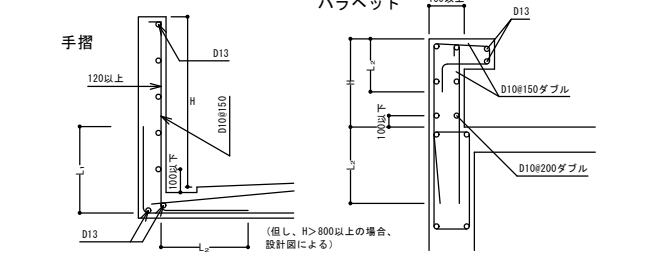
9. 階段

片持ち階段

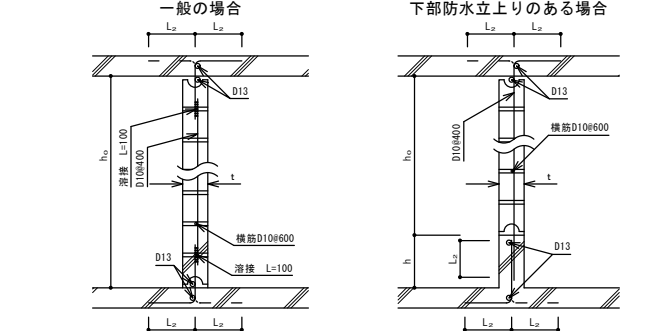


10. その他

(1) 手摺、パラベット



(2) コンクリートブロック塀壁



注) h₀≤25 t かつ3500以下とする。但し直交方向25 t 以内に壁、又は柱がある場合は除く。
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≤h≤400
注) 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

11. 梁貫通孔補強

(3) 既製品(使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

- ☐ リング型 ☐ バイプ型 ☐ 金網型 ☐ プレート型 ☐

(2) 鉄筋標準配筋 但し、φ≤D/3とする

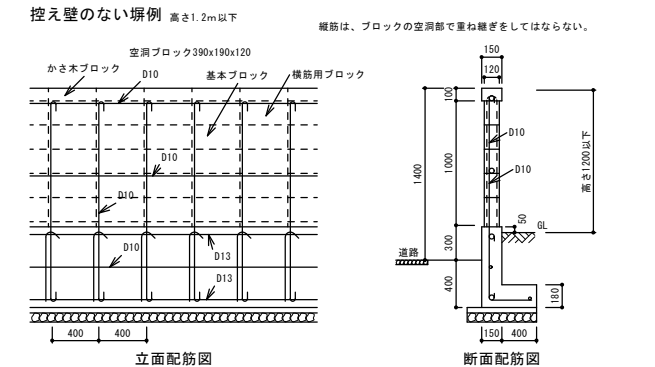
設置可能範囲 梁端部(スパン1/10以内かつ20以内)は避ける

80≤φ≤100 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13	100<φ≤150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13)	150<φ≤250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13) 上縦筋 ST2-D13
φ>250 孔補強の有効範囲と 定着長さのとり方 ※ 部分について計算で 確認された場合は右 記の位置、寸法によ らなくて良い。		

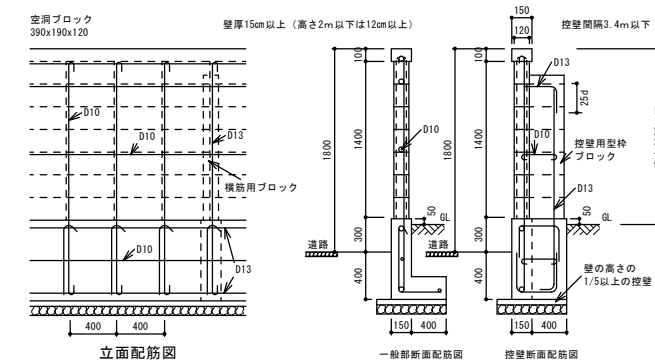
12. コンクリートブロック塀

(1) ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

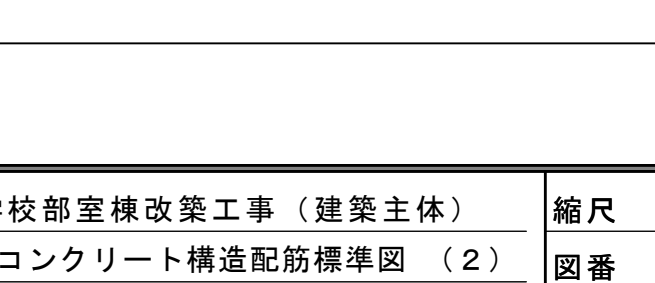
- a. 塀の高さ(地盤面に高低差がある場合は低い方による)は2.2m以下。
- b. 塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上。
- c. 地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は別途検討する。
- d. 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。



控え壁のない塀例 高さ2.2m以下



控え壁のある塀例 高さ2.2m以下



摘要

TIME

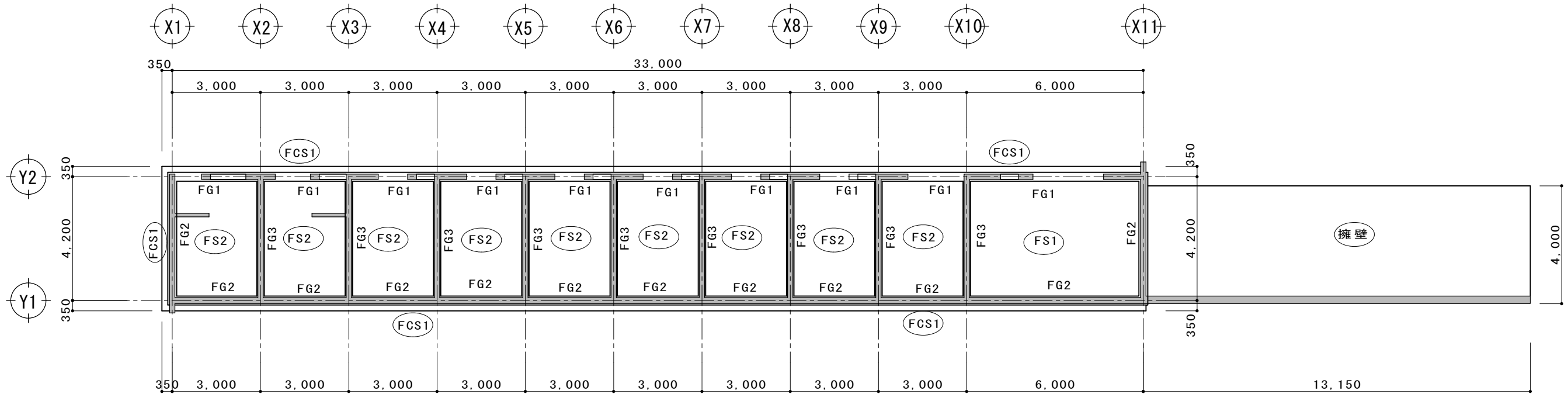
作成者

工事名称 一宮中学校部室棟改築工事(建築主体)

図面名称 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

縮尺

図番 S-03



基礎伏図

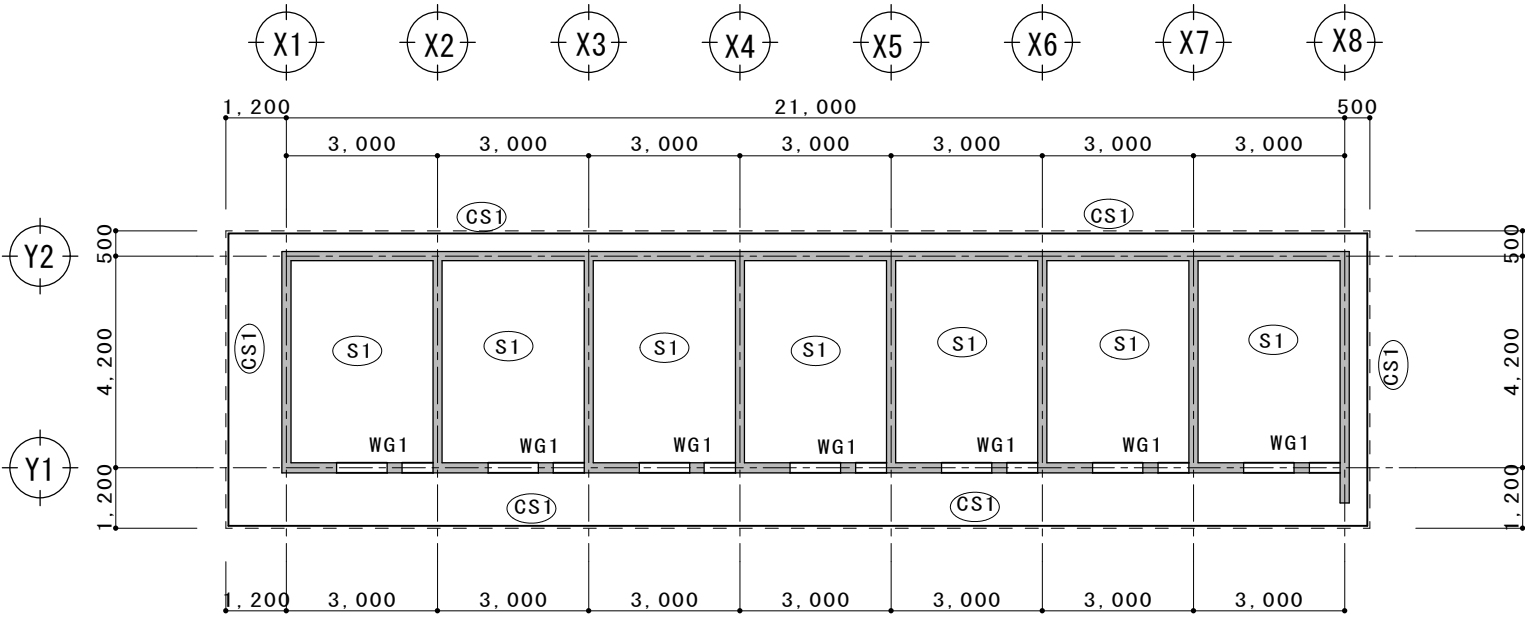
S=1/150

基礎リスト

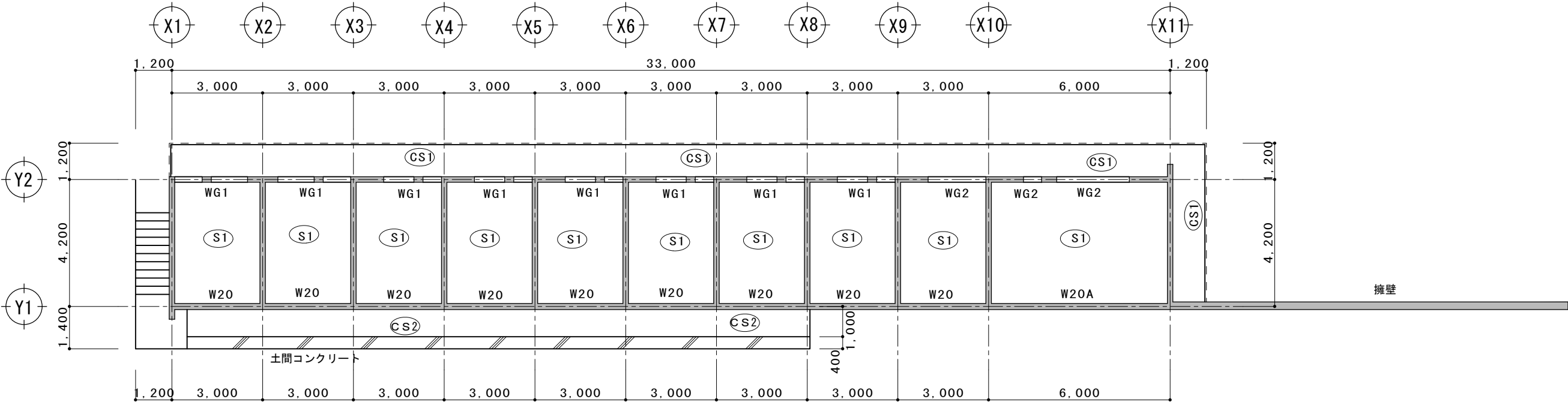
S=1/30

	F G 1	F G 2	F G 3	F S 1 ・ F C S 1	F S 2 ・ F C S 1
断 面					
上端筋	3-D 16	2-D 16	2-D 16		
下端筋	3-D 16	2-D 16	2-D 16		
S . T . P	D 13@150	D 13@150	D 10@200		
腹 筋	6-D 13	6-D 13	6-D 10		

摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/150
						承認		図面名称 基礎伏図 基礎リスト	1/30
							図番		S- 04

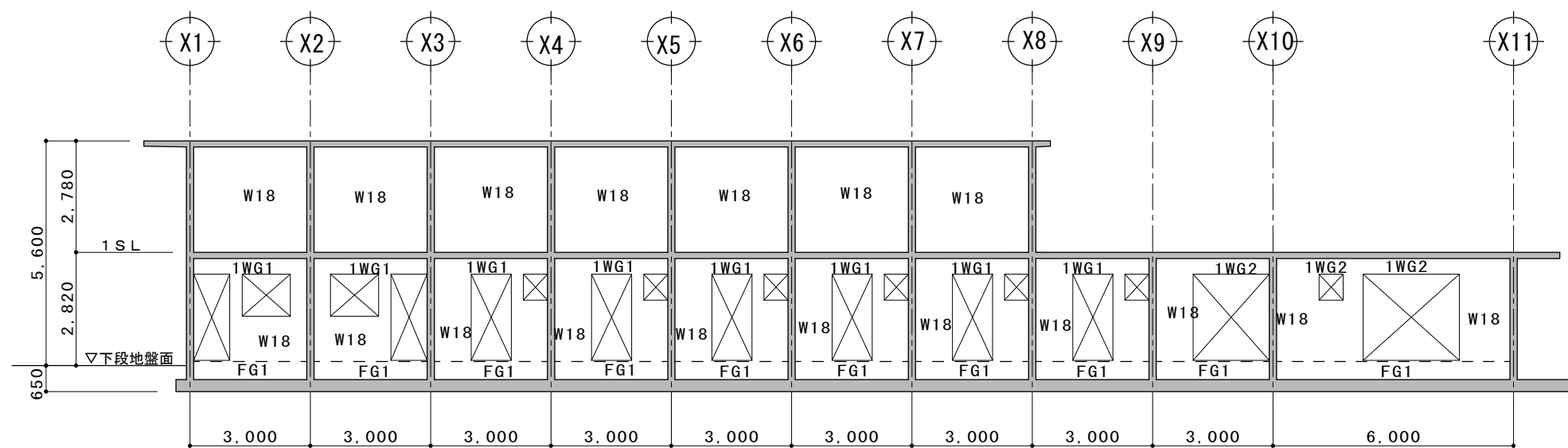


1 階 壁 ・ R 階 梁 伏 図 S=1/150 特機なき壁はW18を示す。

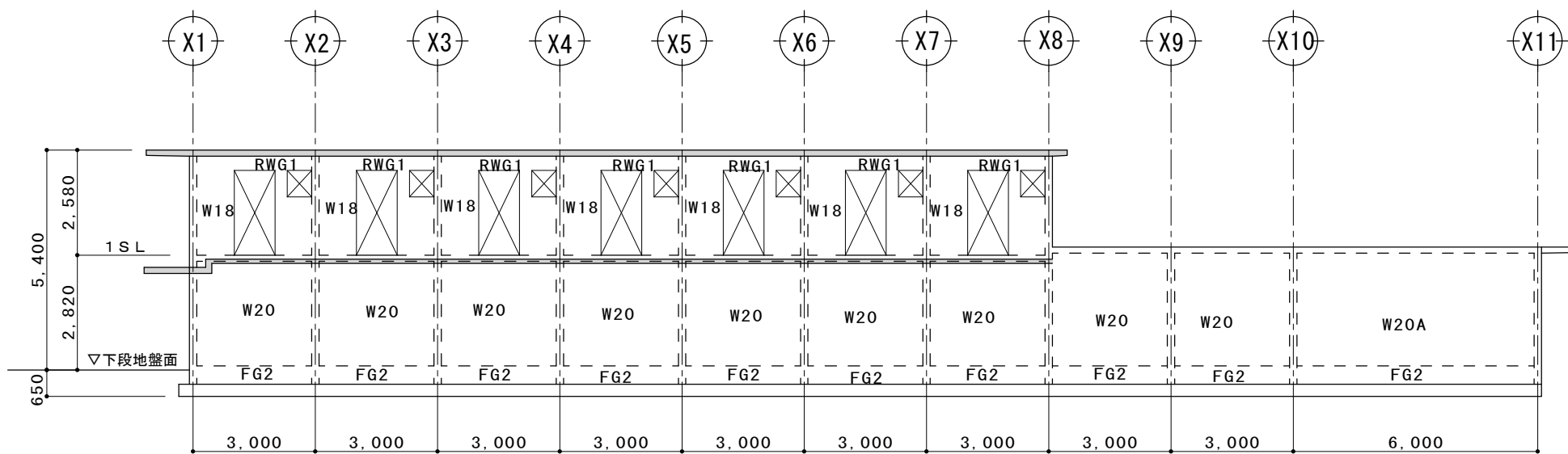


B 1 階 壁 ・ 1 階 梁 伏 図 S=1/150 特機なき壁はW18を示す。

摘要		T I M E				作成者	工事名称	一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/150
							図面名称	壁・梁伏図	図番	S-05
						承認				

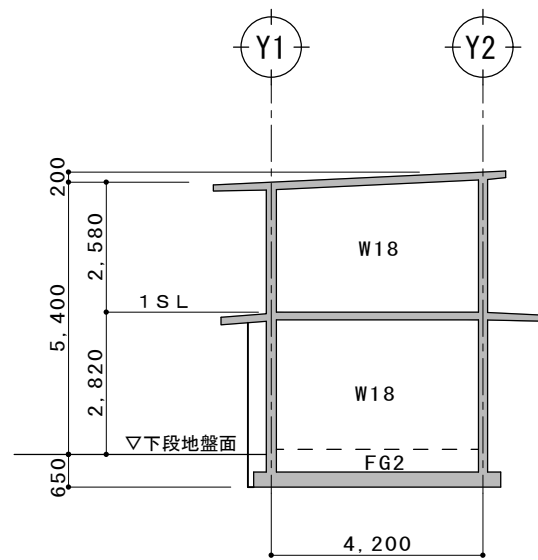


Y 2 通り軸組図 S=1/150

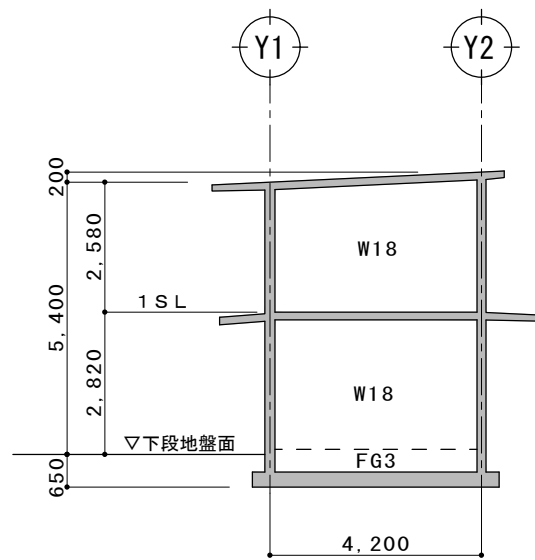


Y 1 通り軸組図 S=1/150

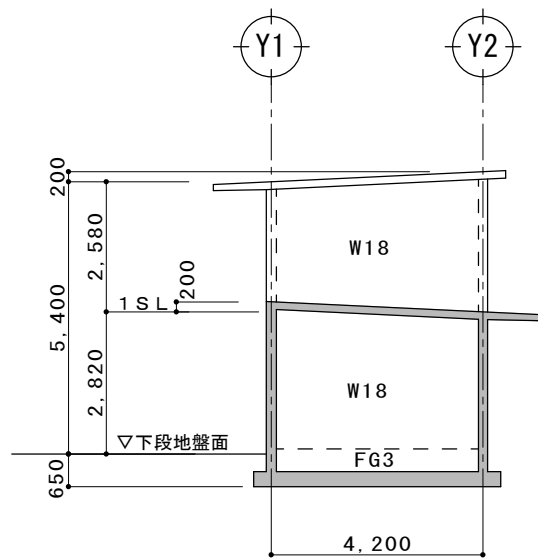
摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/150
								図番	S-06
						承認			



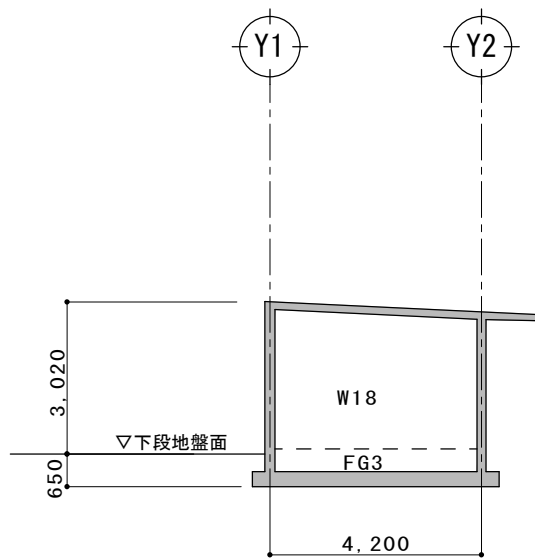
X 1 通り軸組図 S=1/150



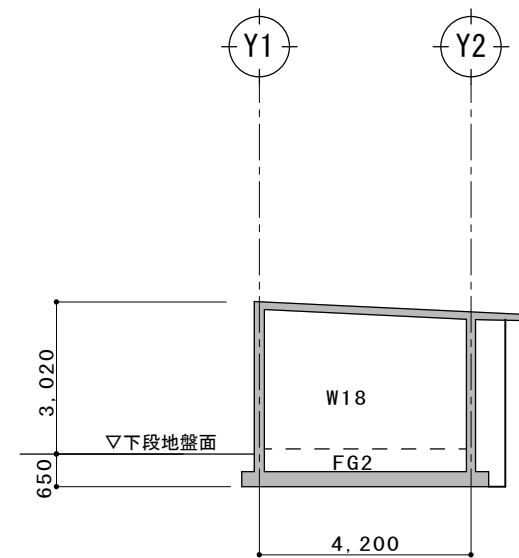
X 2 - X 7 通り軸組図 S=1/150



X 8 通り軸組図 S=1/150



X 9 - X 10 通り軸組図 S=1/150



X 11 通り軸組図 S=1/150

摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/150
								図番	S-07
						承認			

壁梁リスト

S=1/30

幅止め筋は、D 1 0 @ 1 0 0 0 以下とする。

符 号	W G 1	W G 2
位 置	全 断 面	
R 階		
上 端 筋	2-D 1 3	
下 端 筋	2-D 1 3	
ス タ ー ラ ッ プ	D 1 0 @ 2 0 0	
横 筋	4-D 1 0	
位 置	全 断 面	全 断 面
1 階		
上 端 筋	2-D 1 3	4-D 1 3
下 端 筋	2-D 1 3	4-D 1 3
ス タ ー ラ ッ プ	D 1 0 @ 2 0 0	D 1 0 @ 2 0 0
横 筋	4-D 1 0	4-D 1 0

壁リスト

S=1/30

壁長 1. 2 m 以下のタテ筋は壁配筋図に依る。

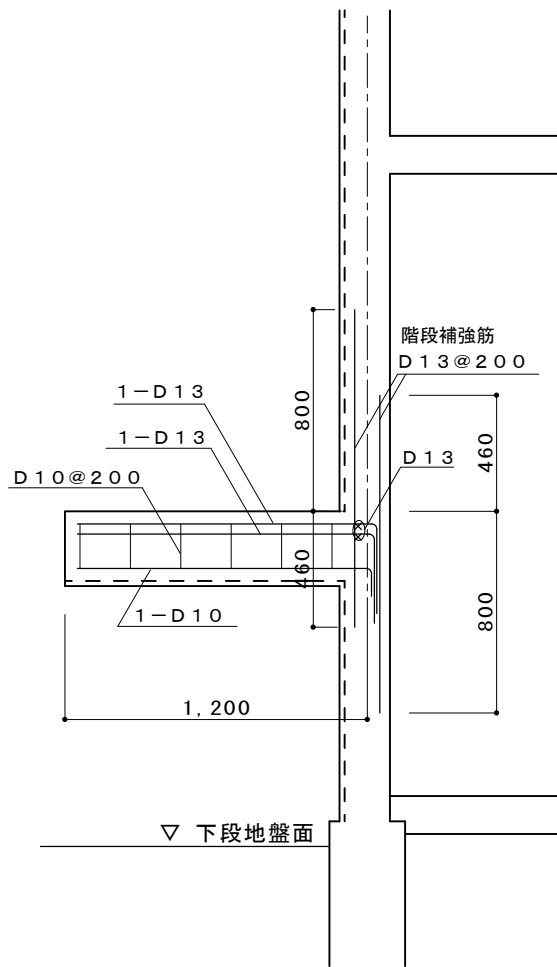
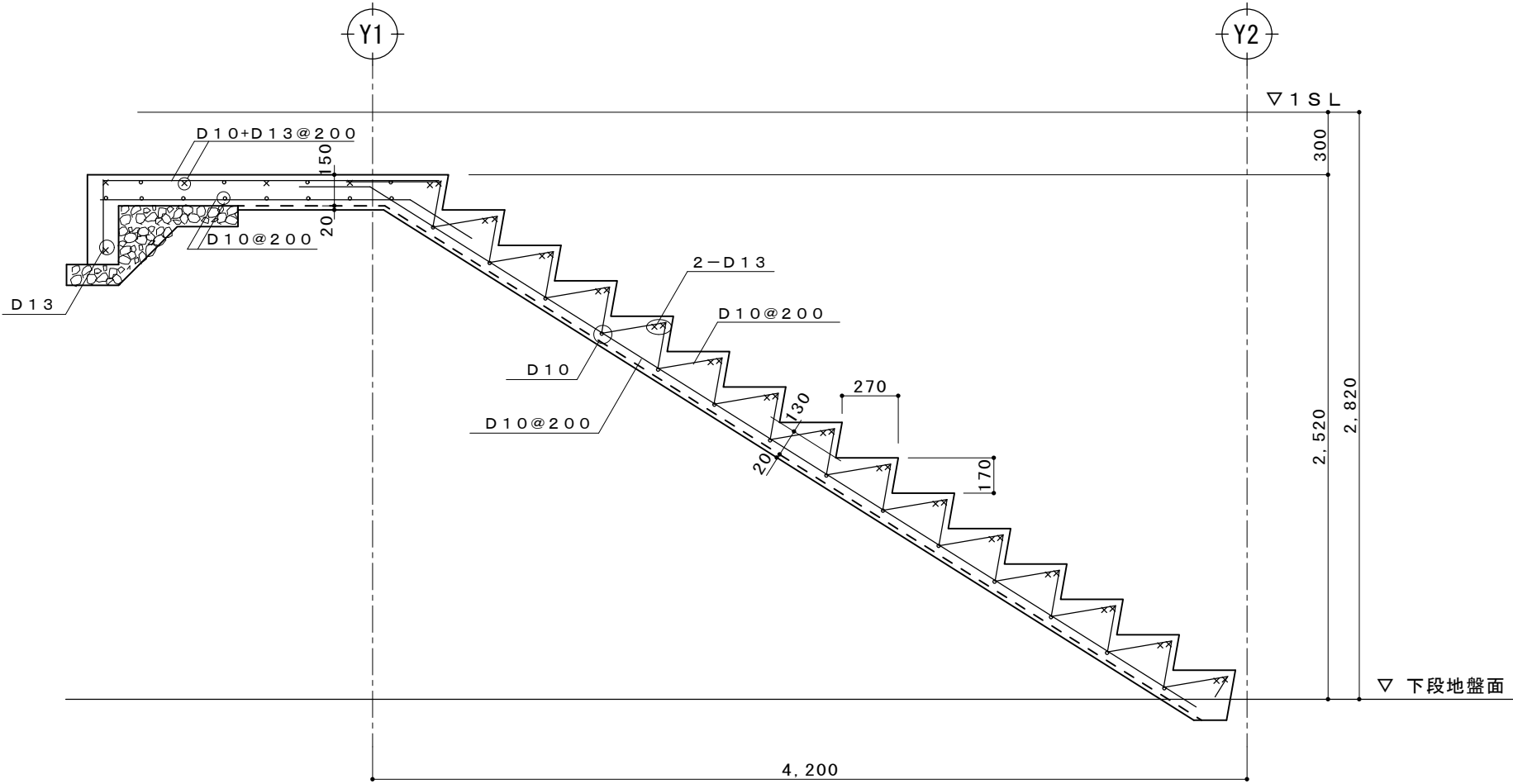
符 号	W 1 2	W 1 8	W 2 0	W 2 0 A	
断 面					
縦 筋	D 1 0 @ 2 0 0	D 1 0 @ 2 0 0	外部 D 1 3 @ 1 5 0 内部 D 1 0 @ 1 5 0	外部 D 1 3 @ 1 0 0 内部 D 1 0 @ 1 0 0	
横 筋	D 1 0 @ 2 0 0	D 1 0 @ 2 0 0	外部 D 1 3 @ 1 5 0 内部 D 1 0 @ 1 5 0	外部 D 1 3 @ 1 5 0 内部 D 1 0 @ 1 5 0	
開 口 補 強 筋	縦	1-D 1 3	曲げ補強筋（壁配筋図参照）	曲げ補強筋（壁配筋図参照）	
	横	1-D 1 3	2-D 1 3	2-D 1 3	
	斜め	1-D 1 3	2-D 1 3	2-D 1 3	
幅 止 筋		—	D 1 0 @ 1 0 0 0	D 1 0 @ 1 0 0 0 以下	D 1 0 @ 1 0 0 0 以下
開 口 補 強 筋			小 開 口 補 強 筋		

摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体） 図面名称 壁梁リスト 壁リスト	縮尺 1/30
							図番 S- 08
					承認		

符 号	厚 さ	位 置	短 辺 方 向 配 筋			長 辺 方 向 配 筋		
			端 部	中 央 部	周 辺 部	端 部	中 央 部	周 辺 部
S 1	150	上 端 筋	D 10+D 13@200			D 10+D 13@200		
		下 端 筋	D 10@200			D 10@200		

C S 1

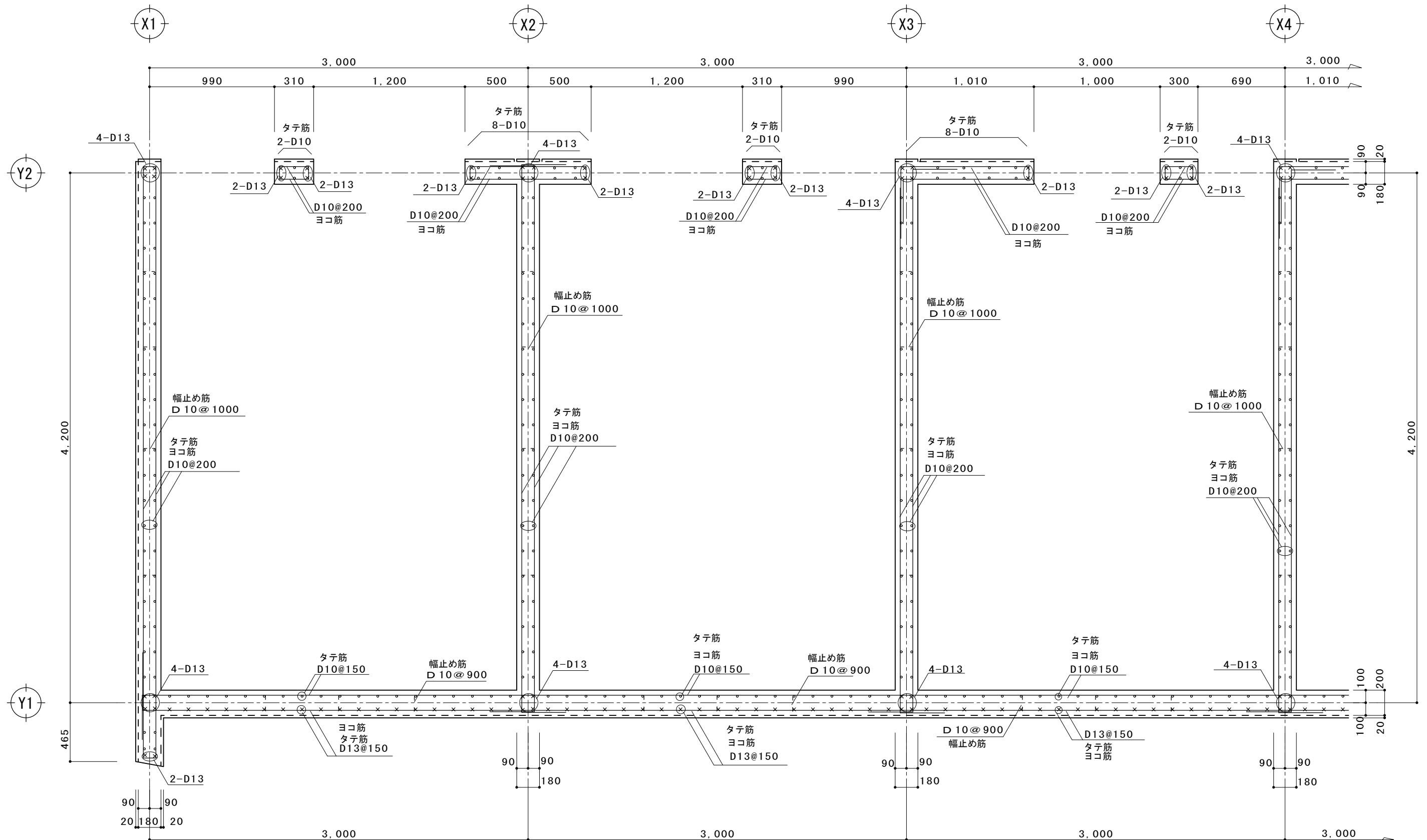
C S 2



階段配筋詳細図

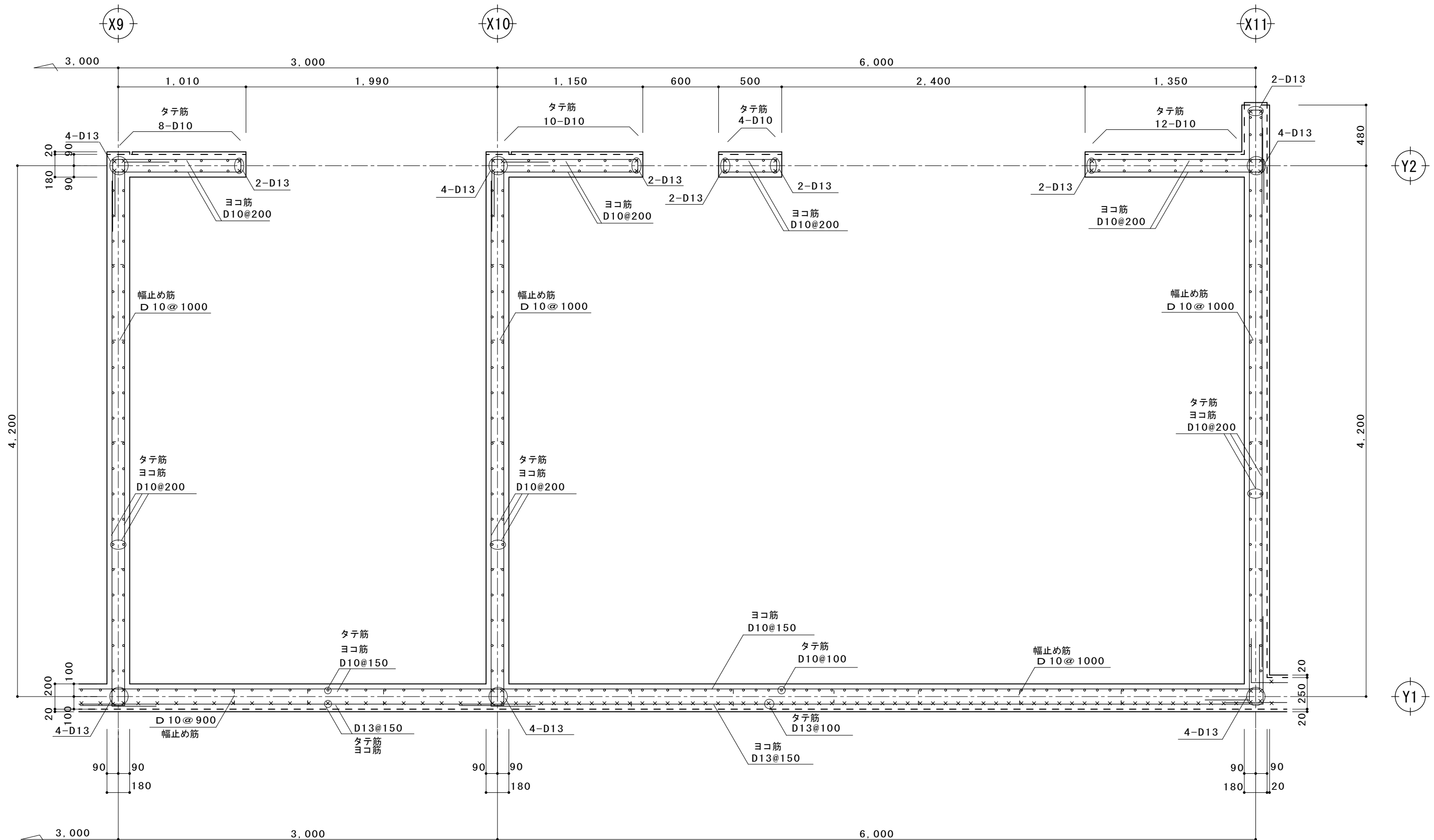
S=1/30

摘要		T I M E		作成者	工事名称	一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/30
					図面名称	スラブリスト 階段配筋詳細図	図番	S- 09
				承認				



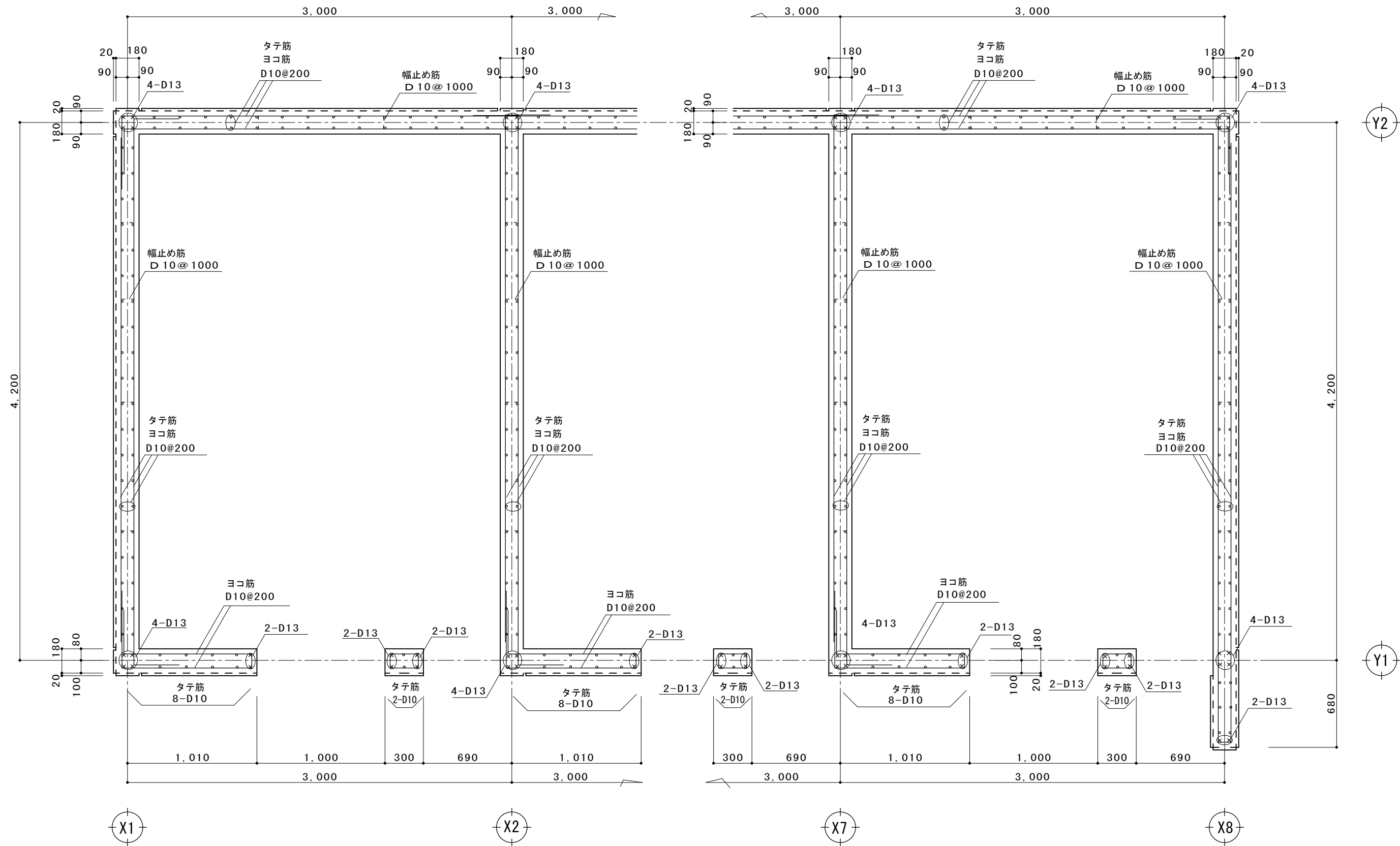
B 1 階壁配筋図 (1) S=1/30

摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)	縮尺 1/30
					承認	図面名称 B 1 階壁配筋図 (1)	図番 S-10



B 1 階壁配筋図 (2) s=1/30

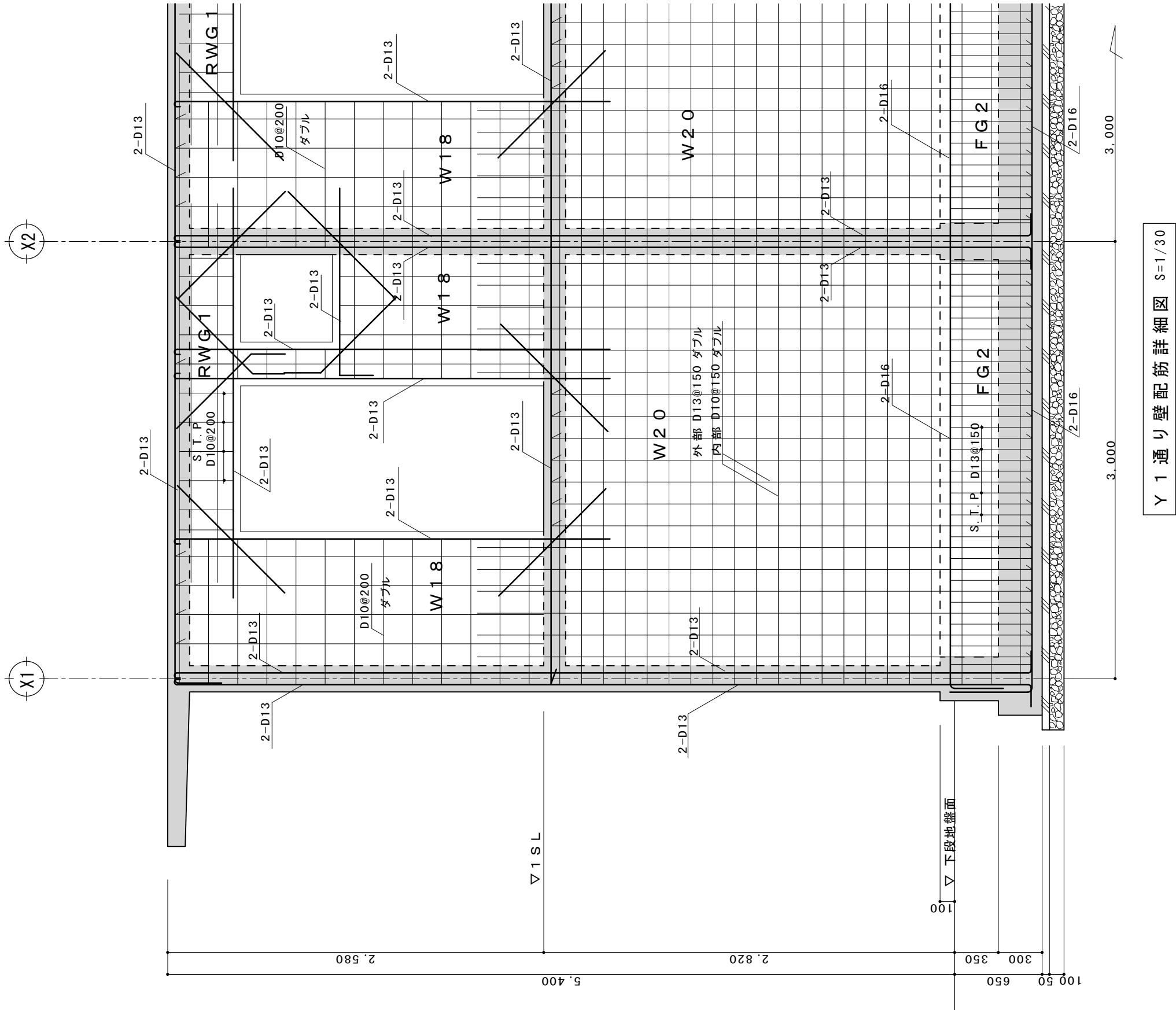
摘要	T・L・A・W・R	T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事 (建築主体)	縮尺 1/30
					承認	図面名称 B 1 階壁配筋図 (2)	図番 S- 11



1 階壁配筋図 S=1/30

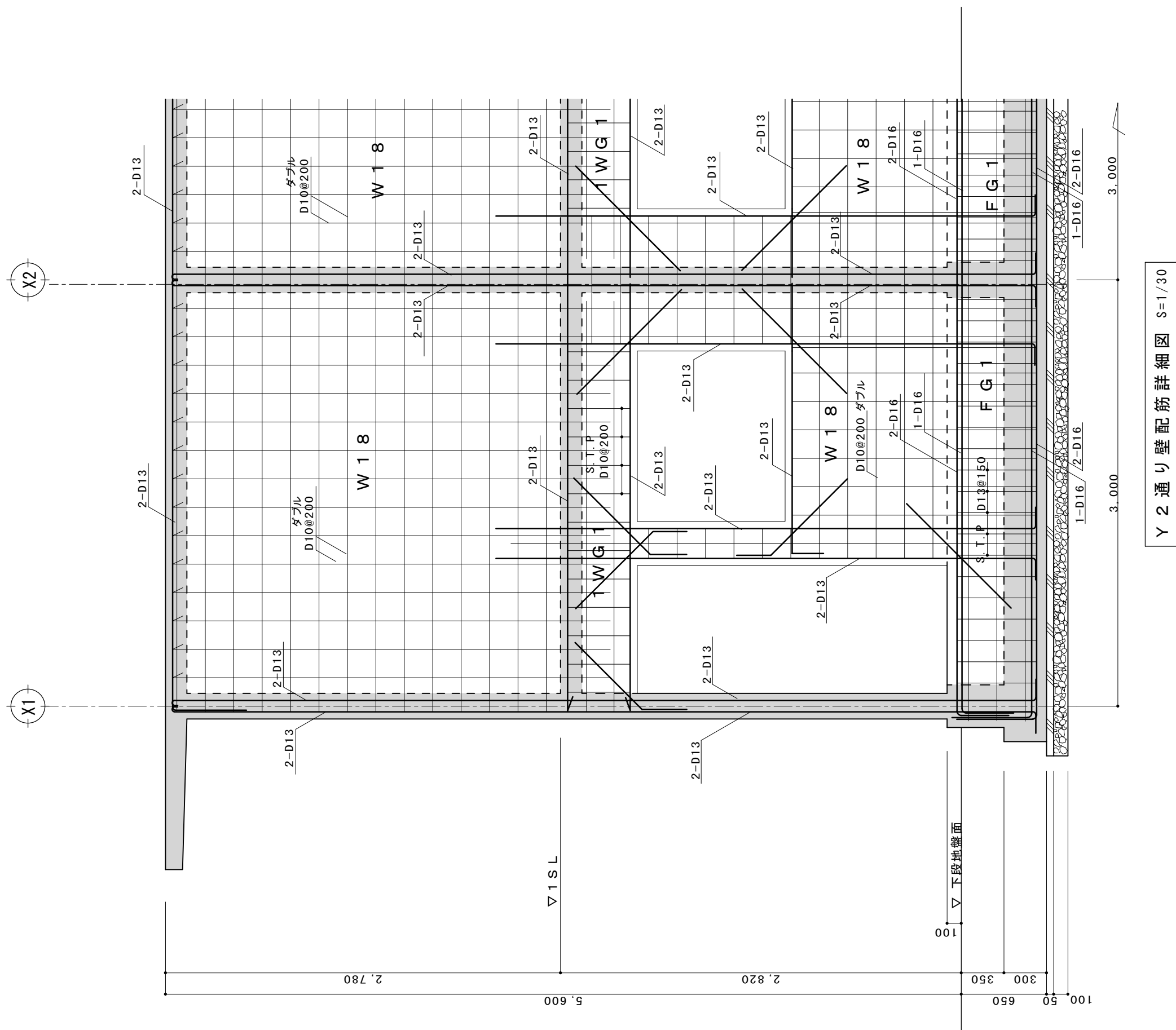
摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/30
					承認	図面名称 1 階壁配筋図	図番 S-12

摘要		TIME	作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）		縮尺 1/30
				図面名称 Y 1 通り壁配筋詳細図		図番 S-13
			承認			

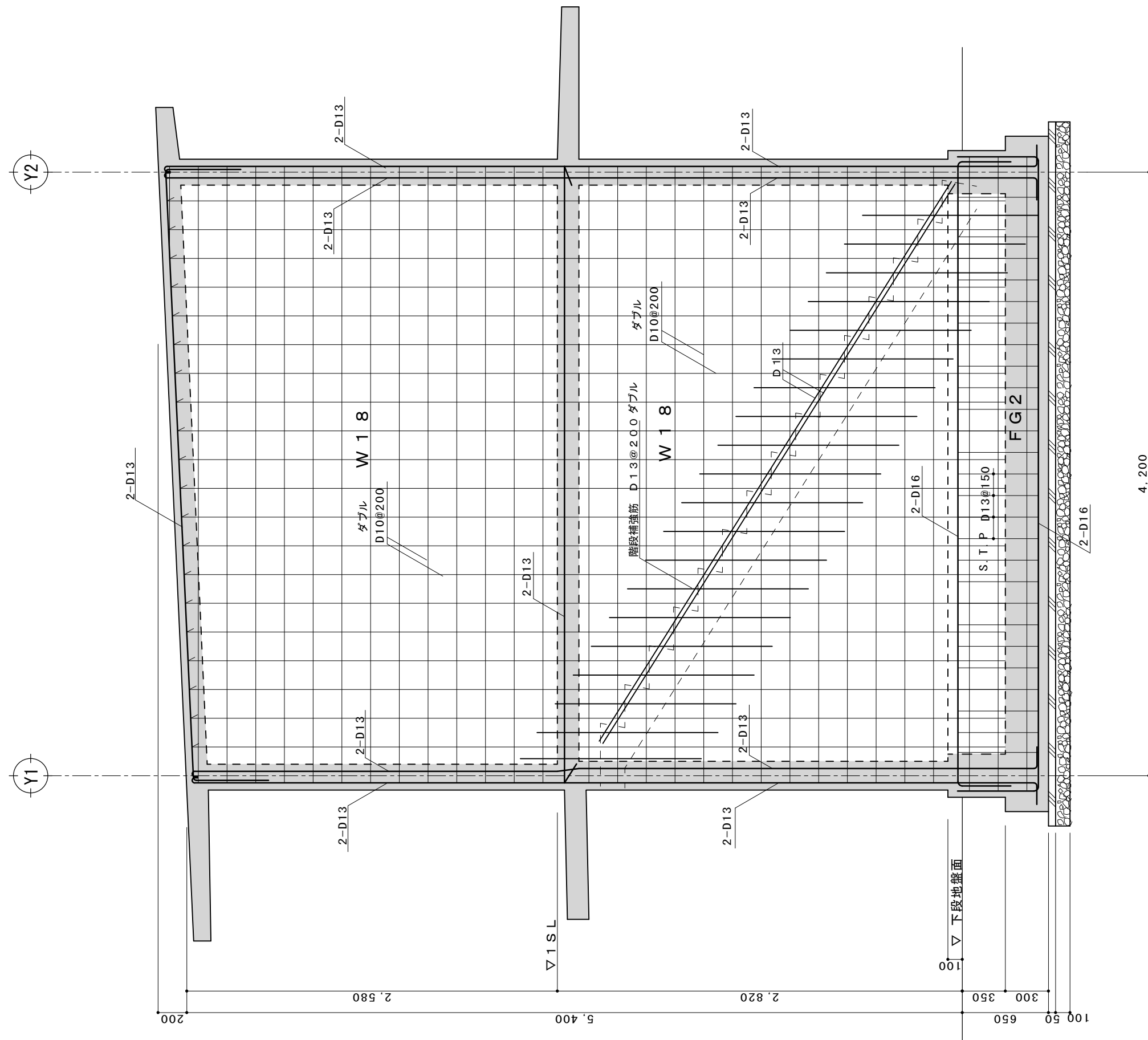


Y 1 通り壁配筋詳細図 S=1/30

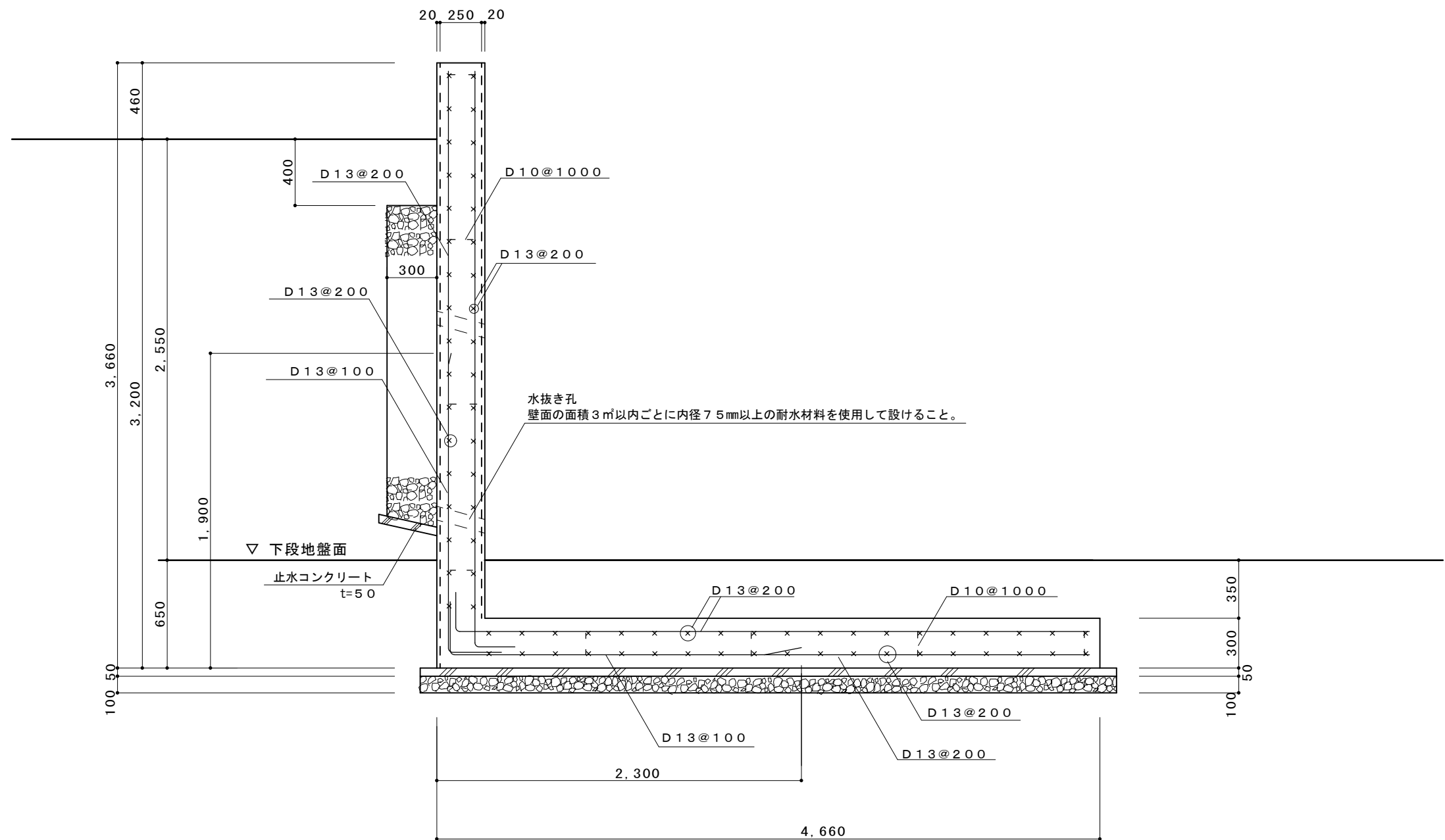
摘要 		T I M E	作成者	工事名称	一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/30
		<div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>	承認	図面名称	Y 2 通り壁配筋詳細図	図番	S-14



摘要		T I M E			作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺	1/30
						承認	図面名称 X 1 通り壁配筋詳細図	図番



× 1 通り壁配筋詳細 $S=1/30$



擁壁配筋図 S=1/30

摘要		T I M E				作成者	工事名称 一宮中学校部室棟改築工事（建築主体）	縮尺 1/30
							図面名称 擁壁配筋図	図番 S-16
						承認		